

ミズニラ *Isoetes japonica* A.Braum

【評価理由】

個体数階級 2、集団数階級 1、生育環境階級 4、人為圧階級 2、固有性階級 2、総点 11。全国的に減少傾向の著しい水草で、水のきれいなため池など減少傾向の著しい場所に生育している。

【形態】

夏緑性の水草。塊茎は長さ 5cm に達することがあり、中心から放射状に出る 3 条の溝で浅く 3 分する。葉は束生し、円柱状、長さ 15~30cm、先端は次第に細くなる。葉の基部は広がって、長さ 1.5cm、幅 1cm 程度の卵形になり、その部分の辺縁は薄い膜質、葉の付け根に胞子のうをつける。胞子には雌性の大胞子と雄性の小胞子がある。

【分布の概要】

【県内の分布】

東：3 東栄（芹沢 73855, 1997-6-11）、4 津具（芹沢 74852, 1998-8-22）、6 設楽西部（小林 57640, 1995-7-30）、8 鳳来北東部（小林 57859, 1995-8-19）、10 鳳来北西部（小林 59214, 1996-4-27）、11 作手（小林 53915, 1994-9-18）、12 新城（加藤等次 4160, 1003-10-20）、15 豊橋北部（小林 58563, 1995-10-22）、17 田原東部（芹沢 87199, 2011-8-3）、18 田原西部（瀧崎吉伸 26077, 2009-9-27）。西：5 稲武（小林 82829, 2004-9-11）。尾：37a 瀬戸（塚本威彦 2993, 2001-9-29）、42a 阿久比（花井隆晃 2493, 2005-10-22）、45 犬山（塚本威彦 1292, 1994-8-15）、48 春日井（村松正雄 27177, 2013-10-27）、50 名古屋北部（芹沢 77437, 2001-6-9）。2 豊根（坂宇場, 村松正雄 11557, 1992-8-16）にもあったが、生育していたため池が放棄されて水がなくなり、絶滅した。14 蒲郡（大塚町, 小林 26235, 1983-10-6）で採集された標本もある。東三河では比較的多いが、西三河は稲武以外では確認されておらず、尾張でも 5 区画で確認されているだけである。かつては名古屋周辺の丘陵地に普通に見られたという。

【国内の分布】

本州、四国（北部）。

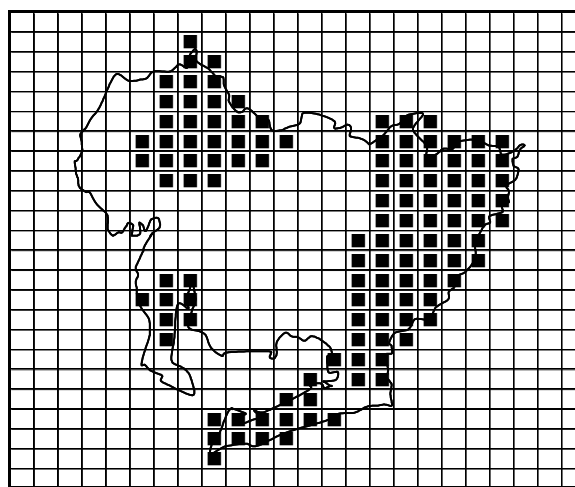
【世界の分布】

日本、朝鮮半島、中国大陆。

【生育地の環境／生態的特性】

ため池や流れのゆるやかな水路の水中に沈水状態で生育している場合もあるし、水田などの水湿地に挺水または半陸生状態で生育している場合もある。

要配慮地区図



	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩				
湿地	○	○		
水域	○	○		

【現在の生育状況／減少の要因】

丘陵地の開発、除草剤の使用等により激減し、一時はほとんど見られなくなったが、東三河ではやや復活傾向にある。一部の場所では、休耕田に群生している。

【保全上の留意点】

谷戸田の保全が必要である。東三河に比較的多いため県全体では準絶滅危惧と評価されたが、尾張では保全の必要性が高く、西三河中南部でも発見されれば同様である。

【特記事項】

目立ちにくい植物で花のないホシクサ類に似ているので、調査の際には特に注意を要する。東北地方南部、関東地方北部、近畿地方西部、中国地方東部、四国北部には、近縁種のミズニラモドキ *I. pseudojaponica* M.Takamiya et al. が分布している。

【関連文献】

保シダ p.21, 平シダ p.56, 学シダ I p.280, SOS 旧版 p.36+図版 23, SOS 新版 p.115,117.
倉田 悟・中池敏之(編). 1985. 日本のシダ植物図鑑 4: 84-88. 東京大学出版会, 東京.
高宮正之. 1999. ミズニラ属の自然誌と分類. 植物分類地理 50: 101-138.

ナガホノナツノハナワラビ *Osmundopteris stricta* (Underw.) M.Nishida

【評価理由】

個体数階級 3、集団数階級 3、生育環境階級 2、人為圧階級 2、固有性階級 1、総点 11。温帯性の植物で、愛知県では生育地も個体数も極めて少なく、存続の基盤が脆弱である。

【形態】

夏緑性の多年生草本。根茎は短く直立し、年に 1 枚、高さ 30～70cm の葉を出す。共通柄は長さ 15～25cm で、太いものは直径 1cm くらいになる。栄養葉は無柄、葉身は広三角形、長さ 15～30cm、2～3 回羽状に深裂し、ナツノハナワラビより切れ込みが浅く、深緑色である。孢子葉は穂状で細長く、2 回羽状、羽片は短く、密につく。孢子はナツノハナワラビより遅く、7 月頃熟す。

【分布の概要】

【県内の分布】

東：2 豊根（芹沢 87059, 2011-6-5）。西：5 稲武（芹沢 79312, 2004-8-4）、25 豊田北西部（村松正雄 87-146, 1987-10-4）。3 区画で確認されているが、稀である。

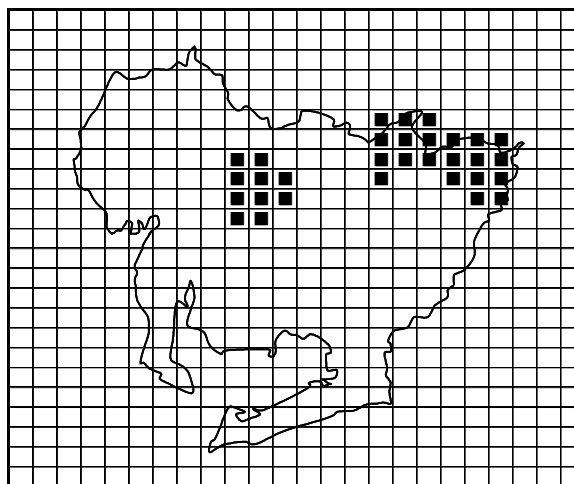
【国内の分布】

北海道、本州、四国、九州（南部を除く）。

【世界の分布】

日本、朝鮮半島、中国大陸。

要配慮地区図



【生育地の環境／生態的特性】

腐植質の多い林内。自然林に限らず、造林地、二次林内などにも生育している。通常あまり群生しない。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林	○			
草・岩				
湿地				
水域				

【現在の生育状況／減少の要因】

生育地点数が少ない上、どの場所も個体数が極めて少なく、散発的である。豊田北西部では 2 株確認されたにすぎない。しかし、他地域でも高密度に生育することの少ない植物なので、偶産ではない。森林の伐採による消滅が危惧される。

【保全上の留意点】

特別な環境の場所に生育しているものではないので、生育地の個別的な保全が必要である。

【特記事項】

近縁種のナツノハナワラビ *O. virginiana* (L.) Small も、愛知県では多いものではない。

【関連文献】

保シダ p.30, 平シダ p.69, 学シダ I p.290.
倉田 悟・中池敏之(編). 1990. 日本のシダ植物図鑑 6: 230-237. 東京大学出版会, 東京.

ハマホラシノブ *Odontosoria biflora* (Kaulf.) C.Chr.

【評価理由】

個体数階級 2、集団数階級 3、生育環境階級 3、人為圧階級 2、固有性階級 1、総点 11。海岸性のシダ植物で、愛知県では生育地が少ない。

【形態】

常緑性の多年生草本。根茎は短く匍匐し、赤褐色の細かい鱗片を密生する。葉は叢生し、葉柄は長さ 5~30cm、葉身は卵形で 3~4 回羽状に切れ込み、長さ 7~45cm、幅 3~25cm、革質に近く、先端は鋭尖頭でやや尾状に伸びることもある。羽片は 6~10 対、終裂片は倒卵形~倒斜三角形、葉縁の脈端に胞子のう群をつけるが、包膜が厚いため葉縁に開くように見える。

【分布の概要】

【県内の分布】

東：16 豊橋南部（福岡義洋 4241, 1998-6-29）、17 田原東部（小林 73815, 2001-10-6）、18 田原西部（芹沢 81163, 2006-11-25）。表浜沿いに点在するが、半島先端部の伊良湖岬周辺では見られない。

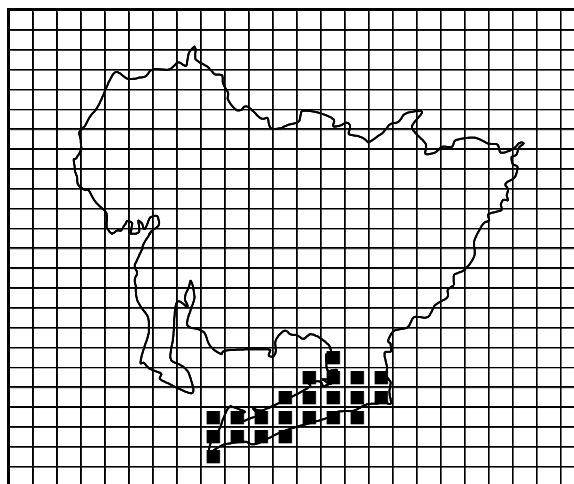
【国内の分布】

本州（関東地方南部~紀伊半島）、四国、九州、琉球、小笠原。

【世界の分布】

日本、台湾、中国大陸南部、フィリピン、マリアナ諸島。

要配慮地区図



【生育地の環境／生態的特性】

海岸の岩場や崖地に生育する。開けた場所のものは小型であるが、低木林内に生育しているものは葉身が 50cm 近くになる。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩				○
湿地				
水域				

【現在の生育状況／減少の要因】

点にしているがどこも個体数は少ない。

【保全上の留意点】

表浜海岸は浸食防止や観光開発のためにさまざまな工事が行われているので、その際には注意が必要である。

【関連文献】

保シダ p.50, 平シダ p.103, 学シダ I p.354.
倉田 悟・中池敏之(編). 1979. 日本のシダ植物図鑑 1: 170-178. 東京大学出版会, 東京.

イシカグマ *Microlepia strigosa* (Thunb.) C.Presl

【評価理由】

個体数階級 3、集団数階級 2、生育環境階級 2、人為圧階級 3、固有性階級 1、総点 11。暖地性の植物で、愛知県は分布域の北限に近い。県内では生育地も個体数も少ない。

【形態】

常緑性の多年生草本。根茎は長く匍匐し、黄褐色で長さ 2mm 程度の硬毛が密生する。葉柄は長さ 30～60cm、葉身は卵状長楕円形～広披針形で 2 回羽状複生し、長さ 20～80cm、幅 20～35cm、先端は鋭尖頭になる。羽片は 20 対をこえることがあり、大きいものは長さ 20cm、幅 4cm に達し、先端は尾状にのびる。下部の羽片は多少短くなる。羽軸の表面は無毛で、裏面には短毛が密生する。胞子のう群は葉縁に接してつく。

【分布の概要】

【県内の分布】

東：13 豊川（小林 79788, 2003-8-3）、14 蒲郡（堀田喜久 85-1714, 1985-11-30）、17 田原東部（村松正雄 11916, 1992-9-12）、18 田原西部（久納鉦一 156, 1999-4-4）。尾：41b 知多（鳥居ちゑ子 2583, 2007-7-25）、43 常滑（芹沢 76913, 2000-8-20）、51 名古屋南東部（堀田喜久 5499, 1996-9-14）。44b 南知多（山海, 芹沢 34278, 1982-4-18）で採集された標本もあるが、ここではその後の状況が確認されていない。

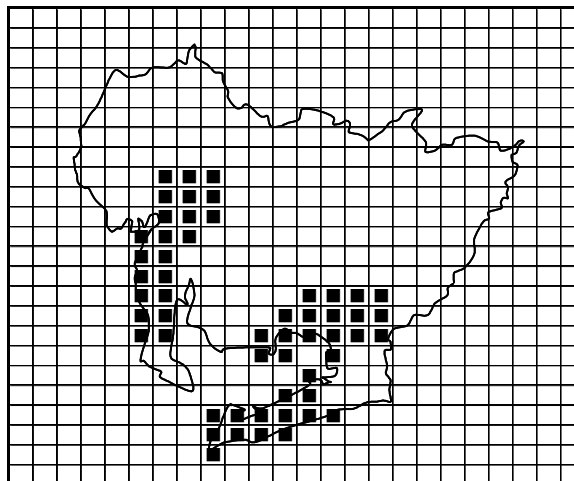
【国内の分布】

本州（千葉県南部、伊豆諸島、伊豆半島から西の海岸沿い）、四国、九州、琉球、小笠原。紀伊半島南部まで行けば普通に見られる植物である。

【世界の分布】

ヒマラヤ、スリランカからポリネシアにかけての熱帯・亜熱帯に広く分布する。

要配慮地区図



【生育地の環境／生態的特性】

海岸近くの林内や林縁に群生し、時には石垣の間などにも生育している。愛知県の生育地もどこにでもありそうな林縁で、特に自然度が高い場所というわけではない。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林		○		
草・岩		○		
湿地				
水域				

【現在の生育状況／減少の要因】

よく生育している場所も衰退している場所もあるが、現状は自然現象の範囲内であろう。本種のような雑草的な性質を持ったシダ植物は、分布域の北限付近では分布の拡大と消失を繰り返しているものと思われる。

【保全上の留意点】

潜在的生育地である海岸近くの丘陵地の自然を、全体として保全することが重要である。

【特記事項】

石垣や石ころだらけの所に生えるから、イシカグマという。「カグマ」はシダ類の古名である。

【関連文献】

保シダ p.50, 平シダ p.103, 学シダ I p.363.
倉田 悟・中池敏之(編). 1979. 日本のシダ植物図鑑 1: 170-178. 東京大学出版会, 東京.

ミヤマワラビ *Thelypteris phegopteris* (L.) Sloss. ex Rydb.

【評価理由】

個体数階級 2、集団数階級 3、生育環境階級 3、人為圧階級 2、固有性階級 1、総点 11。温帯性の植物で、県内では生育地が少ない上、開発の影響を受けて減少している。

【形態】

夏緑性の多年生草本。根茎は細く、長く横走する。葉柄は長さ 10～30cm、わら色で下部に鱗片がある。葉身は三角状長楕円形、2 回羽状深～全裂、長さ、幅とも 10～15cm、先端は鋭尖頭になる。羽片の基部裂片は最下羽片を除き中軸に流れ、そのため中軸に不連続な翼があるように見える。裂片は長楕円形から三角状、鋭頭から円頭である。胞子のう群は裂片の辺縁近くにつき、包膜は円腎形である。

【分布の概要】

【県内の分布】

東：2 豊根（村松正雄 15773, 1994-8-23）、3 東栄（芹沢 87386, 2011-9-24）、4 津具（村松正雄 24408, 2008-8-15）。西：20 足助（村松正雄 16760, 1996-5-25）。愛知県では小群落が点在するのみである。

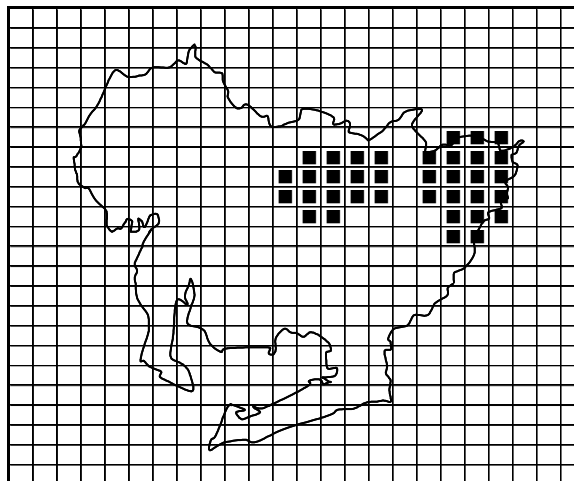
【国内の分布】

北海道、本州（中部地方以北）に多く、それより西では紀伊半島大峰山系、中国山地、九州（祖母山、屋久島）などに分布する。

【世界の分布】

北半球の温帯域に広く分布する。

要配慮地区図



【生育地の環境／生態的特性】

温帯林の林床や林縁に群生する。愛知県の場合、豊根はそのような環境であるが、東栄では低地の風穴周辺に生育しており、温帯性の植物が暖帯域の低地に生育する例として特に重要である。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林	○			
草・岩				
湿地				
水域				

【現在の生育状況／減少の要因】

豊根村では茶臼山に多かったが、スキー場の建設をはじめとする観光開発によって自生地的大部分が破壊され、ほとんど見られなくなった。東栄町では、現在のところ良好な状態で生育しているが、路傍のため道路拡幅等による影響が懸念される。

【保全上の留意点】

旧鳳来町北東部から東栄町にかけて点在する風穴の周辺には、低標高地であるにもかかわらず多くの温帯性植物が生育している。このような場所は、周辺の森林を含めて、特に注意して保全する必要がある。また、茶臼山一帯は温帯性植物の生育地として重要であり、自然とのふれあいの場を確保するという意味でも、これ以上の開発を避けるべきである。

【特記事項】

独立属 *Phegopteris* とする見解もある。

【関連文献】

保シダ p.107, 平シダ p.210, 学シダ I p.432, SOS 旧版 p.40.
倉田 悟・中池敏之(編). 1983. 日本のシダ植物図鑑 3: 286-294. 東京大学出版会, 東京.

ミヤマシケシダ *Deparia pycnosora* (H.Christ) M.Kato

【評価理由】

個体数階級 1、集団数階級 4、生育環境階級 2、人為圧階級 2、固有性階級 2、総点 11。温帯性の植物で、愛知県の 1 カ所にやや隔離的に分布しており、分布域の南限にあたる。

【形態】

夏緑性の多年生草本。根茎は斜上または直立し、葉を束生する。葉はやや 2 形になり、胞子のうをつける葉は葉柄が長く、直立し、つけない葉は葉柄が短く、開出または斜上してつく。葉柄は長さ 10~20cm、基部に鱗片があるほかはほとんど無毛である。葉身は長楕円形で 2 回羽状深裂し、長さ 35~60cm、幅 10~20cm、先端は鋭尖頭、下部は次第に狭くなるが、通常基部羽片が極端に短くなることはない。胞子のう群は裂片の中肋の両側にならんでつき、包膜は半月形である。

【分布の概要】

【県内の分布】

西：23 藤岡（塚本威彦 1722, 1995-9-22）、25 豊田北西部（畑佐武司 28, 1994-9-8）。尾：37a 瀬戸（村松正雄 84-222, 1984-10-14）。3 区画にまたがるが実質は猿投山が唯一の自生地、そのため集団数階級は 4 となっている。猿投山では、豊田市側には多いが、藤岡、瀬戸側では少ない。

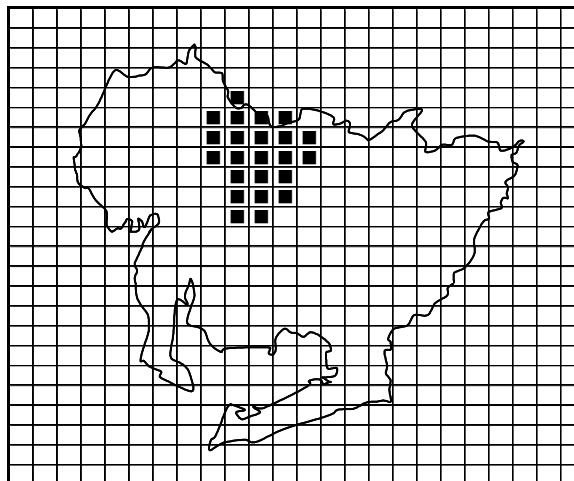
【国内の分布】

北海道および本州中部以北に分布する。本州中部では内陸の山地に多く、日本海側の山地にはほとんど見られないが、太平洋側にも少ない。

【世界の分布】

日本、朝鮮半島、中国大陸。

要配慮地区図



【生育地の環境／生態的特性】

温帯の林内や林縁。猿投山では造林地の林内に多い。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林	○			
草・岩				
湿地				
水域				

【現在の生育状況／減少の要因】

生育範囲は狭いが、個体数は多く、生育状態も良好である。

【保全上の留意点】

本種は個体数が多いので、個体レベルの保護に限ればそれほど神経質になる必要はないと思われる。しかし、猿投山は本種に限らず注目すべき植物が多く、自然環境の総合的な保全が必要である。

【特記事項】

長野県中部まで行けば普通に見られる種類であるが、猿投山に隔離的に分布し、しかも多産するのは注目に値する。ハクモウイノデは県内の山地に広く分布するが、猿投山では極めて少ない。

【関連文献】

平シダ p.245, 学シダ II p.343.

ツクシイワヘゴ *Dryopteris commixta* Tagawa

【評価理由】

個体数階級 2、集団数階級 3、生育環境階級 3、人為圧階級 2、固有性階級 1、総点 11。日本列島で多様に分化しているイワヘゴ群の 1 種で、愛知県では生育地が少なく、しかもそのいずれもが人為的影響を受けやすい場所である。

【形態】

常緑性の多年生草本。根茎は太く、短く、直立して葉を束生する。葉柄は長さ 25～40cm、葉身の半分程度、密に鱗片をつける。葉柄の鱗片は光沢がなく、黒褐色～淡黒色である。葉身は倒披針形から長楕円状倒披針形、単羽状、長さ 40～80cm、幅 15～25cm、先端は鋭尖頭である。羽片は 17～20 対、幅 1～2.5cm、羽状に浅～中裂する。胞子のう群は羽片全面に散在し、包膜はあまり発達しない。

【分布の概要】

【県内の分布】

東：12 新城（芹沢 62418, 1992-8-15）、15 豊橋北部（小林 55841, 1995-2-18）。西：24 豊田東部（芹沢 69759, 1994-6-7）。ただし豊田東部は 1 株だけで、偶産的である。38b 日進（岩崎、犬飼 清 9558, 1989-5-30）にもあったが絶滅した。

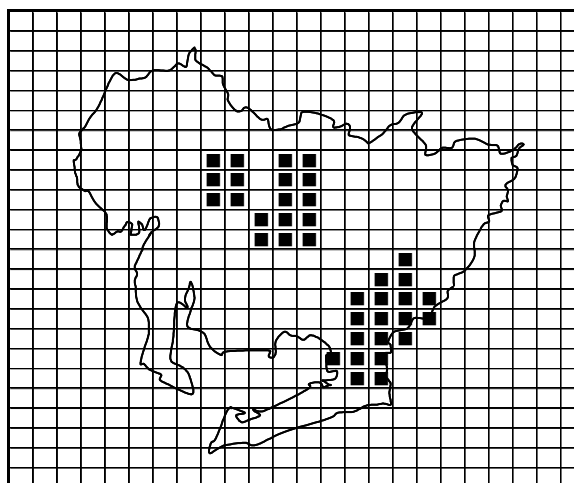
【国内の分布】

本州（石川県、千葉県以西）、四国、九州に分布するが、九州以外では少ない。

【世界の分布】

日本固有種。

要配慮地区図



【生育地の環境／生態的特性】

沢沿いの林内に生育する。愛知県の自生地は、いずれも造林地や二次林内である。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林	○	○		
草・岩				
湿地				
水域				

【現在の生育状況／減少の要因】

新城の集団は個体数が多いが、人里近くなので、開発行為の影響を受けるおそれがある。日進は小群落があったが、台風による倒木と伐採で絶滅した。

【保全上の留意点】

特別な環境の場所に生育しているものではないので、生育地の個別的な保全が必要である。

【特記事項】

イワヘゴからは、羽片が少なく、包膜があまり発達しないことで区別できる。

【関連文献】

保シダ p.93, 平シダ p.186, 学シダ II p.363.
倉田 悟・中池敏之(編). 1979. 日本のシダ植物図鑑 1: 428-433. 東京大学出版会, 東京.

ヌカイタチシダ *Dryopteris gymnosora* (Makino) C.Ch.

【評価理由】

個体数階級 2、集団数階級 3、生育環境階級 3、人為圧階級 2、固有性階級 1、総点 11。暖地性の植物で、愛知県では生育地が少なく、存続の基盤が脆弱である。

【形態】

常緑性の多年生草本。根茎は塊状となり、葉を束生する。葉柄は長さ 30～50cm、わら色または帯紅紫色、下部に黒褐色の鱗片をつける。葉身は卵状長楕円形～卵形、3 回羽状浅裂し、長さ 30～45cm、幅 15～30cm、先端へ向けてやや急に狭くなる。羽片や小羽片は中軸や羽軸に広い角度でつき、葉質は薄い紙質で淡緑色、若い葉は紅紫色で美しい。胞子のう群は葉身の中央部に多くつき、包膜はない。

【分布の概要】

【県内の分布】

東：10 鳳来北西部（芹沢 49868, 1988-8-24）、12 新城（村松正雄 26949, 2013-7-25）。西：28 額田（小林 80611, 2003-12-17）、29 岡崎北部（芹沢 47461, 1987-10-18）。尾：45 犬山（芹沢 85345, 2009-11-7）。いずれの区画でも生育地は少なく、個体数も多くない。

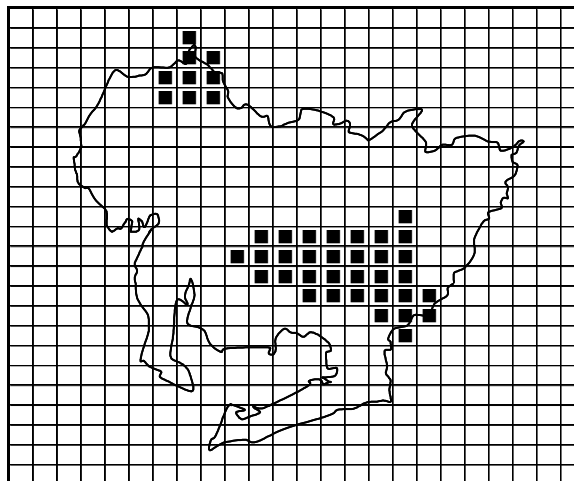
【国内の分布】

本州（関東地方以西）、四国、九州。

【世界の分布】

日本および中国大陸南部。

要配慮地区図



【生育地の環境／生態的特性】

沢沿いの林内。岩場や礫の多い場所に生育していることが多い。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林	○			
草・岩				
湿地				
水域				

【現在の生育状況／減少の要因】

現在のところ特に減少してはいないが、今後伐採や開発、砂防ダム建設等により減少する可能性は高い。

【保全上の留意点】

沢沿いの森林の保全が必要である。

【特記事項】

ベニシダ類は日本列島南西部で多様に分化し、無融合生殖複合群を作っているが、本種は其中で基本的な種の一つと考えられる。他のベニシダ類からは、葉質が薄く、胞子のう群が葉身の中央に多くつき、包膜がないことで容易に区別できる。

【関連文献】

保シダ p.105, 平シダ p.195, 学シダ II p.370.
倉田 悟・中池敏之(編). 1979. 日本のシダ植物図鑑 1: 452-456. 東京大学出版会, 東京.

ナンカイイタチシダ *Dryopteris varia* (L.) O.Kuntze

【評価理由】

個体数階級 3、集団数階級 3、生育環境階級 2、人為圧階級 2、固有性階級 1、総点 11。暖地性の植物で、愛知県では限られた範囲だけに生育しており、個体数も少ない。

【形態】

常緑性の多年生草本。根茎は短く塊状となり、少数の葉を束生する。葉柄は長さ 20～60cm、わら色で鱗片を密生する。葉柄基部の鱗片は赤褐色～暗赤褐色で光沢がある。葉身は広卵形～五角状広卵形で 2 回羽状複生し、長さ 30～60cm、幅 20～40cm、先端は急に狭くなって長鋭尖頭となる。羽片は線状披針形、基部から先に向かって狭くなる。葉質はやや厚く革質、表面は光沢があることもないこともある。孢子のう群は大きく、包膜は円腎形である。

【分布の概要】

【県内の分布】

尾：44a 美浜（犬飼 清 7545, 1986-1-3）、44b 南知多（芹沢 62703, 1992-8-25）。この区画には点在するが、個体数は少ない。渥美半島にもありそうだが、典型的なものはまだ発見されていない。

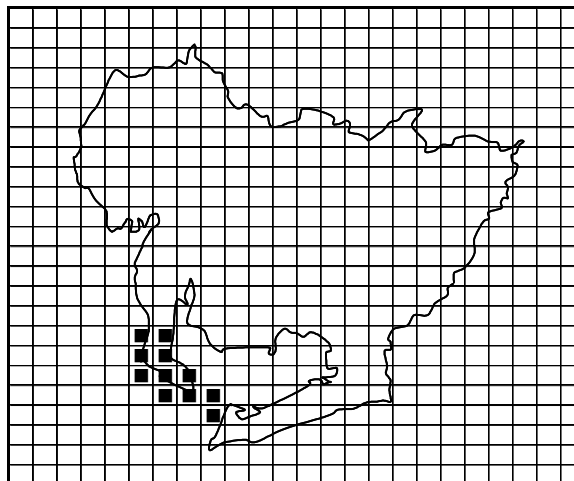
【国内の分布】

本州（千葉県南部以西）、四国、九州、琉球に分布し、海岸～近海地に多い。

【世界の分布】

日本からフィリピン、インドシナ、インドにかけて分布する。

要配慮地区図



【生育地の環境／生態的特性】

造林地や二次林の林床、林縁の崖地などに生育している。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林		○		
草・岩				
湿地				
水域				

【現在の生育状況／減少の要因】

少数の個体が点在しているため状況を把握しにくい、丘陵地の開発の影響を受けて減少していることは確実である。

【保全上の留意点】

潜在的生育地である海岸近くの丘陵地の自然を、全体として保全することが重要である。

【特記事項】

他のイタチシダ類からは、葉の切れ込みが浅く、葉身の先端が尾状にのび、鱗片が赤褐色であることで区別できる。

【関連文献】

保シダ p.100, 平シダ p.196, 学シダ II p.367.
倉田 悟・中池敏之(編). 1979. 日本のシダ植物図鑑 1: 512-518. 東京大学出版会, 東京.

ホテイシダ *Lepisorus annuifrons* (Makino) Ching

【評価理由】

個体数階級 2、集団数階級 3、生育環境階級 3、人為圧階級 2、固有性階級 1、総点 11。自然度の高い森林に依存する温帯性の植物で、県内では生育地が少なく、また伐採などの影響を受けやすい。

【形態】

夏緑性のシダ植物。根茎は横にはう。葉柄は緑色～わら色で長さ 3～5cm、葉身は単葉で披針形、黄緑色、基部はくさび形、多くは中央より下で最も幅広く、先端に向けて次第に狭くなり、大きなものは長さ 20cm、幅 3cm くらいになるが、愛知県の場合は長さ 10～15cm 程度である。葉縁は不規則に波状になることが多い。胞子のう群は円形で直径約 2mm、中肋よりに 1 列に並んでつく。

【分布の概要】

【県内の分布】

東：1 富山（芹沢 67368, 1993-9-22）、2 豊根（芹沢 44563, 1986-9-30）。西：5 稲武（塚本威彦 2346, 1997-7-13）。4 津具（萩太郎山, 岡田善敏 s.n., 1948-7-4）、19 旭（伯母沢, 大原準之助 s.n., 1964-8-26）で採集された標本もある。

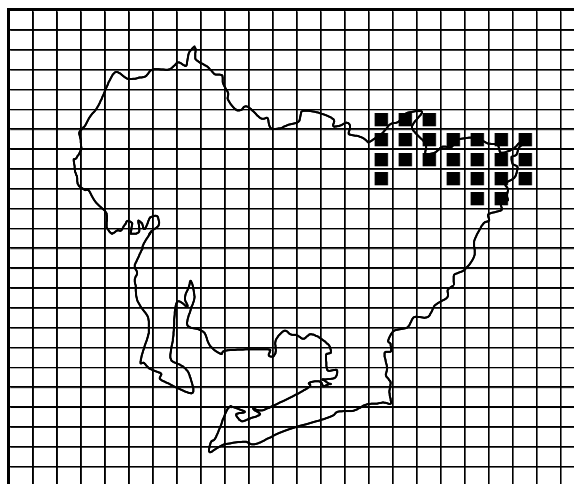
【国内の分布】

北海道、本州、九州の温帯域に分布する。

【世界の分布】

日本および朝鮮半島。

要配慮地区図



【生育地の環境／生態的特性】

温帯林のブナ、ミズナラなどの老木の樹幹に着生する。コケの多い岩上に生育することもある。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林	○			
草・岩				
湿地				
水域				

【現在の生育状況／減少の要因】

小形の植物だけに、個体数階級 2 でも量的には少ない。過去に森林の伐採により激減し、最近でも夏期の高温乾燥傾向によって次第に衰退して、現在に至っているものと思われる。

【保全上の留意点】

本種が生育できるような自然度の高い森林は、愛知県では僅かに残存するだけであり、現在残っている林は厳重に保全する必要がある。

【特記事項】

ウラボシ科は熱帯・亜熱帯に多く、本種のような温帯性で夏緑性の種は数少ない。和名は、幅の広い葉を布袋に例えたものである。

【関連文献】

保シダ p.157, 平シダ p.265, 学シダ II p.462.
倉田 悟・中池敏之(編). 1981. 日本のシダ植物図鑑 2:374-380. 東京大学出版会, 東京.

オオクボシダ *Micropolypodium okuboi* (Yatabe) Hayata

【評価理由】

個体数階級 2、集団数階級 2、生育環境階級 3、人為圧階級 2、固有性階級 2、総点 11。深山性の小形の植物で、伐採等の影響を受けやすく、採取圧もある。

【形態】

小型の常緑性のシダ植物。根茎は短く斜上し、数枚の葉を放射状につける。葉は短い柄があり、葉身は狭披針形から線形、長さ 5cm 程度かそれ以下のものが多く、羽状に深裂する。側裂片は長楕円形、両面に黒褐色～赤褐色のやや硬い開出毛をつける。胞子のう群は楕円形で、裂片の基部近くに 1 個ずつ並ぶ。

【分布の概要】

【県内の分布】

東：2 豊根（芹沢 87920, 2012-9-22）、4 津具（芹沢 83053, 2008-8-24）、6 設楽西部（芹沢 82597, 2007-10-6）、8 鳳来北東部（村松正雄 24733, 2009-5-2）。西：5 稲武（村松正雄 17225, 1997-10-11）、21 下山（芹沢 84749, 2009-8-23）、28 額田（千賀敏之 s.n., 2010-12-6）、29 岡崎北部（高島貴聖 4, 2008-6-18）。尾：37a 瀬戸（村松正雄 21397, 2002-8-17）。1 富山、3 東栄にもあるという（小林 2006）。

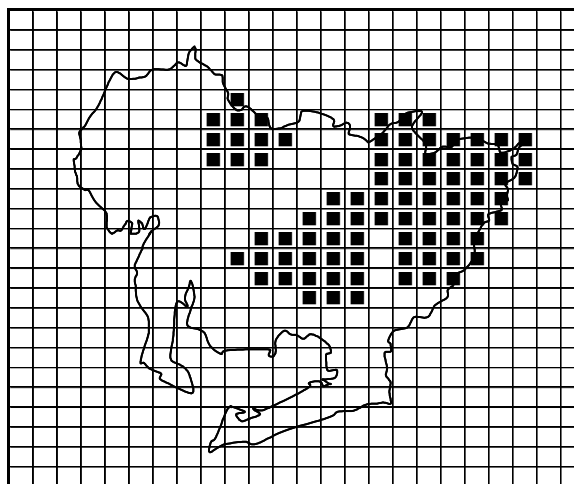
【国内の分布】

本州（関東地方以西）、四国、九州の山地に分布する。

【世界の分布】

日本、台湾、海南島。

要配慮地区図



【生育地の環境／生態的特性】

山地の沢沿いの陰湿な岩上に、コケにまじって生育していることが多い。樹幹に着生することもある。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林	○			
草・岩				
湿地				
水域				

【現在の生育状況／減少の要因】

小形の植物であるため、個体数階級は 2 でも、実際の量はごく僅かである。尾張では 1 カ所にわずかに生育しているだけで、絶滅寸前であり、特に保護上の重要性が高い。沢沿いの森林の伐採によって生育できる環境が減少している上、マニアに採取されることも多い。

【保全上の留意点】

他の着生シダ植物と同様、空中湿度の高い環境を保全しなければ、本種の存続は望めない。その一方で、マニアの採取を防止するため、分布情報の公表に際し慎重な配慮が必要である。

【特記事項】

シダ植物の中では、最も小さいものの一つである。

【引用文献】

小林元男. 2006. 北設楽の植物 p.119. 愛知県林業試験研究推進協議会, 新城.

【関連文献】

保シダ p.167, 平シダ p.281, 学シダ II p.468.
倉田 悟・中池敏之(編). 1981. 日本のシダ植物図鑑 2: 630-634. 東京大学出版会, 東京.

ウラジロモミ *Abies homolepis* Sieb. et Zucc.

【評価理由】

個体数階級 2、集団数階級 3、生育環境階級 3、人為圧階級 2、固有性階級 1、総点 11。温帯性の樹木で、自然林の構成樹種である。愛知県では生育地、個体数ともに少ない。

【形態】

常緑性の高木。幹は高さ 30～40m、直径約 1m になる。樹皮は灰色～灰褐色、鱗片状にはがれる。若枝は黄褐色で毛がない。葉は線形でやや扁平、長さ 10～25mm、幅 2～3mm、先端は鈍形～凹形、表面は濃緑色、裏面には 2 条の白色で幅広い気孔帯がある。花期は 5～6 月、雄花は楕円形で長さ 1～3cm、黄褐色、雌花は長円柱形で長さ 5～6mm、紫赤色である。毬果はその年の秋に熟し、直立して長楕円状円柱形、長さ 7～12cm、直径 3～4cm である。

【分布の概要】

【県内の分布】

東：2 豊根（村松正雄 24419, 2008-8-15）、4 津具（芹沢 86546, 2010-10-23）。愛知県では、茶臼山周辺の限られた範囲に生育しているだけである。

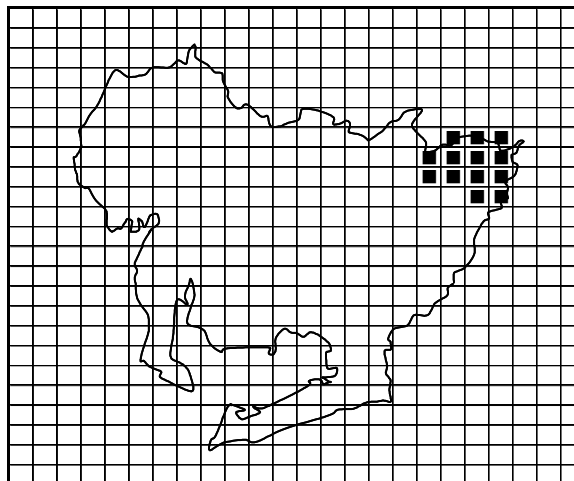
【国内の分布】

本州の太平洋側（東北地方南部～紀伊半島）および四国。

【世界の分布】

日本固有種。

要配慮地区図



【生育地の環境／生態的特性】

標高 1,000～2,000m の山地に、ふつうは落葉広葉樹と混交林を作って生育する。一般に、モミよりは標高が高く、シラベよりは標高の低いところに見られる。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林	○			
草・岩				
湿地				
水域				

【現在の生育状況／減少の要因】

生育範囲は狭く、高木であるだけに成木の個体数も少ない。現地の自然林は、過去の牧場開発、観光開発、拡大造林などによって狭められ、現在は急傾斜地などに残存するだけである。

【保全上の留意点】

自然林は愛知県では僅かに残存するだけであり、現在残っている林は厳重に保全する必要がある。また、茶臼山周辺は、愛知県の中では希少な温帯性植物が、集中して生育している場所である。自然とのふれあいの場を確保するという意味でも、これ以上の開発を避けるべきである。

【特記事項】

若枝に毛がないことが特徴で、この点でモミやシラベから区別できる。

【関連文献】

保木Ⅱ p.442, 平木Ⅰ p.9, 平新版Ⅰ p.29.

コウヤマキ *Sciadopitys verticillata* (Thunb.) Sieb. et Zucc.

【評価理由】

個体数階級 2、集団数階級 2、生育環境階級 3、人為圧階級 2、固有性階級 2、総点 11。岩崖地の自然植生を特徴づける種である。

【形態】

常緑性の高木。幹は高さ 30～40m、直径約 1m になる。樹皮は灰褐色～赤褐色、縦裂して長い鱗片状にはがれる。枝には長枝と短枝があり、長枝ははじめ淡緑色、のちに褐色となり、無毛、卵状三角形で褐色膜質、長さ 2mm 内外の鱗片葉がらせん状に付く。短枝は長枝のところどころに輪生し、先端に線状葉をつける。線状葉は長さ 6～12cm、幅 2～4mm、表面は深緑色、裏面は中央のくぼみに白色の気孔帯があり、その両側は緑色である。花期は 3～4 月、雄花は楕円形で長さ約 7mm、20～30 が密生する。毬果は翌年の秋に熟し、円筒状長楕円形で先は丸く、褐色、長さ 6～12cm、直径 4～6cm である。

【分布の概要】

【県内の分布】

東：3 東栄（芹沢 69654, 1994-6-3）、4 津具（村松正雄 26238, 2011-11-23）、6 設楽西部（小林 38263, 1992-7-12）、8 鳳来北東部（小林 36218, 1992-3-20）、11 作手（小林 55926, 1995-3-12）。西：19 旭（岡田兼光 3, 1996-6-18）、22 小原（日比野修 2910, 1995-6-18）、23 藤岡（日比野修 3584, 1996-7-7）。ただし小原と藤岡は逸出の可能性がある。

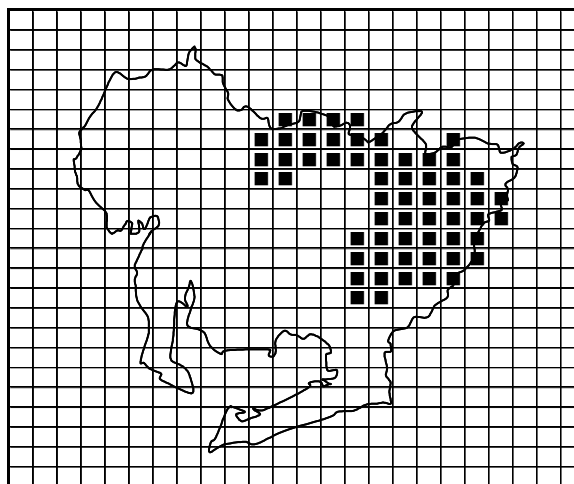
【国内の分布】

本州（福島県以南）、四国、九州（宮崎県まで）。観賞用として社寺、庭園などに植栽されることもある。

【世界の分布】

日本固有種。

要配慮地区図



【生育地の環境／生態的特性】

通常は山地の岩崖地ややせた尾根などに生育している。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林	○			
草・岩	○			
湿地				
水域				

【現在の生育状況／減少の要因】

まとまった集団は、人が近づきにくい急峻な場所に残存しているだけである。もともとはより広い範囲に生育していたが、有用樹として伐採され、現在の状態にまで減少したのではないと思われる。

【保全上の留意点】

現在残っている林は、厳重に保全する必要がある。

【特記事項】

日本固有の 1 科 1 属 1 種の植物である。新城市作手鴨ヶ谷甘泉寺には、国指定天然記念物とされている大木がある。

【関連文献】

保木 II p.422, 平木 I p.16, 平新版 I p.36, SOS 新版 p.42,44.

ネズミサシ *Juniperus rigida* Sieb. et Zucc.

【評価理由】

個体数階級 3、集団数階級 3、生育環境階級 3、人為圧階級 1、固有性階級 1、総点 11。岩崖地の自然植生を特徴づける種である。愛知県の丘陵地にはネズミサシとハイネズの浸透性交雑に由来すると推定されるオキアガリネズが広く分布しており、この地域の特徴の一つになっている。本種はその片親であり、地域の特徴的自然という観点から、遺伝的に純粋な集団の保全は重要な意味がある。なお、ここで準絶滅危惧としているのは純粋集団についてであり、オキアガリネズは対象外である。

【形態】

常緑性の高木または亜高木。幹は直立し、高さ約 10m、直径約 30cm になる。樹皮は灰褐色で、縦に裂け、薄い鱗片状になってはがれる。葉は針形で 3 輪生し、長さ 10～25mm、幅約 1mm、先はとがって固く、触れると痛い。表面は平らで、深い白色気孔帯がある。雌雄異株で、花期は 4 月、雄花は楕円形、長さ約 4mm である。毬果は翌年の秋に熟し、球形で肉質、直径 8～9mm、成熟したものは黒紫色で粉白をおびる。

【分布の概要】

【県内の分布】

東：3 東栄（小林 39939, 1992-10-10）、6 設楽西部（小林 41681, 1993-4-24）、7 設楽東部（戒田正敏 s.n., 1996-4-6）、8 鳳来北東部（芹沢 82165, 2007-9-2）。西：19 旭（近藤洋一朗 48-12, 1995-2-5）、21 下山（芹沢 92476, 2017-6-13）。4 津具（石田雄吉 57, 1979-5-6）で採集された標本もある。

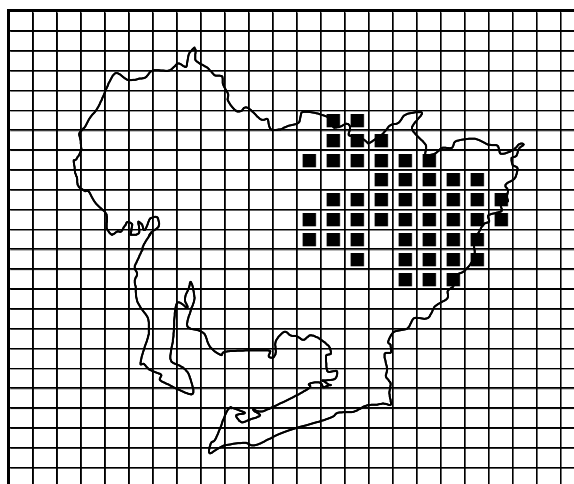
【国内の分布】

本州（岩手県以南）、四国、九州。

【世界の分布】

日本、朝鮮半島、中国大陸。

要配慮地区図



【生育地の環境／生態的特性】

山地の岩場に生育するほか、瀬戸内地方ではやせた丘陵地にも多く見られる。ただし、愛知県の場合、遺伝的に純粋な集団は山地に生育しているものだけで、丘陵地に生育しているものは多少なりともハイネズの遺伝子が入ったオキアガリネズである。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林	○			
草・岩	○			
湿地				
水域				

【現在の生育状況／減少の要因】

生育地は少なく、またどの自生地でも個体数が少ない。堅く緻密な材が得られるため、人が近づく場所に生育しているものは伐採されることがある。ただし、岩場など急峻な地形の場所に生育しているものは、当面消滅する可能性は少ない。

【保全上の留意点】

不用意な伐採や盗伐に対する注意が必要である。

【特記事項】

葉が針状で、ネズミの通り道に置くと刺して止めるから、ネズミサシという。単に「ネズ」と呼ばれることもある。

【関連文献】

保木Ⅱp.408, 平木Ⅰp.18, 平新版Ⅰp.40.

ヤナギスブタ *Blyxa japonica* (Miq.) Maxim. ex Asch. et Gurke

【評価理由】

個体数階級 2、集団数階級 2、生育環境階級 3、人為圧階級 3、固有性階級 1、総点 11。スブタ類の中では最も多かった種であるが、それでも最近、見かける機会が減少している。

【形態】

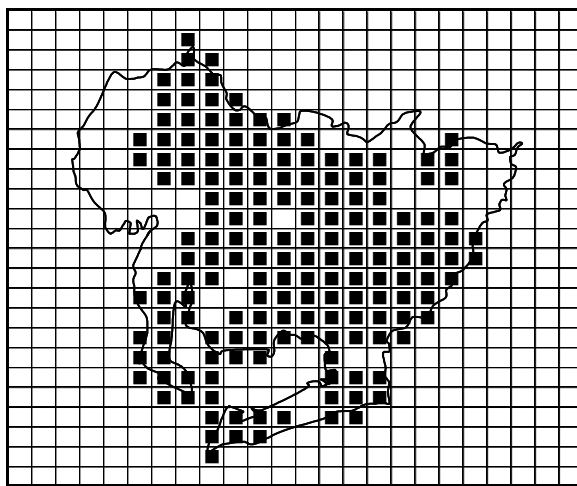
沈水性の 1 年生草本。茎は水中を伸びて分枝し、長さ 10～20cm のものが多いが、時には 30cm 以上になる。葉は密に互生し、線形、長さ 3～6cm、幅 1.5～2mm、辺縁には微小な鋸歯がある。花期は 9～10 月、花は葉腋につき、両性、包鞘は長さ 1.5～2cm、花弁は白色である。種子は楕円形、長さ約 1.5mm、平滑で突起もない。

【分布の概要】

【県内の分布】

東：4 津具（小林 39305, 1992-9-13）、8 鳳来北東部（加藤等次 2160, 1992-10-10）、10 鳳来北西部（小林 53561, 1994-9-9）、11 作手（芹沢 57409, 1990-9-28）、12 新城（芹沢 72229, 1995-8-20）、13 豊川（小林 39641, 1992-9-22）、16 豊橋南部（小林 70672, 2000-10-9）、18 田原西郷（芹沢 57937, 1990-10-23）。西：20 足助（塚本威彦 2078, 1996-8-31）、21 下山（芹沢 83605, 2008-10-17）、23 藤岡（鈴木 淳 281, 1993-8-21）、25 豊田北西部（鈴木 淳 340, 1993-8-25）、28 額田（芹沢 57131, 1990-9-21）、29 岡崎北部（芹沢 68065, 1993-9-25）、31 幸田（芹沢 50783, 1988-10-12）、32a 刈谷（芹沢 47313, 1987-10-8）、36 西尾南部（芹沢 71126, 1994-9-24）。尾：37a 瀬戸（芹沢 81106, 2006-10-7）、37b 尾張旭（村松正雄 11838, 1992-9-1）、38b 日進（半田多美子 1298, 1993-9-11）、42a 阿久比（芹沢 72333, 1995-10-3）、42b 半田（芹沢 76165, 1999-8-21）、44b 南知多（芹沢 64391, 1992-10-23）、45 犬山（村瀬正成 930990, 1993-10-4）、47 小牧（日比野修 4958, 1999-8-23）、48 春日井（村松正雄 18937, 1993-10-16）、50 名古屋北部（村松正雄 28148, 2015-10-5）。2 豊根（新井, 加藤等次 1966, 1968-9-22）、51 名古屋南東部（緑区徳重, 浜島繁隆 s.n., 1968-8-30）で採集された標本もある。

要配慮地区図



【国内の分布】

本州、四国、九州、琉球。

【世界の分布】

アジアに広く分布し、ヨーロッパに帰化している。

【生育地の環境／生態的特性】

丘陵地の水田やそのわきの水路に生育していることが多い。平野部の広い水田には見られない。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩				
湿地				
水域		○		

【現在の生育状況／減少の要因】

以前はあちこちで見ることができたが、最近はあまり見かけなくなっている。本種の生育できそうな丘陵地の谷戸田の消失が、減少の主要因と思われる。

【保全上の留意点】

谷戸田の保全が必要だが、現実問題としては難しい。

【関連文献】

保草本Ⅲp.393, 平草本Ⅰp.5, 平新版Ⅰp.119.

イトトリゲモ *Najas gracillima* (A.Braun ex Engelm.) Magnus

【除外理由】

個体数階級 1、集団数階級 2、生育環境階級 3、人為圧階級 3、固有性階級 2、総点 11。愛知県では生育地も個体数も比較的多かったが、最近減少傾向にある。

【形態】

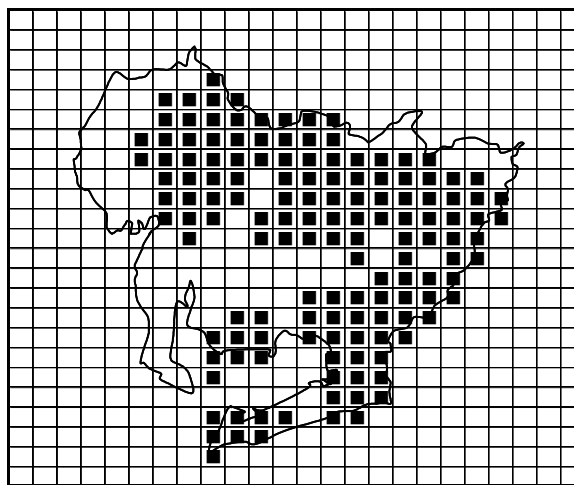
沈水性の 1 年生草本。茎は細く、よく分枝し、長さ 10~30cm になるが、折れやすい。葉は各節に 5 個ずつ輪生し、細く線形、長さ 1.2~2cm、幅約 0.2mm、辺縁には細鋸歯がある。葉の基部は葉鞘となり、葉鞘の先端は切形となる。花期は 6~9 月、雌雄同株で、各節に 1 個の雄花と 2 個の雌花がつく。果実は各節に 2 個並んでつき、それぞれ 1 個の種子がある。種子は長楕円形で長さ約 2mm、幅約 0.5mm、表面に縦に長い格子模様がある。

【分布の概要】

【県内の分布】

東：9 鳳来南部 (小林 62127, 1997-9-5)、12 新城 (小林 61915, 1999-8-13)、13 豊川 (小林 77253, 2002-11-19)、15 豊橋北部 (小林 70255, 2000-8-12)、18 田原西部 (芹沢 78186, 2002-10-3)。西：20 足助 (塚本威彦 2079, 1996-8-31)、21 下山 (芹沢 83084, 2008-8-26)、22 小原 (塚本威彦 1229, 1994-7-28)、24 豊田東部 (畑佐武司 2261, 2001-8-8)、36 西尾南部 (芹沢 81122, 2006-10-8)。尾：37a 瀬戸 (村松正雄 23273, 2006-8-30)、38a 長久手 (福岡義洋 1589, 1999-8-13)、47 小牧 (日比野修 4957, 1999-8-23)、48 春日井 (村松正雄 21464, 2002-10-3)、50 名古屋北部 (村松正雄 26185, 2011-10-2)、51 名古屋南東部 (渡辺幸子 3572, 1998-8-4)。3 東栄、設楽 (区画不明) (小林 2006)、16 豊橋南部 (小林 2001) にもあるという。ていねいに探せば、他のいくつかの区画でも確認されるものと思われる。その一方で、一部の区画ではすでに絶滅している可能性もある。

要配慮地区図



【国内の分布】

北海道南部、本州、四国、九州。

【世界の分布】

東アジアに分布する。

【生育地の環境／生態的特性】

ため池や谷戸田の小水路、時には水田の中などに生育している。海岸部の養魚場跡地などに生育していることもある。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩				
湿地				
水域	○	○		

【現在の生育状況／減少の要因】

目立たない植物であるが、注意して探せば愛知県ではあちこちに点在している。小さいため池を埋め尽くすほど生育していることもある。過去の分布情報が不十分なため、増減の傾向はよくわからない。一時は強力な除草剤が使用されなくなったためか、多少増加傾向にあるように思われたが、最近はまだ減少している。

【保全上の留意点】

本種が生育し続けることができるような落ち着いた谷戸田景観の保全は、重要な課題である。

【特記事項】

日本産トリゲモ類の中では最も繊細で、そのためイトトリゲモと呼ばれる。

【引用文献】

小林元男. 2001. 愛知県地域別植物誌(1) 豊橋市の植物 p.135. 愛知県植物誌調査会, 刈谷.
小林元男. 2006. 北設楽の植物 p.213. 愛知県林業試験研究推進協議会, 新城.

【関連文献】

保草本Ⅲ p.409, 平草本Ⅰ p.18, 平新版Ⅰ p.123, SOS 新版 p.126.
角野康郎.1994. 日本水草図鑑 p.53. 文一総合出版, 東京.

オオトリゲモ *Najas oguraensis* Miki

【評価理由】

個体数階級 2、集団数階級 2、生育環境階級 3、人為圧階級 3、固有性階級 1、総点 11。池沼に生育する水草で、県内では減少傾向が著しい。

【形態】

沈水性の 1 年生草本。茎は細く、長さ 50cm 以上になり、よく分枝するが折れやすい。葉は対生または 3 輪生、葉身は外側に曲がることもあまり曲がらないこともあり、線形、長さ 2~4cm、幅 0.3~0.7mm、質はやや硬く、辺縁にははっきりした鋸歯がある。葉の基部は長さ 2~4mm の葉鞘となり、葉鞘の先端は切形で小刺がある。花期は 7~9 月、雌雄同株で花は葉腋につき、雄花は苞鞘に包まれ、葯には 4 室がある。果実は各節に 1 個ずつつき、1 個の種子があり、種子は長楕円形、長さ 3~3.5mm、表面には横に長い網目模様がある。

【分布の概要】

【県内の分布】

東：14 蒲郡 (小林 79981, 2003-8-26)、16 豊橋南部 (小林 70307, 2000-8-19)、18 田原西部 (芹沢 78715, 2003-8-6)。西：19 旭 (塚本威彦 628, 1993-6-22)、25 豊田北西部 (土場トシ子 609, 1994-9-10)、36 西尾南部 (芹沢 82702, 2007-10-13)。尾：37a 瀬戸 (芹沢 82046, 2007-8-16)、37b 尾張旭 (村松正雄 21795, 2003-8-7)、40b 東浦 (中井三従美 23, 1989-8-19)、44a 美浜 (小林 54583, 1994-10-15)、50 名古屋北部 (鳥居ちる子 2363, 2003-9-3)、51 名古屋南東部 (中島ひろみ 918, 2009-9-5)。

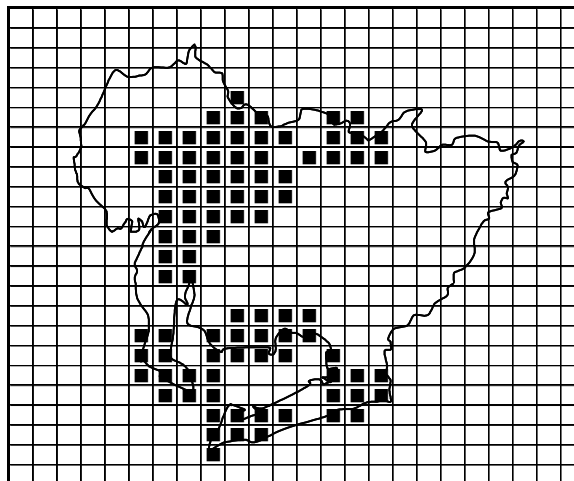
【国内の分布】

本州、四国、九州、琉球。

【世界の分布】

日本および中国大陸。

要配慮地区図



【生育地の環境／生態的特性】

湖沼やため池に生育する。しばしば水中で、こんもりと塊状になって生育している。愛知県における生育地はため池で、サガミトリゲモやイトトリゲモと異なり、水田やそのわきの水路には見られない。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩				
湿地				
水域		○		

【現在の生育状況／減少の要因】

県内ではいくつかのため池で確認されているが、どの池も水が汚れて透明度が低く、水面から繁茂している様子が確認できるような場所はない。詳細な生育状況は不明であるが、衰退傾向にあることは確実と思われる。

【保全上の留意点】

愛知県の丘陵地には多くの農業用ため池があり、水生生物の重要な生活場所になっている。しかし、幹線用水路の整備につれてため池に対する依存度が低下したため、埋め立てられたり、調整池として改修されたり、あるいは原形を保っていても生活排水が流入して汚染が進んだりしているものが多く、良好な状態を保っているため池はあまり残っていない。本種の場合も、生育地のため池を改修せずに保全すると共に、水質が現在以上に悪化しないよう、配慮が必要である。

【特記事項】

トリゲモ *N. minor* L. は本種によく似ているが、雄ずいの葯が 1 室であるという。角野 (1994) の分布図では豊橋付近に点が打たれているが、詳細はまだ確認していない。

【引用文献】

角野康郎. 1994. 日本水草図鑑 p.53. 文一総合出版, 東京.

【関連文献】

保草本Ⅲ p.408, 平草本Ⅰ p.18, 平新版Ⅰ p.123.

角野康郎. 1994. 日本水草図鑑 p.52. 文一総合出版, 東京.

シバナ *Triglochin asiatica* (Kitag.) A. et D. Lowe

【評価理由】

個体数階級 1、集団数階級 2、生育環境階級 3、人為圧階級 3、固有性階級 2、総点 11。特に西日本で減少傾向の著しい、塩湿地性の植物である。

【形態】

多年生草本。地下茎は太く、横にはい、よく分枝して株になる。葉は束生し、細い線形、長さ 10～40cm、幅 1.5～5mm、断面は半月形、先端は鈍頭、下部は葉鞘となる。葉鞘は白色で、先端に長さ 3～5mm の葉舌がある。花期は 9～10 月、花茎は高さ 15～50cm で直立し、その上部の長さ 5～15cm の総状花序に、多数の花をつける。花には花時に長さ 1.5～2mm、果時に長さ 2.5～5mm の柄があり、花被片は 6 枚、黄緑色、楕円形で長さ約 2.5mm、雄ずいと心皮も 6 個である。果実は 6 心皮が集まって長楕円形となり、長さ 3.5～4.4mm、先端に柱頭が残存する。

【分布の概要】

【県内の分布】

東：16 豊橋南部 (芹沢 90796, 2015-10-12)、17 田原東部 (小林 48828, 1993-10-26)、18 田原西部 (小林 48809, 1993-10-16)。西：36 西尾南部 (芹沢 81051, 2006-9-21)。尾：40b 東浦 (芹沢 71365, 1994-10-28)、41b 知多 (芹沢 77022, 2000-10-8)、52 名古屋南西部 (芹沢 83579, 2008-10-12)。35 西尾北部 (中根町, 芹沢 68925, 1993-10-29) にも生育していたが、ここでは現存を確認できない。43 常滑 (多屋海岸, 相羽福松 1329, 1982-10-23) で採集された標本もある。

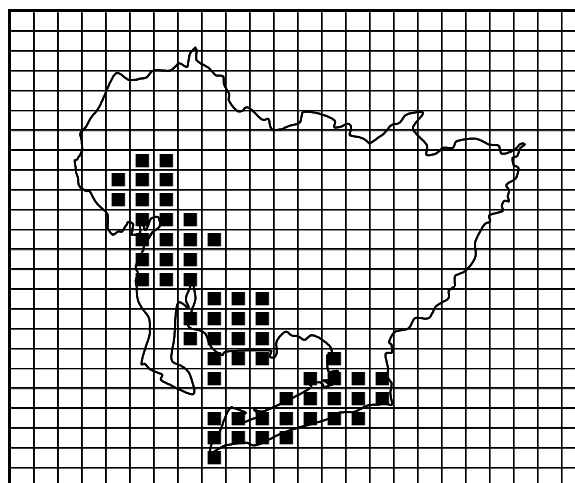
【国内の分布】

北海道、本州、四国、九州に生育する。北日本のものは、マルミノシバナとして区別されることがある。

【世界の分布】

北半球に広く分布する。

要配慮地区図



【生育地の環境／生態的特性】

河口や干潟などの塩湿地に生育する。自然度の高い塩湿地だけでなく、護岸堤防のすき間、埋め立て地の水路など、攪乱された場所に大きい群落を作っている場合もある。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩				
湿地				○
水域				

【現在の生育状況／減少の要因】

三河湾には点在しており、中にはかなり大きい群落もある。伊勢湾は 2 カ所で小群落が確認されているが、このうち知多は、「よくもこんなところに・・・」と思うほどの埋め立て地の水路である。名古屋南西部では庄内川河口に小群落があったが、河川改修工事により激減し、その後はヨシが繁茂して、2019 年秋には以前あった辺りに接近することができなかった。

【保全上の留意点】

内湾の塩湿地は、開発圧力が高く、全国的にも愛知県でも急激に減少している。現在残存している場所は、特に注意して保全する必要がある。本種の場合はやや攪乱された場所にも生育するので、種の存続という点に限れば準絶滅危惧と評価されるが、本来の生育地が失われているという状況は、より自然度の高い場所だけに生育する種と同様である。

【特記事項】

和名は、「塩場菜」という意味で、「芝菜」ではないと言われている。

【関連文献】

保草本Ⅲ p.405, 平草本Ⅰ p.9, 平新版Ⅰ p.127, SOS 旧版 p.90, SOS 新版 p.155,157.

エビアマモ *Phyllospadix japonica* Makino

【評価理由】

個体数階級 2、集団数階級 4、生育環境階級 2、人為圧階級 1、固有性階級 2、総点 11。外洋性の海産種子植物で、愛知県では生育地が局限されており、存続の基盤が脆弱である。

【形態】

沈水生の多年生草本。根茎は短く、多くの根を出して岩に固着し、密に葉と、古い葉が枯死した後に残る黒褐色の繊維をつける。葉は長い線形、長さ 25～55cm、幅 2～2.5mm、先は円頭で凹端である。花期は 3 月、花序は根茎から出た短い枝につき、葉鞘に包まれ、肉穂状、やや反り返って、辺縁に葯隔付属突起をつけ、雌雄異株、花は 1 個の雄ずいまたは雌ずいからなり、2 列に並ぶ。

【分布の概要】

【県内の分布】

東：17 田原東部（小林 74965, 2002-5-27）、18 田原西部（芹沢 52331, 1989-7-17）。尾：44b 南知多（篠島, 小林博人 24, 1938-7-10）で採集された標本もある。

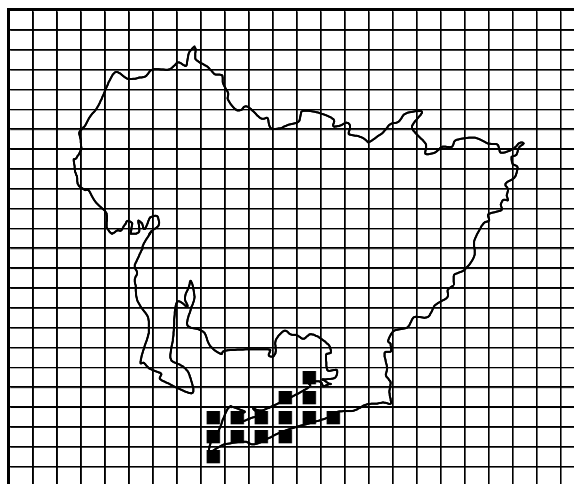
【国内の分布】

本州（関東地方北部以西）と九州北部に生育する。

【世界の分布】

日本固有種。

要配慮地区図



【生育地の環境／生態的特性】

海産の種子植物で、外洋に面した潮間帯～漸深帯の岩礁に生育する。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩				
湿地				
水域				○

【現在の生育状況／減少の要因】

愛知県では、もともと本種が生育できるような岩礁が少なく、生育地は局限されている。ただし、その場所では個体数は多い。外洋なので水質が変化するおそれは少ないが、観光地であるため、開発工事等により岩礁が破壊される可能性がある。

【保全上の留意点】

護岸工事や開発事業を計画する際には、特に配慮が必要である。地形を改変しなければ、当面は現状どおり存続するものと思われる。

【特記事項】

和名は、花序の形がエビに似ているからである。

【関連文献】

保草本Ⅲp.406, 平草本 I p.14, 平新版 I p.128, SOS 新版 p.159,161.

ヒルムシロ *Potamogeton distinctus* A.Benn.

【評価理由】

個体数階級 2、集団数階級 2、生育環境階級 3、人為圧階級 3、固有性階級 1、総点 11。人里近くに生育する水草で、近年減少傾向が著しい。

【形態】

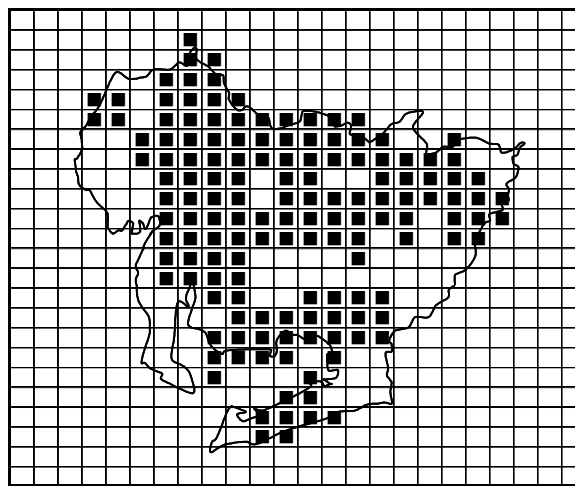
沈水性の多年生草本。水中茎は水田などでは長さ数 cm 程度のこともあるが、池中では 1m 以上に伸びる。葉は互生し、沈水葉は長さ 1~5cm の柄があり、葉身は長楕円形~線状披針形、長さ 1.5~8cm、浮葉は長い柄があり、葉身は楕円形~楕円状披針形、長さ 2~12cm、幅 1~4cm である。花期は 5~9 月、花序は穂状で、長さ 2~5cm である。秋に地下茎の先端に、バナナの房状の殖芽をつける。沈水葉にはっきりした柄があるのが特徴だが、浅い水中に生育するものは沈水葉をつけないことがある。

【分布の概要】

【県内の分布】

東：3 東栄 (芹沢 85000, 2009-9-22)、4 津具 (小林 45473, 1993-7-18)、6 設楽西部 (山崎玲子 2020, 1999-7-17)、13 豊川 (加藤等次 4100, 1993-10-19)、14 蒲郡 (小林 80232, 2003-9-23)、17 田原東部 (小林 47676, 1993-9-12)。西：19 旭 (塚本威彦 754, 1993-8-24)、22 小原 (塚本威彦 1244, 1994-7-23)、23 藤岡 (塚本威彦 385, 1992-9-22)、24 豊田東部 (佐藤久美子 379, 1993-5-15)、32a 刈谷 (芹沢 92640, 2017-7-10)、33 安城 (中根幸司 s.n., 2008-11-28)、36 西尾南部 (芹沢 71392, 1994-10-31)。尾：37a 瀬戸 (鈴木 淳 130, 1993-8-28)、37b 尾張旭 (鈴木 淳 224, 1993-8-15)、38a 長久手 (芹沢 78035, 2002-9-4)、38b 日進 (鈴木 淳 24, 1993-6-17)、40b 東浦 (中井三従美 21, 1989-8-19)、45 犬山 (福岡義洋 415, 1997-8-262)、48 春日井 (鈴木 淳 33, 1993-6-20)、50 名古屋北部 (中村 肇 1229, 2015-4-25, NBC)、51 名古屋南東部 (太田美根子 1, 1994-6-20)、54 一宮西部 (渡辺幸子 3223, 1997-9-16)。21 下山 (芹沢 84790, 2009-8-27) にもあったが、自生地は消失した。25 豊田北西部 (猿投山, 岡本英一 94, 1958-10-3)、39b 豊明 (田善敏 s.n., 1936-9-16)、53 一宮東部 (旧葉栗村, 沢井輝男 s.n., 1933-8-10) で採集された標本もある。

要配慮地区図



【国内の分布】

北海道、本州、四国、九州、琉球。

【世界の分布】

日本、朝鮮半島、中国大陆。

【生育地の環境／生態的特性】

フトヒルムシロが山間部の池沼に多いのに対し、本種は主として人里近くの池沼に生育する。水田雑草となることもある。

【現在の生育状況／減少の要因】

かつては普通に見られる水草であり、1990 年代にもまだあちこちで見ることができたが、水の汚れや帰化植物の繁茂、水域の埋め立てなどの影響を受けて激減している。名古屋市内ではほとんど絶滅し、他にもいくつかの区画ですでに絶滅しているかもしれない。「こんなものが？」と言われそうだが、平野部の水草を取り巻く状況はかくも厳しい。丘陵地のため池に生育するフトヒルムシロがあまり減少していないのと対照的である。

【保全上の留意点】

人里近くのため池の水質を維持すること、谷戸田を放棄しないことなどが必要だが、現実問題としてはどちらもなかなか困難である。もともとが水田雑草なので、条件がよければすぐ増加する。下山では移植保全したものが水田一面に拡がり、周囲にも拡散して、「一寸目をかけてやれば図に乗りやがって……」と悪口を言われている。

【関連文献】

保草本Ⅲ p.410, 平草本Ⅰ p.10, 平新版Ⅰ p.132.
角野康郎. 1994. 日本水草図鑑 p.33. 文一総合出版, 東京.

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩				
湿地				
水域		○		

イトモ *Potamogeton pusillus* L.

【評価理由】

個体数階級 1、集団数階級 2、生育環境階級 3、人為圧階級 3、固有性階級 2、総点 11。全国的に減少傾向の著しい水草で、愛知県でも生育地が少ない。

【形態】

沈水性の多年生草本。水中茎は細く、よく分枝する。葉は互生し、すべて沈水葉、無柄、葉身は狭線形、長さ 2~5cm、幅 0.7~1.5mm、先端は鋭頭、辺縁は全縁、1~3 脈があり、基部は葉鞘とならない。花期は 6~8 月、花茎は長さ 1~2cm、花序は穂状で、長さ 3~5mm である。花は両性、4 個の心皮がある。果実は広卵形、長さ約 2~2.5mm である。殖芽は秋に枝の先端につき、長さ 1.5~2.5cm、ホソバミズヒキモやナガレミズヒキモのものに比べてかなり大きく、中軸はやや太くなる。

【分布の概要】

【県内の分布】

東：8 鳳来北東部（加藤等次 3927, 1993-10-5）。西：21 下山（村松正雄 23358, 2006-9-18）、22 小原（芹沢 78117, 2002-9-15）、23 藤岡（芹沢 77966, 2002-8-6）、25 豊田北西部（鳥居ちゑ子 1383, 1998-8-5）、28 額田（芹沢 87341, 2011-9-11、発見は千賀敏之氏）。尾：37a 瀬戸（芹沢 75145, 1998-10-3）、38a 長久手（福岡義洋 s.n., 1999-8-13）、45 犬山（芹沢 78411, 2002-10-27）。15 豊橋北部にもあるという（小林 2001）。12 新城（旧八名村、鳥居喜一 9210, 1942-8-2, HNSM）で採集された標本もある。

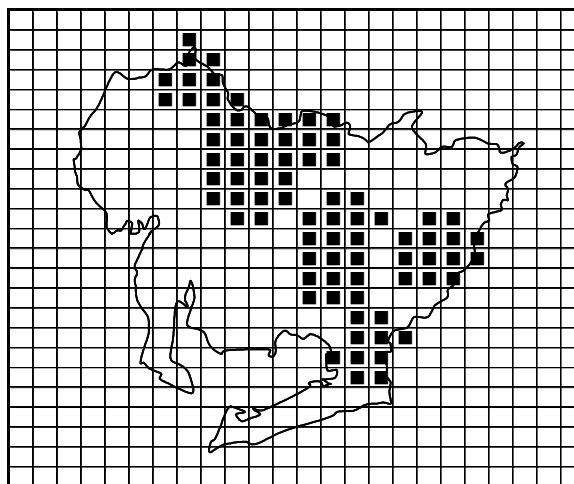
【国内の分布】

北海道、本州、九州（北部）。

【世界の分布】

全世界に広く分布する。

要配慮地区図



【生育地の環境／生態的特性】

池沼や水路に生育する。愛知県の生育地は、ほとんどが丘陵地のため池である。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩				
湿地				
水域		○		

【現在の生育状況／減少の要因】

生育地は少なく、個体数もそれほど多くない。

【保全上の留意点】

愛知県の丘陵地には多くの農業用ため池があり、水生生物の重要な生活場所になっている。しかし、本種が生育できるような生活排水の流入しない位置にあるため池は、一方で管理放棄により水がなくなっているものも多い。現在本種が生育しているため池を現状のまま維持するだけでなく、潜在的な生育地である良好な状態のため池をできるだけ多く保全することが必要である。

【特記事項】

ホソバミズヒキモやナガレミズヒキモ、あるいはそれらとヤナギモの雑種と混同されていることが多く、あちこちで記録されているが、実際の生育地は少ない。沿海地にあるものはツツイトモ *P. panormitanus* Biv. である。ツツイトモは 2009 年版では絶滅危惧 II 類として掲載したが、移入の可能性が高く、今回のレッドデータブックでは評価対象から除外した。

【引用文献】

小林元男. 2001. 愛知県地域別植物誌(1) 豊橋市の植物 p.134. 愛知県植物誌調査会, 刈谷.

【関連文献】

保草本Ⅲ p.416, 平草本Ⅰ p.12, 平新版Ⅰ p.133.

角野康郎. 1994. 日本水草図鑑 p.44. 文一総合出版, 東京.

カワツルモ *Ruppia maritima* L.

【評価理由】

個体数階級 1、集団数階級 2、生育環境階級 3、人為圧階級 3、固有性階級 2、総点 11。河口部などの水域に生育する水草で、全国的に減少傾向が著しい。

【形態】

沈水性の多年生草本。地下茎は水底をはい、各節から水中茎を出す。水中茎は細く、よく分枝する。葉は互生し、狭線形、長さ 5~10cm、幅 0.3~0.5mm、先端は鋭頭、辺縁には微鋸歯があり、基部は 8~15mm の葉鞘となって茎を抱く。花期は 6~8 月、葉鞘の中から長さ 2~4cm の花茎を出し、先端近くに 2 個の花をつける。花茎は花後に伸びて約 10cm になり、心皮の柄も伸びて、その先に卵球形で長さ約 2.5mm の果実をつける。

【分布の概要】

【県内の分布】

東：14 蒲郡（小林 58665, 1995-11-3）、16 豊橋南部（芹沢 78351, 2002-10-24）、17 田原東部（小林 64156, 1998-5-30）、18 田原西部（芹沢 79245, 2004-6-28）。西：32a 刈谷（芹沢 71361, 1994-10-25）、35 西尾北部（芹沢 71169, 1994-9-24）。尾：44a 美浜（浜島繁隆 1085, 1986-8-7）。36 西尾南部（一色町実緑新田、浜島繁隆 1084, 1982-8-11）で採集された標本もある。

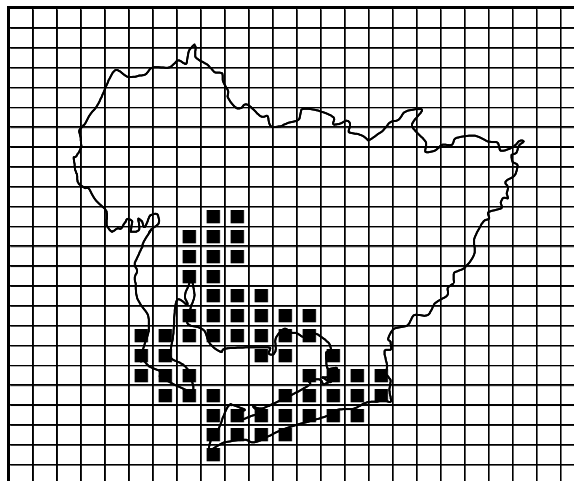
【国内の分布】

北海道、本州、四国、九州、琉球。

【世界の分布】

全世界に広く分布する。

要配慮地区図



【生育地の環境／生態的特性】

海岸近くの池沼や水たまりに生育する。愛知県では、特に養魚場跡に多い。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩				
湿地				
水域			○	○

【現在の生育状況／減少の要因】

渥美半島ではかなり多量に生育している場所があるが、他では辛うじて残存という状況である。一部の区画では、すでに絶滅しているかもしれない。

【保全上の留意点】

本種が生育しているような河口部の水域は、開発圧が高く、人為的な水の汚染も起きやすい。現在生育が確認されている場所を保全し、水質を現在以上に悪化させないことはもちろん必要であるが、それと共に河口部河川後背地の自然環境の保全について、長期的な戦略が必要である。養魚場跡は水中や水辺にそれなりに自然が回復している場合があり、埋立てなどの際には注意が必要である。

【関連文献】

保草本Ⅲ p.410, 平草本 I p.12, 平新版 I p.135, SOS 旧版 p.90+図版 22.
角野康郎. 1994. 日本水草図鑑 p.48. 文一総合出版, 東京.

ヒナノシャクジョウ *Burmattia championii* Thwaites

【評価理由】

個体数階級 3、集団数階級 2、生育環境階級 3、人為圧階級 2、固有性階級 1、総点 11。自然度の高い森林に依存する腐生植物で、愛知県では生育地、個体数ともに少ない。

【形態】

腐生の多年生草本。根茎は球状にふくらみ、多数のひげ根がある。茎は直立し、白色、高さ 3～8cm である。葉は互生し、鱗片状に退化し、披針形、長さ 2～4mm である。花期は 8～10 月、花は茎の先端に 2～10 個が頭状に集まってつき、白色で無柄、外花被片は筒状に合着して 3 稜形となり、長さ 6～10mm、裂片は 3 角形で長さ 1.5mm 程度、内花被片はへら形で小さい。果実は蒴果で倒卵円形、長さ 2.5mm 程度である。

【分布の概要】

【県内の分布】

東：8 鳳来北東部（瀧崎吉伸 27076, 2010-9-4）、15 豊橋北部（龍川良克・郁子 234, 1994-8-12）。西：20 足助（芹沢 92807, 2017-8-9）、21 下山（芹沢 90670, 2015-9-25）、24 豊田東部（山崎玲子 2099, 1999-10-12）、30 岡崎南部（芹沢 78713, 2003-8-6）。尾：37a 瀬戸（飯尾俊介 429, 2017-8-15）、45 犬山（村瀬・永田 s.n., 2019-8-3、犬山里山学センター）、50 名古屋北部（西部めぐみ s.n., 2019-9-4, NBC）。

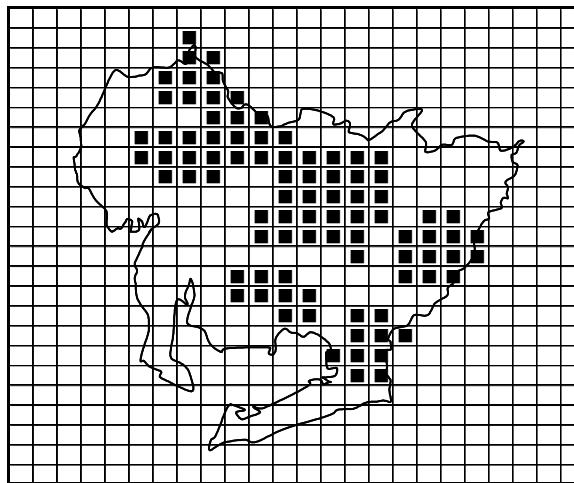
【国内の分布】

本州（関東地方以西）、四国、九州、琉球。

【世界の分布】

日本、中国大陸南部、マレーシア、インド、スリランカ。

要配慮地区図



【生育地の環境／生態的特性】

林内の湿った場所の、落葉の間に生育する。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林	○	○		
草・岩				
湿地				
水域				

【現在の生育状況／増加の要因】

本種も最近になって新産地がいくつか発見されている植物である。里山の森林化は、大部分の植物にとって脅威であるが、本種の場合はむしろ好都合である。ただし、名古屋市守山区では市民参加の里山保全活動によって生育地の林床が踏み荒らされ、確認できなくなった。

【保全上の留意点】

里山保全活動を行う場合は、林床の踏み荒らしを極力回避する必要がある。

【特記事項】

小型で見つけにくい植物なので、丁寧に調査すれば更に新産地が追加される可能性もある。調査時には、特に注意が必要である。

【関連文献】

保草本Ⅲ p.70, 平草本 I p.63, 平新版 1 p.146, SOS 旧版 p.97+図版 3, SOS 新版 p.74,76.

シラン *Bletilla striata* (Thunb.) Rchb.f.

【評価理由】

個体数階級 1、集団数階級 3、生育環境階級 3、人為圧階級 2、固有性階級 2、総点 11。愛知県では生育地が少ない。観賞用に広く栽培される植物で、丘陵地の土手や原野状の場所に生育しているものはほとんどが栽培品の逸出と思われ、これらは評価の対象外である。

【形態】

多年生草本。茎は高さ 30~70cm になり、基部はふくらんで扁平で直径 2~4cm の偽球茎となり、数年分が残存して横に並ぶ。葉は茎の基部に数個つき、披針形、長さ 20~30cm、幅 2~5cm、先端は鋭尖頭、下部は次第に細まり、基部は葉鞘となり、辺縁は全縁、硬い草質、無毛である。花期は 4~5 月、花はやや大型で茎の先端に 3~7 個つき、紅紫色、苞は長楕円状披針形で開花時に脱落する。がく片と側花弁は長楕円形、長さ 2.5~3cm、幅 6~8mm、やや鋭頭である。唇弁はくさび状倒卵形、先端は浅く 3 裂し、中裂片は円形で辺縁は波状、内面に 5 個の隆起線がある。果実はさく果で長楕円形、長さ 3~3.5cm である。白花品をシロバナシラン form. *gebina* (Lindl.) Ohwi という。

【分布の概要】

【県内の分布】

確実に自生と思われるものは、東：8 鳳来北東部 (小林 51100, 1994-5-4)、9 鳳来南部 (小林 51073, 1994-5-4)、12 新城 (芹沢 60959, 1992-4-9; 石川静雄 141*, 1996-5-17) だけに生育している。*はシロバナシランである。

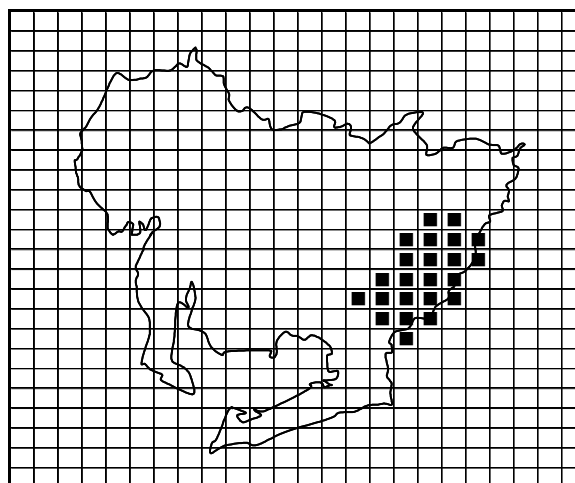
【国内の分布】

本州 (関東地方以西)、四国、九州、琉球。

【世界の分布】

日本、台湾、中国大陆。

要配慮地区図



【生育地の環境／生態的特性】

川岸などの湿った岩上に生育する。蛇紋岩地の草地に生育していることもあるが、これは自生か逸出かよくわからない。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩	○			
湿地				
水域				

【現在の生育状況／減少の要因】

範囲は限られているが、そこでは個体数は比較的多い。急峻な地形の場所には、まだかなり大きい群落が残存している。かつては園芸目的で相当採取されたものと思われる。しかし現在では、普通に栽培される植物になったため危険を冒してまで採取しようとする人は少なく、小康状態である。

【保全上の留意点】

生育地は、当面開発が想定されるような場所ではない。前項に述べたような事情で近年に限れば小康状態であるが、それでも念のため、分布情報の公表に際し慎重な配慮が必要である。

【特記事項】

逸出と思われるものは、1 富山 (小林 51313, 1994-5-7)、13 豊川 (中西普佐子 3730*, 2016-6-2)、15 豊橋北部 (加藤等次 6967, 1998-5-5)、16 豊橋南部 (瀧崎吉伸 12995, 1992-4-29)、5 稲武 (小林 44531, 1993-6-20)、23 藤岡 (日比野修 3136, 1995-9-9)、24 豊田東部 (佐藤久美子 381, 1993-5-15)、25 豊田北西部 (山崎玲子 472*, 473, 1993-6-2)、29 岡崎北部 (杉田一記 542, 2010-5-14)、37a 瀬戸 (塚本威彦 2950*, 2001-5-10; 塚本 2953, 2001-5-13)、38b 日進 (岡本沙矢香 289*, 290, 2001-5-20)、41a 東海 (芹沢 55075, 1990-5-25)、43 常滑 (梅田零奈 351, 2000-5-22)、48 春日井 (太田さち子 36, 1993-5-23)、50 名古屋北部 (広部 栄 106, 1993-7-29)、51 名古屋南東部 (中島ひろみ 401*, 1994-5-2; 岡本沙矢香 283, 2001-5-19) などで採集されている。

【関連文献】

保草本Ⅲ p.48, 平草本 I p.217, 平新版 1 p.184.

ミヤマムギラン *Bulbophyllum japonicum* (Makino) Makino

【評価理由】

個体数階級 2、集団数階級 2、生育環境階級 3、人為圧階級 2、固有性階級 2、総点 11。自然度の高い森林に依存する着生植物で、伐採等の影響を受けやすい。

【形態】

常緑性の多年生草本。茎は細く、横にはい、卵球形の偽球茎をまばらにつらね、その上に 1 個の葉をつける。葉は披針形、長さ 4~8cm、幅 6~10mm、先端は鋭頭、葉質は革質である。花期は 6~7 月、偽球茎の基部から長さ 2cm 程度の花茎を出し、その先端に紅紫色の花を数個散状につけ、苞は披針形、長さ 1~2mm である。背がく片は長楕円形で長さ約 3mm、側がく片は広披針形で長さ約 8mm、基部には隙間があるが、先端は長く尖って互いに接着する。側花弁は卵形、背がく片より短く、唇弁は厚く、長さ約 3mm、濃紫紅色、ずい柱の前で前方に湾曲する。

【分布の概要】

【県内の分布】

東：1 富山 (小林 52089, 1994-6-12)、2 豊根 (加藤等次 3497, 1993-8-3)、8 鳳来北東部 (加藤等次 1094, 1992-3-29)、10 鳳来北西部 (小林 46278, 1993-8-9)、12 新城 (小林 49737, 1993-12-12)。

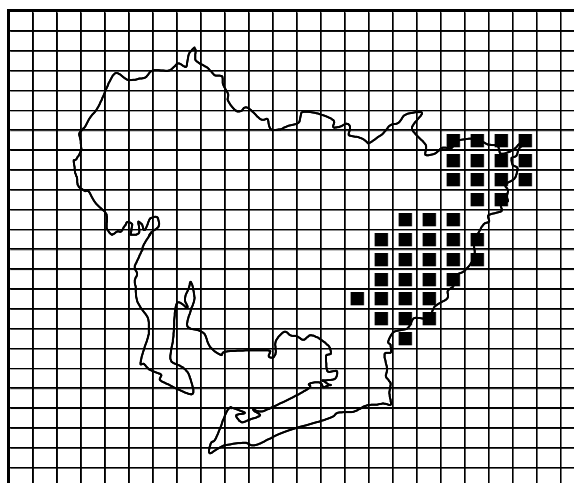
【国内の分布】

本州 (中部地方以西)、四国、九州。

【世界の分布】

日本および台湾。

要配慮地区図



【生育地の環境／生態的特性】

山地の樹幹や岩上に着生する。愛知県の生育地は全て岩上である。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林	○			
草・岩				
湿地				
水域				

【現在の生育状況／減少の要因】

小群落が点在するだけである。生育地はいずれも開発が想定されるような場所ではないが、山草愛好家に発見されれば持ち去られる可能性が高い。

【保全上の留意点】

園芸目的の採取を防止するため、分布情報の公表に際し慎重な配慮が必要である。

【特記事項】

ムギランに比べ、葉は長く、先が尖る。

【関連文献】

保草本Ⅲp.60, 平草本Ⅰp.231, 平新版Ⅰp.185.

エビネ *Calanthe discolor* Lindl.

【評価理由】

個体数階級 1、集団数階級 1、生育環境階級 3、人為圧階級 4、固有性階級 2、総点 11。明るい林内に生育するラン科植物で、全国的にも愛知県でも園芸目的で集中的に採取されており、減少傾向が著しい。

【形態】

多年生草本。茎は高さ 30～45cm になり、基部はふくらんで球状の偽球茎となり、数年分が残存して横に並ぶ。葉は茎の基部に 2～3 個つき、長楕円形、長さ 15～25cm、幅 5～8cm、先端は鋭頭、無毛、このほか茎上に 1～2 個の鱗片葉がつく。花期は 4～5 月、花は茎の上部にややまばらに 8～15 個つき、通常紫褐色、苞は披針形、長さ 3～6mm で、膜質である。がく片は狭卵形、長さ 15～20mm、幅 4～5mm、側花弁はがく片よりやや幅が狭い。唇弁は扇形で 3 深裂し、幅 14～18mm、帯紅色または白色、中裂片はくさび形で先端は 2 裂し、うね状の条が 3 本ある。

【分布の概要】

【県内の分布】

東：8 鳳来北東部（小林 51519, 1994-5-19）、9 鳳来南部（芹沢 58536, 1991-5-18）、12 新城（芹沢 58509, 1991-5-18）、13 豊川（小林 42039, 1993-4-30）、15 豊橋北部（芹沢 64715, 1993-4-27）、17 田原東部（瀧崎吉伸 23847, 2008-4-29）、18 田原西部（小林 42597, 1993-5-9）。西：5 稲武（小林 37632, 1992-6-7）、19 旭（塚本威彦 574, 1993-5-16）、20 足助（深見 弘 156, 1994-4-30）、22 小原（日比野修 2089, 1994-5-12）、23 藤岡（日比野修 1062, 1993-5-1）、24 豊田東部（山崎玲子 1401, 1996-5-15）、25 豊田北西部（山崎玲子 1410, 1996-5-28）、28 額田（小林 56659, 1995-5-6）。尾：37a 瀬戸（芹沢 92037, 2017-5-16）、41b 知多（鳥居ちゑ子 2619, 2008-5-2）、44b 南知多（花井隆晃 2161, 2005-8-10）、45 犬山（村松正雄 807, 1990-5-3）。標本は作成しなかったが、11 作手でも見たことがある。

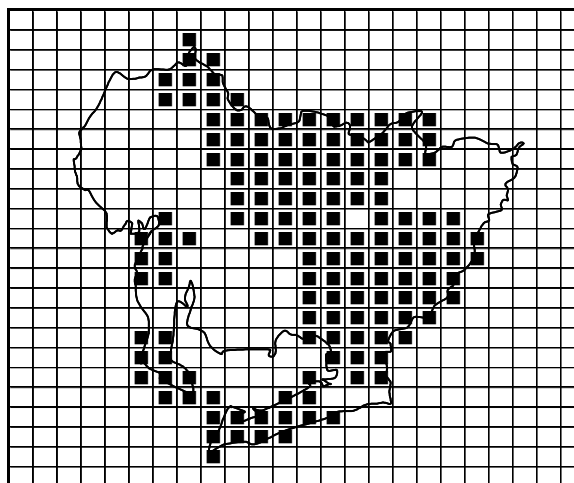
【国内の分布】

北海道（南部）、本州、四国、九州、琉球。

【世界の分布】

日本および済州島。

要配慮地区図



【生育地の環境／生態的特性】

丘陵地～低山地の林内に生育する。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林	○	○		
草・岩				
湿地				
水域				

【現在の生育状況／減少の要因】

かつては丘陵地の二次林内などにごく普通に見られる植物であったが、いわゆるエビネブームで徹底的に乱獲され、激減した。もともとが普通種であったため、現在でもまだかなりの区画に生育しているが、どの区画でも目につきにくい場所に辛うじて残存しているだけである。

【保全上の留意点】

現在では一時の熱狂的なエビネブームは去っているが、それでも園芸目的の採取圧は強く、見つければすぐ掘り取られるという状態は継続している。分布情報の公表に際し慎重な配慮が必要である。基本的には国民共有の資産である自然物を個人の庭に取り込もうとする発想が問題で、山草園芸のあり方自体を見直させるような施策が必要である。

【特記事項】

和名は、横に並んだ偽球茎をエビに見立てたものである。花弁の形状や色彩に変異が多く、アカエビネ、ヤブエビネ、ダイダイエビネなど、いろいろな品種が知られている。

【関連文献】

保草本Ⅲ p.55, 平草本 I p.224, 平新版 1 p.187, SOS 旧版 p.109+図版 5, SOS 新版 p.79,81.

キンラン *Cephalanthera falcata* (Thunb.) Blume

【評価理由】

個体数階級 2、集団数階級 1、生育環境階級 3、人為圧階級 3、固有性階級 2、総点 11。明るい林内に生育する植物で、全国的にも愛知県でも園芸目的で採取されることが多く、減少傾向が著しい。

【形態】

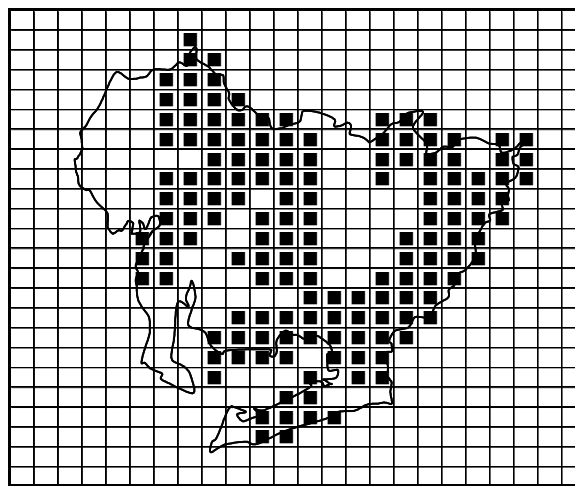
多年生草本。茎は直立し、高さ 30～70cm になる。葉は 6～8 個が互生し、広披針形、長さ 8～15cm、幅 2～4cm、先端は鋭尖頭、基部は茎を抱き、平滑で縦脈が目立つ。花期は 4～6 月、花は茎の上部に 3～12 個つき、黄色、苞は 3 角形で長さ約 2mm、膜質である。がく片は卵状長楕円形、長さ 14～17mm、先端は鈍頭、側花弁は長卵形で、がく片よりやや短い。唇弁の基部はふくらんで短い距となり、唇部は 3 裂し、側裂片は 3 角状卵形でずい柱を抱き、中裂片は円心形で内面に数本の隆起条がある。

【分布の概要】

【県内の分布】

東：8 鳳来北東部（夏目一平 1, 2008-5-16）、12 新城（芹沢 65036, 1993-5-10）、13 豊川（小林 36789, 1992-4-27）、14 蒲郡（芹沢 78596, 2003-5-16）、15 豊橋北部（芹沢 83479, 2009-5-9）、17 田原東部（小林 42479, 1993-5-5）。西：5 稲武（畑佐武司 7681, 2009-5-26）、22 小原（塚本威彦 980, 1994-5-5）、23 藤岡（日比野修 1132, 1993-5-13）、24 豊田東部（佐藤久美子 428, 1993-5-21）、29 岡崎北部（中西普佐子 761, 1993-5-23）、36 西尾南部（壁谷重美子 443, 1994-5-21）。尾：37a 瀬戸（塚本威彦 53, 1993-5-12）、38b 日進（半田多美子 223, 1992-5-21）、41b 知多（鳥居ちゑ子 3023, 2011-10-31）、45 犬山（山田果与乃 307, 1998-4-29）、48 春日井（山田果与乃 677, 2001-5-6）、51 名古屋南東部（中島ひろみ 913, 2001-5-6）。1 富山、3 東栄、4 津具などにもあるという（小林, 2006）。16 豊橋南部（天伯町, 鳥居喜一 12334, 1949-5-22, HNSM）、20 足助（西樫尾, 大原準之助 s.n., 1966-5-11）、25 豊田北西部（猿投山, 岡本英一 287, 1958-5-19）などで採集された標本もある。

要配慮地区図



【国内の分布】

本州、四国、九州。

【世界の分布】

日本、朝鮮半島、中国大陆。

【生育地の環境／生態的特性】

丘陵地～山地の明るい落葉広葉樹林内に生育する。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林	○	○		
草・岩				
湿地				
水域				

【現在の生育状況／減少の要因】

かつてはエビネと共に丘陵地の二次林内に普通に見られる植物であったが、遷移の進行や開発に加えて花が黄色で目立つため乱獲され、激減した。もともとが普通種であったため、現在でもまだかなりの区画に生育しているが、どの区画でも偶然行き当たるとい程度の頻度で残存しているにすぎない。

【保全上の留意点】

園芸目的の採取を防止するため、分布情報の公表に際し慎重な配慮が必要である。ただし、本種の場合は、好事家の意図的な採取よりもむしろ一般人の行きずりの採取の影響が大きい。自然物は公共の資産であり、個人の庭に取り込んでではないという意識を、できるだけ多くの人に持ってもらうことが必要である。

【引用文献】

小林元男. 2006. 北設楽の植物 p.241. 愛知県林業試験研究推進協議会, 新城.

【関連文献】

保草本Ⅲp.29, 平草本Ⅰp.207, 平新版Ⅰp.189, 環境省 p.595, SOS 新版 p.78,80.

ササバギンラン *Cephalanthera longibracteata* Blume

【評価理由】

個体数階級 3、集団数階級 2、生育環境階級 3、人為圧階級 2、固有性階級 1、総点 11。やや山地性のラン科植物で、愛知県では個体数が少ない。

【形態】

多年生草本。茎は直立し、やや細く、高さ 30～50cm になる。葉は 6～8 個が互生し、卵状披針形、長さ 7～15cm、幅 1.5～3mm、先端は鋭尖頭、基部は茎を抱き、裏面と辺縁には茎の上部と共に白色の短毛状突起がある。花期は 5～6 月、花は茎の先端部にまばらに数個つき、白色、平開せず、苞は線形、下部の 1～2 個は花序より長い。がく片は披針形、長さ 11～12mm、鋭頭、側花弁はがく片より短く、幅が広い。唇弁の基部は筒状の距となり、舷部は 3 裂し、中裂片は心形、中央内面に淡黄褐色の隆起条がある。

【分布の概要】

【県内の分布】

東：1 富山 (小林 52027, 1994-6-11)、2 豊根 (加藤等次 3161, 1993-6-8)。西：20 足助 (芹沢・水野 170, 1985-5-23)、21 下山 (芹沢 92471, 2017-6-13)。3 東栄, 4 津具, 5 稲武などにもあるという (小林 2006)。

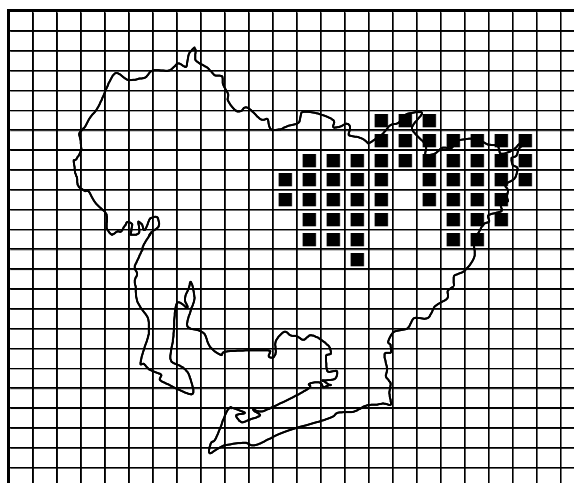
【国内の分布】

北海道、本州、四国、九州。

【世界の分布】

日本、朝鮮半島、中国大陸東北部。

要配慮地区図



【生育地の環境／生態的特性】

山地の落葉広葉樹林内に生育する。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林	○			
草・岩				
湿地				
水域				

【現在の生育状況／減少の要因】

点在するがどの場所でも個体数が少なく、偶然行き当たるとい程度の頻度で生育しているだけである。森林の伐採等による自然環境の全体的な劣化で、いつの間にか消滅してしまうおそれがある。園芸目的で採取されることもある。

【保全上の留意点】

出現頻度の低い植物であるため、効果的な保全対策は立てにくい。山地の自然林や自然度の高い二次林を全体的に保全することが必要である。

【特記事項】

ギンランに比べ、植物体が大きく、苞が長い。

【引用文献】

小林元男. 2006. 北設楽の植物 p.241. 愛知県林業試験研究推進協議会, 新城.

【関連文献】

保草本Ⅲp.30, 平草本Ⅰp.207, 平新版Ⅰp.189.

イチヨウラン *Dactylostalis ringens* Reichb.f.

【評価理由】

個体数階級 3、集団数階級 2、生育環境階級 3、人為圧階級 2、固有性階級 1、総点 11。山地の林内に生育するラン科植物で、愛知県では個体数が極めて少ない。

【形態】

多年生草本。地下茎は短くはい、その先端に 1 個の葉をつける。葉は長さ 1~4cm の柄があり、葉身は卵円形、長さ 3~6cm、幅 3~4cm、先端は鈍頭、肉質で葉脈は目立たない。花期は 5~7 月、花茎は高さ 10~20cm で 2~3 個の鱗片葉があり、花はその先端に 1 個つき、苞は四角状楕円形、長さ 2~3mm である。がく片および側花弁は倒披針形、長さ 2~2.5cm、先端はやや鈍頭、淡緑色で紫色の斑点がある。唇弁は卵形、ほぼ中央で 3 裂し、白色、側裂片は広卵形でずい柱を囲み、先端は紫色、中裂片は倒広卵形、長さ、幅とも 7~10mm、紫色の斑点があり、基部に 2 条の隆起条がある。

【分布の概要】

【県内の分布】

東：1 富山 (小林 44855, 1993-6-27)、4 津具 (小林 42898, 1993-5-16)、6 設楽西部 (芹沢 54689, 1990-4-29)、11 作手 (小林 53001, 1994-8-3)、13 豊川 (小林 50532, 1994-3-26)。西：5 稲武 (芹沢 89259, 2014-6-7)、19 旭 (塚本威彦 517, 1993-5-8)。9 鳳来南部 (上吉田浅間山, 小林 24988, 1983-4-26) で採集された標本もある。

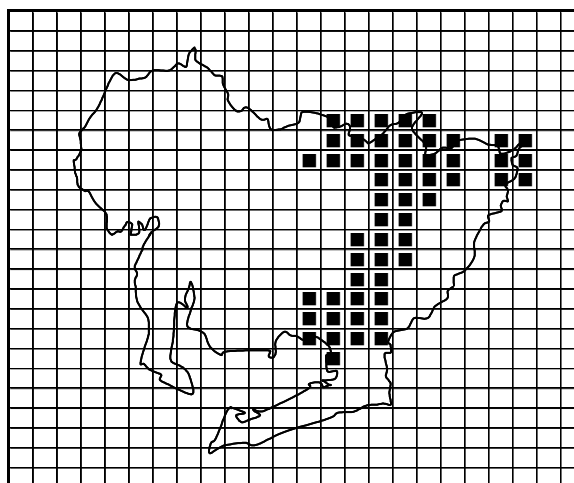
【国内の分布】

北海道、本州、四国、九州。

【世界の分布】

千島列島南部および日本。

要配慮地区図



【生育地の環境／生態的特性】

山地の針葉樹林内や落葉広葉樹林内に生育する。通常は沢沿いの湿った場所に見られる。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林	○			
草・岩				
湿地				
水域				

【現在の生育状況／減少の要因】

点在するが、どの場所でも個体数は極めて少ない。森林の伐採や園芸目的の採取により、減少傾向にある。出現頻度が低いため、はっきり認識できないうちに消滅する恐れがある。

【保全上の留意点】

生育地の森林を保全することが必要である。園芸目的の採取を防止するため、分布情報の公表に際し慎重な配慮が必要である。

【特記事項】

日本固有の、1 属 1 種の植物である。

【関連文献】

保草本Ⅲ p.58, 平草本 I p.228, 平新版 1 p.195.

セッコク *Dendrobium moniliforme* (L.) Sw.

【評価理由】

個体数階級 2、集団数階級 2、生育環境階級 3、人為圧階級 3、固有性階級 1、総点 11。着生性のラン科植物で、園芸目的の採取により減少している。

【形態】

常緑性の多年生草本。根茎はごく短い。地上茎は束生し、円柱形、高さ 5～25cm になり、数年残存するが古いものには葉がない。葉は数個が互生し、披針形、長さ 4～7cm、幅 7～15mm、やや光沢があり、先端は鈍頭、基部は鞘となって茎を包む。花期は 5～6 月、花は古い茎の上部の節に 1～2 個つき、白色またはわずかに淡紅色を帯び、苞は楕円形、長さ 2～2.5mm である。背がく片は披針形、長さ 2～2.5cm、鋭頭、側がく片はやや幅広く、基部が斜めに広がり距状となり、側花弁は背がく片と同形でやや短い。唇弁は卵状長三角形、側花弁とほぼ同長である。

【分布の概要】

【県内の分布】

東：2 豊根（加藤等次 4414, 1994-5-8）、6 設楽西部（小林 44090, 1993-6-12）、7 設楽東部（芹沢 82060, 2007-8-18）、8 鳳来北東部（芹沢 85161, 2009-10-10）、11 作手（小林 52473, 1994-7-3）、12 新城（小林 55911, 1995-3-4）、24 豊田東部（山崎玲子 2673, 2002-6-8）、28 額田（原田 勉 422, 1994-10-23）。尾：45 犬山（芹沢 53764, 1989-10-6）。

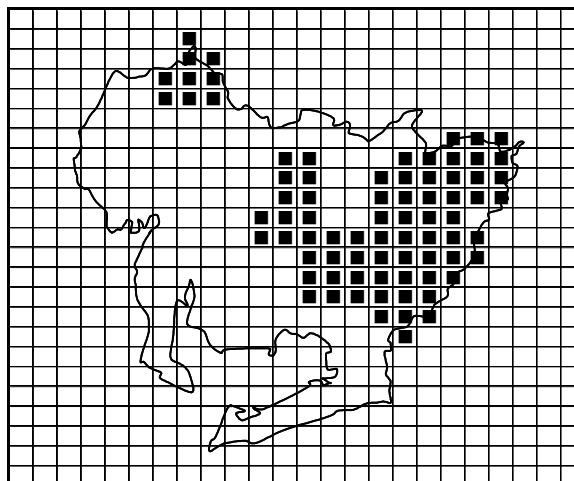
【国内の分布】

本州、四国、九州、琉球に生育する。

【世界の分布】

日本、台湾、朝鮮半島南部、中国大陸に分布する。

要配慮地区図



【生育地の環境／生態的特性】

岩上や樹上に着生する。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林	○			
草・岩	○			
湿地				
水域				

【現在の生育状況／減少の要因】

東三河の山地には点在するが、手が届く範囲のものはほとんど園芸目的で採取されてなくなっている。台風の後などに多量に落下していることがあるので、急峻な地形の場所や高い木の上にはまだかなり残存していると思われる。しかし、そのような場所のものは夏の乾燥化の影響を受けやすく、その点で衰退が懸念される。西三河と尾張では、偶然発見されたという程度の頻度で生育しているだけである。

【保全上の留意点】

園芸目的の採取を防止するため、分布情報の公表に際し慎重な配慮が必要である。

【特記事項】

和名は、漢名の音読みである。

【関連文献】

保草本Ⅲp.61, 平草本Ⅰp.231, 平新版Ⅰp.196.

タシロラン *Epipogium roseum* (D.Don) Lindl.

【評価理由】

個体数階級 3、集団数階級 2、生育環境階級 3、人為圧階級 2、固有性階級 1、総点 11。近年全国的に増加している腐生ランであるが、愛知県では現在のところまだ生育地が少ない。

【形態】

腐生の多年生草本。根茎は長さ 2~4cm、直径 1~2cm の楕円形の塊茎になる。地上茎は根茎の先端から 1 本出て、高さ 25~40cm、黄白色、5~7 個の膜質の鱗片葉をつける。花期は 7 月、茎の上部に茎と同色の花を 10~20 個つける。苞は広披針形~卵形、長さ 8~12mm である。がく片は狭披針形、長さ 8~9mm、側花弁はやや幅が広い。唇弁は卵形、がく片とほぼ同長、全縁、外面はふくれ、内面に 2 本のトサカ状の隆起条があり、距は楕円形、長さ 3~4mm である。果実は花後まもなく熟し、地上部はやがて消失する。

【分布の概要】

【県内の分布】

東：12 新城（中西普佐子 s.n., 2012-7-6）、13 豊川（瀧崎吉伸 30383, 2014-7-12）、14 蒲郡（小林 79625, 2003-7-18）、15 豊橋北部（天野保幸 s.n., 2012-7-7）。尾：41b 知多（村松正雄 30497, 2019-7-3, NBC）、44a 美浜（近藤洋一朗 9439, 2002-7-5）、51 名古屋南東部（西部めぐみ s.n., 2019-6-26, NBC）。

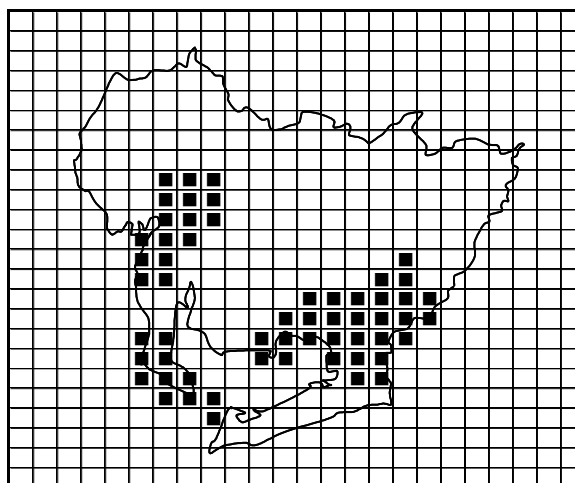
【国内の分布】

本州、四国、九州、琉球。

【世界の分布】

日本、台湾、中国大陸南部、インドシナ、インド、マレーシア、オーストラリア。

要配慮地区図



【生育地の環境／生態的特性】

常緑広葉樹林の暗い林床に生育する。もともとは極めて稀少な植物であったが、近年増加傾向にあり、あちこちで新しい自生地が報告されている。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林	○	○		
草・岩				
湿地				
水域				

【現在の生育状況／増加の要因】

蒲郡は、「20 株ほどのまとまった群落であるが、ヒノキ林縁のビニールなどが放置されたヒカゲイノコズチ等が生える肥沃な平坦地で、とても自然度の高い所ではない」と報告されている（小林, 2004）。美浜ではウバメガシ林の林床に 30 株程度が生育している。他の場所も、おそらくは里山の森林化に伴い、近年になって形成された集団と思われる。

【保全上の留意点】

今後の増減によって配慮の必要度は変わってくるが、とりあえずは生育地の林を保全することが必要である。

【特記事項】

増加傾向にあることから考えれば「絶滅は危惧されない」という判断も成り立つが、現状では県内の自生地がまだそれほど多くないので、他種と同様の基準で評価しておく。

【引用文献】

小林元男. 2004. 宝飯の植物 p.69-70. 愛知県東三河農林水産事務所, 豊橋.

【関連文献】

保草本Ⅲ p.32, 平草本Ⅰ p.203, 平新版Ⅰ p.199.

ヒメニラ *Allium monanthum* Maxim.

【評価理由】

個体数階級 2、集団数階級 2、生育環境階級 3、人為圧階級 2、固有性階級 2、総点 11。温帯性の早春植物で、愛知県では生育地が少ない。

【形態】

多年生草本。地下に卵形で長さ 1cm ほどの鱗茎がある。葉は 1～2 個が根出状に出て線形、長さ 10～20cm、幅 3～8mm、断面は三日月形である。花期は 4～5 月、雌雄異株で、高さ 5～10cm の細い花茎の先に、雌花は 1～2 個、雄花は 2～4 個が、上を向いて咲く。総苞は卵形、膜質で裂けない。花被片は 6 個、長楕円形で長さ 4～5mm、白色または微紅色である。

【分布の概要】

【県内の分布】

東：2 豊根 (村松正雄 15046, 1994-4-17)、3 東栄 (芹沢 86725, 2011-4-17)、8 鳳来北東部 (芹沢 86717, 2011-4-17)、18 田原西部 (村松正雄 26785, 2013-4-20)。西：5 稲武ににもあるという (小林 2006)。尾：48 春日井 (玉野, 岡田善敏 s.n., 1943-4-18) で採集された標本もある。

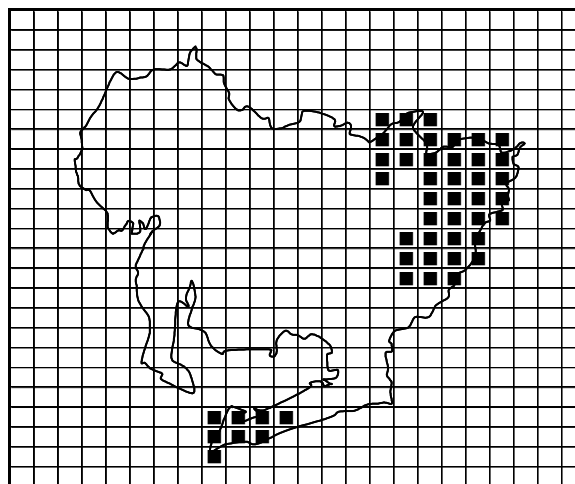
【国内の分布】

北海道、本州 (近畿地方以東)、四国。

【世界の分布】

日本、朝鮮半島、中国大陸東北部、ウスリ一。

要配慮地区図



【生育地の環境／生態的特性】

山地の明るい落葉広葉樹林内や、林縁の草地に生育する。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林	○			
草・岩	○			
湿地				
水域				

【現在の生育状況／減少の要因】

ある場所では群生することが多いが、小形の植物であるため、総量としては少ない。どの生育地でも草地の利用停止に伴い大型草本が繁茂し、衰退傾向にある。

【保全上の留意点】

草刈り等を継続し、草地状態を維持することが必要である。

【特記事項】

県内では雌株ばかりで、雄株は確認されていない。

【引用文献】

小林元男. 2006. 北設楽の植物 p.74, 213. 愛知県林業試験研究推進協議会, 新城.

【関連文献】

保草本Ⅲp.121, 平草本Ⅰp.36, 平新版Ⅰp.241, SOS 旧版 p.91.

マイヅルソウ *Maianthemum dilatatum* (A.W.Wood) A.Nelson et J.F.Macbr.

【評価理由】

個体数階級 2、集団数階級 3、生育環境階級 3、人為圧階級 2、固有性階級 1、総点 11。寒冷地系の植物で、愛知県では生育地が少ない。

【形態】

多年生草本。細く長い根茎がある。地上茎は高さ 10～25cm になり、無毛である。茎葉は 2 個が互生し、長さ 1～10cm の柄があり、葉身は卵心形、長さ 3～7.5cm、幅 2.5～7cm、先端は鋭頭～鋭尖頭、基部は深い心形、辺縁には半月形の微小な隆起があり、両面無毛である。花期は 5～7 月、茎の先端に 1 個の花序をつけ、20 個ほどの花を総状につけ、花被片は 4 個、白色、楕円形で長さ約 2mm、平開して先は反り返り、雄ずいも 4 個である。果実は液果で球形、直径 5～7mm、赤色に熟す。

【分布の概要】

【県内の分布】

東：4 津具（芹沢 81415, 2007-5-28）、6 設楽西部（小林 51625, 1994-5-22）。西：20 足助（日比野修 3767, 1996-9-18）。1 富山（横林、鳥居喜一 11966, 1958-5-25, HNSM）で採集された標本もある。

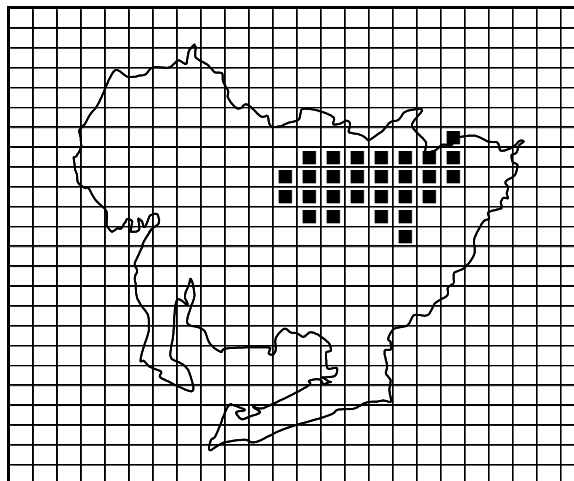
【国内の分布】

北海道、本州、四国、九州。

【世界の分布】

日本、朝鮮半島、中国大陸東北部、シベリア東部、サハリン、千島列島、カムチャッカ、北アメリカ。

要配慮地区図



【生育地の環境／生態的特性】

山地の林内に生育する。特に亜高山帯の針葉樹林内に多い。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林	○			
草・岩				
湿地				
水域				

【現在の生育状況／減少の要因】

県内では生育地は少なく、生育範囲も狭い。個体数はかなりあるが、小形の植物なので、量としてはそれほど多くない。設楽西部は神社境内の造林地内で、手入れ不足により林内が暗くなり、衰退傾向にある。

【保全上の留意点】

造林地については、間伐など適切な手入れが必要である。また造林地はいつか伐採されるはずであるが、その時はまず一部を伐採し、その部分の林がある程度回復してから次の部分を伐採するようにして、林床植生の保全を図るべきである。

【特記事項】

和名は、葉脈の形状を鶴の舞う姿に見立てたものである。

【関連文献】

保草本Ⅲp.106, 平草本 I p.48, 平新版 1 p.254, SOS 旧版 p.95.

ツクシクロイヌノヒゲ *Eriocaulon kiusianum* Maxim.

【評価理由】

個体数階級 2、集団数階級 2、生育環境階級 3、人為圧階級 2、固有性階級 2、総点 11。全国的に減少傾向の著しい湿地性植物である。

【形態】

1 年生草本。茎は短く、葉を束生する。葉は斜上し、ごく細い三角形、長さ 4~15cm、幅 2~5mm、全縁、先端は細くとがる。花期は 9~10 月、花茎は少数のものから 50 本以上出るものまであり、中央のものが最も長く高さ 8~20cm、基部に 3~6.5cm の鞘があり、先端に 1 個の頭花をつける。頭花は球形~扁球形、直径 4~7mm、総苞片は卵形で鋭頭、頭花よりやや長く、小花は黒藍色、子房と蒴果は 3 室である。

【分布の概要】

【県内の分布】

西：24 豊田東部（山崎玲子 1521, 1996-9-23）。尾：37b 尾張旭（芹沢 88186, 2012-10-27）、38a 長久手（芹沢 76607, 1999-10-11）、38b 日進（芹沢 64007, 1992-9-30）、44a 美浜（中井三従美 45, 1996-10-12）、48 春日井（芹沢 73396, 1996-10-8）、50 名古屋北部（渡辺幸子 4514, 2000-10-1, NBC）。13 豊川（一宮町足山田、鳥居喜一 11532, 1947-10-12, HNSM）、15 豊橋北部（岩田町水神池、鳥居喜一 11535, 1947-10-19, HNSM）、16 豊橋南部（高師原、鳥居喜一 11533, 1941-11-3, HNSM）で採集された標本もある。

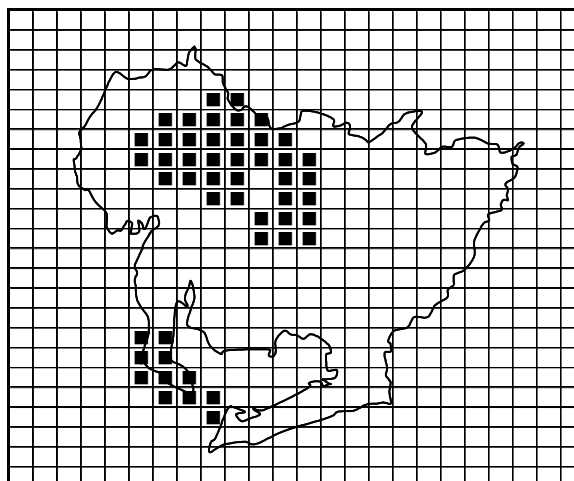
【国内の分布】

本州、四国、九州。

【世界の分布】

日本固有種。

要配慮地区図



【生育地の環境／生態的特性】

干上がったため池の岸に生育する。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩				
湿地		○		
水域				

【現在の生育状況／減少の要因】

生育地は少ないが、ある場所ではそれなりの個体数が見られることが多い。ただし、個体数は年による変動が著しく、水が引かなかった年には全く出現しないこともある。ため池の埋め立てや水の汚れにより、次第に減少している。

【保全上の留意点】

愛知県の丘陵地には多くの農業用ため池があり、水生生物や低湿地性生物の重要な生活場所になっている。本種が生育しているようなため池には他の植物も多く生育しており、水辺地形や水質を注意して保全することが必要である。

【特記事項】

本種の同定は、東京農業大学の宮本 太氏によるものである。

【関連文献】

平新版 1 p.285, 環境省 p.558, SOS 旧版 p.97 (クロイヌノヒゲとして)。

イトテンツキ *Bulbostylis densa* (Wall.) Hand.-Mazz. var. *capitata* (Miq.) Ohwi

【評価理由】

個体数階級 2、集団数階級 2、生育環境階級 3、人為圧階級 2、固有性階級 2、総点 11。全国的に減少傾向の著しい、半裸地に生育する小型の草本である。

【形態】

1 年生草本。匍匐枝はない。茎は束生し、糸状で細く、無毛、高さ 8~20cm になる。葉は叢生し、茎より短く、糸状、幅 0.3~0.5mm、先端は細く尖り、基部は鞘となる。花期は 8~10 月、花序は茎の先端に頂生し、葉状の苞があり、栗褐色の小穂を頭状につける。小穂は狭卵形、長さ 3~5mm、鱗片の先端は鋭頭であるが、芒状にはならない。果実は広倒卵形、長さ約 0.8mm、3 稜がある。

【分布の概要】

【県内の分布】

東：11 作手 (小林 53496, 1994-9-4)、12 新城 (芹沢 79533, 2004-10-13)、15 豊橋北部 (芹沢 71298, 1994-10-13)。西：24 豊田東部 (吉鶴靖則 385, 2011-10-28)、26 豊田南西部 (落合鈴枝 992, 2001-9-22)、28 額田 (小林 53449, 1994-9-3)、33 安城 (小林 67043, 1999-9-4)。尾：38b 日進 (芹沢 63975, 1992-9-30)、39a 東郷 (芹沢 90693, 2015-10-3)、39b 豊明 (浅野守彦 755, 1999-10-17)、55 稲沢 (渡辺幸子 5414, 2003-10-9)。ただし豊田東部は、建物の屋上に生えたものと聞いている。

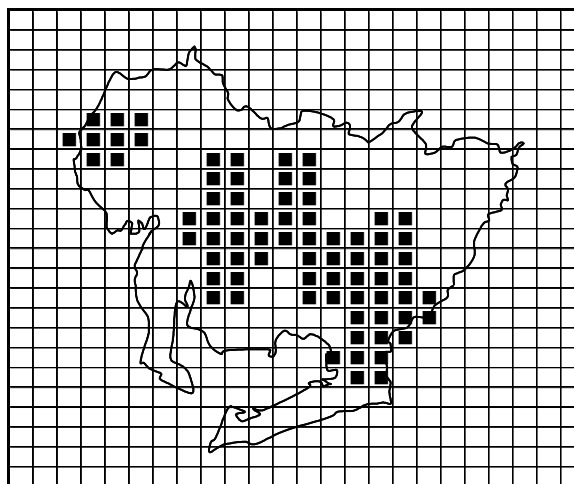
【国内の分布】

本州 (東海地方以西)、四国、九州、琉球。

【世界の分布】

日本のほか、インドネシアに分布する。

要配慮地区図



【生育地の環境／生態的特性】

日当たりのよい半裸地に生育する。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩	○	○		
湿地				
水域				

【現在の生育状況／減少の要因】

点在するが、どの場所も小群落である。1 年生草本であるため、個体数は年によってかなり変動する。生育地はいずれも軽度の攪乱を受ける場所であり、一方で開発等による破壊、他方で遷移の進行による大型草本の繁茂により消滅する可能性がある。メリケンカルカヤなどの帰化植物の増加によっても、影響を受けている。

【保全上の留意点】

本種のような植物の場合、存続のためには適度な攪乱が必要である。過度の攪乱があっても、攪乱がなくても消滅してしまうと思われる。

【特記事項】

基準変種のイトハナビテンツキは花序の枝が伸びるもので、北海道~九州に生育しており、愛知県でも比較的多い。

【関連文献】

保草本Ⅲ p.238, 平草本Ⅰ p.173, 平新版Ⅰ p.297.

ニイタカスゲ *Carex leucochlora* Bunge var. *aphanandra* (Franch. et Sav.) T.Koyama

【評価理由】

個体数階級 2、集団数階級 4、生育環境階級 3、人為圧階級 1、固有性階級 1、総点 11。愛知県では生育地が限られている。

【形態】

小型の多年生草本。匍匐枝はなく、株を作る。愛知県のものでは茎は高さ 6~18cm、基部の葉鞘は淡褐色~褐色で、後に繊維状になる。葉は細い線形、幅 1.5~3mm である。果期は 5~6 月、小穂は 3~4 個で最下のものは根際に、他は茎頂部に集まってつき、頂小穂は雄性、長さ 4~7mm、鱗片は淡褐色で中央は緑色となる。側小穂は雌性で長さ 3~8mm、3~7 個の果胞をつける。苞は短い鞘があり、葉身の先端は頂小穂の先端と同程度になる。果胞は長さ 2.5~3mm、先端は次第に細くなり、まばらに毛がある。雌花の柱頭は 3 個である。

【分布の概要】

【県内の分布】

東：2 豊根 (畑佐武司 8411, 2012-6-8)、4 津具 (鈴木 学 834, 1983-5-8)。

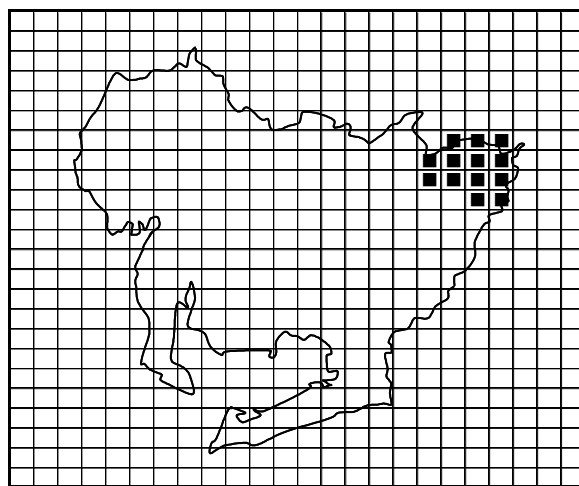
【国内の分布】

本州 (主に太平洋側)、四国、九州。

【世界の分布】

日本、朝鮮半島、台湾、中国大陸。

要配慮地区図



【生育地の環境／生態的特性】

落葉広葉樹林の林床や林縁に生育する。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林	○			
草・岩				
湿地				
水域				

【現在の生育状況／減少の要因】

愛知県内では茶臼山と面ノ木峠で確認されているだけであるが、そこでは個体数は比較的多い。現在のところ特に減少してはいないが、ニホンジカの食害により衰退する可能性はある。

【保全上の留意点】

食害が顕著になった場合は、防護柵の設置を検討する必要がある。

【特記事項】

メアオスゲからは苞葉が短いことで、イトアオスゲからは根際に雌小穂をつけることで異なる。勝山 (2005) には「葉は大きさの割に幅が広く、ふつう幅 2~3mm、ときに 4mm に達し……」と記述されているが、愛知県のものの葉幅は他のアオスゲ類とそれほど異ならない。今まで「メアオスゲのような、イトアオスゲのような……」と思っていた植物で、勝山氏の同定に従い、本変種にあてておく。

【引用文献】

勝山輝男. 2005. ネイチャーガイド 日本のスゲ p.240. 文一総合出版, 東京.

【関連文献】

平新版 1 p.321.

キノクニスゲ *Carex matsumurae* Franch.

【評価理由】

個体数階級 2、集団数階級 2、生育環境階級 3、人為圧階級 1、固有性階級 3、総点 11。暖地性の植物で、愛知県は分布域の東限にあたる。県内では生育地が少ない。

【形態】

常緑性の多年生草本。匍匐枝はなく、大きな株を作る。茎は高さ 30~40cm、3 稜があり、基部の葉鞘は淡褐色で、後に著しく暗色の繊維に分解する。葉は線形、やや硬く光沢があり、幅 8~12mm である。果期は 3~5 月、小穂は 4~5 個、頂小穂は雄性、線形で長さ 3~5cm、側小穂は雌性で円柱形、長さ 2.5~3.5cm、直径約 7mm、短い柄があり、先端部にはしばしば少数の雄花がつく。苞は小さい葉状で、長い鞘がある。果胞は紡錘状楕円形、長さ 4~5mm、無毛、短い嘴がある。雌花の柱頭は通常 2 個である。

【分布の概要】

【県内の分布】

東：14 蒲郡（井上美保子 442, 1992-9-6）、17 田原東部（小林 74602, 2002-4-7）。西：36 西尾南部（芹沢 81377, 2007-5-21）。尾：44b 南知多（芹沢 81298, 2007-5-12）。県内の自生地はほとんど三河湾内の小島に限られており、島以外では西尾市東幡豆と田原市浦で採集されているだけである。

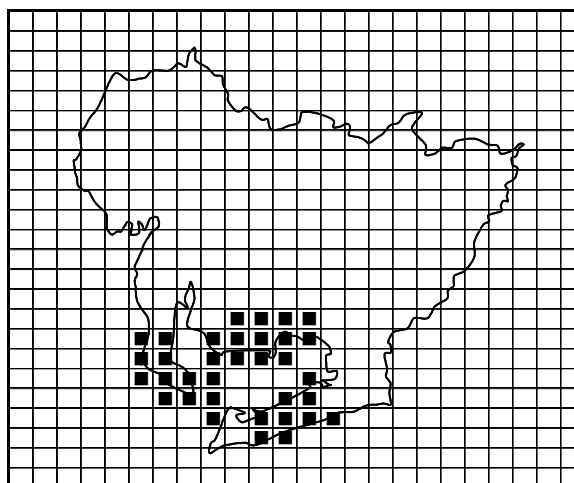
【国内の分布】

本州（日本海側は富山県、太平洋側は愛知県以西）、四国、九州。

【世界の分布】

日本および朝鮮半島南部。

要配慮地区図



【生育地の環境／生態的特性】

暖地の海岸近くの常緑広葉樹林内に生育する。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				○
草・岩				
湿地				
水域				

【現在の生育状況／減少の要因】

生育地は限られているが、そこでの個体数は比較的多い。今までは三河湾の観光開発により大きな影響を受けてきたが、最近は小康状態である。

【保全上の留意点】

本種は美しい花が咲く植物でないため、社寺林として保全されている場所では、目障りなものとして除去されるおそれがある。貴重な植物であることを認識する必要がある。また無人島では、現状のままならば、将来とも存続できるものと思われる。再開発等を企画する場合には、特に注意が必要である。

【関連文献】

保草本Ⅲ p.273, 平草本Ⅰ p.158, 平新版Ⅰ p.316, SOS 旧版 p.104.
勝山輝男. 2005. ネイチャーガイド 日本のスゲ p.155. 文一総合出版, 東京.

キシウナキリスゲ *Carex nachiana* Ohwi

【評価理由】

個体数階級 2、集団数階級 2、生育環境階級 3、人為圧階級 2、固有性階級 2、総点 11。全国的に減少傾向が著しい暖地性の植物で、愛知県では生育範囲が限られている。

【形態】

常緑性の多年生草本。匍匐枝はなく、株を作る。茎は高さ 80～120cm、3 稜があり、基部の葉鞘は黒褐色で、繊維に分解する。葉は細い線形、幅 3～4mm である。果期は 9～10 月、小穂は多数つき、いずれも雌雄性、有柄、線状楕円形、長さ 1.5～3cm、先端部には雄花、中下部には雌花がややまばらにつく。苞は小さい葉状、基部は長い鞘となる。果胞は長卵形、長さ 3.5～4.5mm、辺縁に短い刺状毛があり、先端は次第に細まってやや長い嘴となる。雌花の柱頭は 2 個である。

【分布の概要】

【県内の分布】

東：13 豊川（小林 80303, 2003-10-5）、14 蒲郡（小林 80489, 2003-11-2）、15 豊橋北部（小林 65330, 1998-10-4）、16 豊橋南部（小林 40393, 1992-11-8）、17 田原東部（小林 48735, 1993-10-16）、18 田原西部（芹沢 90804, 2015-10-12）。尾：44a 美浜（芹沢 82781, 2007-11-3）。

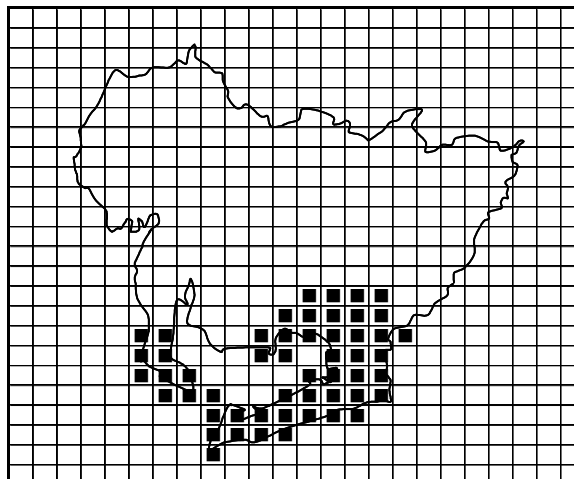
【国内の分布】

本州、四国、九州。

【世界の分布】

日本および中国大陸。

要配慮地区図



【生育地の環境／生態的特性】

海岸近くの丘陵地の林内に生育する。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林		○		○
草・岩				
湿地				
水域				

【現在の生育状況／減少の要因】

渥美半島には比較的多い。しかし、農地開発や産業廃棄物処分場の建設などにより海岸近くの森林が荒廃しており、林内の本種も減少している。

【保全上の留意点】

海岸部の森林を保全することが必要である。

【特記事項】

ナキリスゲ類の中では最も大型の種である。ただし、草地などに生える場合は、高さ 30cm 程度になってしまうこともある。キシウナキリとも呼ばれる。

【関連文献】

保草本Ⅲ p.279, 平草本Ⅰ p.152, 平新版Ⅰ p.308, 環境省 p.576, SOS 旧版 p.105, SOS 新版 p.147,149.
勝山輝男. 2005. ネイチャーガイド 日本のスゲ p.86. 文一総合出版, 東京.

キイトスゲ *Carex sachalinensis* F.Schmidt var. *fulva* (Ohwi) Ohwi

【評価理由】

個体数階級 2、集団数階級 4、生育環境階級 3、人為圧階級 1、固有性階級 1、総点 11。愛知県では生育地が限られている。

【形態】

多年生草本。長い匍匐枝があり、小さい株を作る。茎は高さ 20～35cm、基部の葉鞘は淡褐色～淡黄褐色で、後に多少繊維状になる。葉は細い線形、幅 1.2～2.5mm である。果期は 5 月下旬～6 月、小穂は 3～4 個で互いに離れてつき、頂小穂は雄性、線状楕円形で長さ 1～2.5cm、鱗片は黄褐色で中央は緑色となる。側小穂は雌性で長さ 1～2cm、7～12 個の果胞をややまばらにつける。苞は長い鞘があり、葉身は長くても 5cm 程度である。果胞は長さ 2.5～3mm、先端は次第に細くなって短い嘴状になる。雌花の柱頭は 3 個である。

【分布の概要】

【県内の分布】

東：2 豊根（茶臼山、畑佐武司 8404, 2012-6-8）。

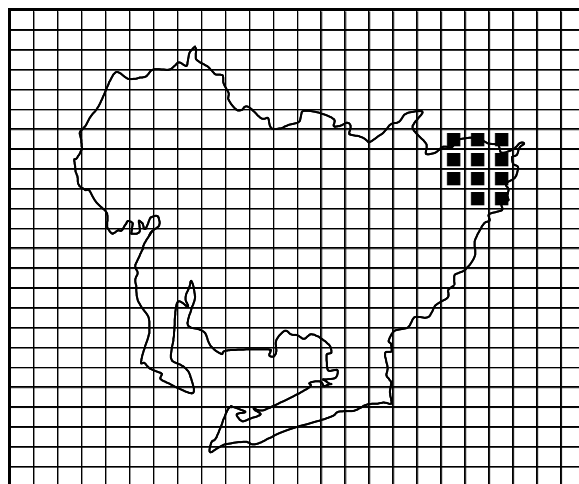
【国内の分布】

北海道、本州（中部地方～中国地方）。

【世界の分布】

日本固有変種。種としても日本固有である。

要配慮地区図



【生育地の環境／生態的特性】

落葉広葉樹林の林床や林縁に生育する。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林	○			
草・岩				
湿地				
水域				

【現在の生育状況／減少の要因】

愛知県内では茶臼山で確認されているだけであるが、そこでは個体数は多い。現在のところ特に減少してはいないが、ニホンジカの食害により衰退する可能性はある。

【保全上の留意点】

食害が顕著になった場合は、防護柵の設置を検討する必要がある。

【特記事項】

丘陵地に生育するチャイトスゲによく似ているが、山地性で、雌鱗片が黄褐色を帯びる。愛知県の山地に多いオオイトスゲ（シロイトスゲ）からは、茎基部の鞘や雄小穂が褐色を帯びることで見分けられる。今まで「チャイトスゲに似ているが、他産地とは相当離れているのでどうもおかしい」と思っていた植物で、勝山氏の同定に従い、本変種にあてておく。

【関連文献】

保草Ⅲp.271, 平新版 1 p.319.
勝山輝男. 2005. ネイチャーガイド 日本のスゲ p.218. 文一総合出版, 東京.

ジングウスゲ *Carex sacrosancta* Honda

【評価理由】

個体数階級 1、集団数階級 2、生育環境階級 3、人為圧階級 2、固有性階級 2、総点 10。全国的にやや希少な植物である。総点は 10 でリスト外になるが、全国的状況と無視されやすい植物であることを考慮し、準絶滅危惧と評価する。

【形態】

常緑性の多年生草本。匍匐枝はなく、小さい株を作る。茎は高さ 20~50cm、3 稜があり、基部の葉鞘は淡褐色~褐色で、繊維に分解する。葉は細い線形、幅 1.5~2.5mm である。果期は 9~10 月、小穂は 4~6 個つき、いずれも雌雄性、有柄、線状楕円形、長さ 1~2.5cm、先端部には雄花、中下部には雌花がまばらにつく。苞は刺状~小さい葉状、基部は長さ 0.7~1.5cm の鞘となる。果胞は紡錘状卵形、長さ約 4mm、脈上にまばらに短い刺状毛があり、先端はやや長い嘴となる。雌花の柱頭は 2 個である。

【分布の概要】

【県内の分布】

東：7 設楽東部 (小林 53621, 1994-9-10)、8 鳳来北東部 (小林 40122, 1992-10-24)、9 鳳来南部 (小林 22288, 1980-10-5)、12 新城 (小林 40189, 1992-10-25)、13 豊川 (芹沢 84813, 2009-9-5)。西：24 豊田東部 (小林 62161, 1997-9-6)、25 豊田北西部 (芹沢 85223, 2009-10-18)。

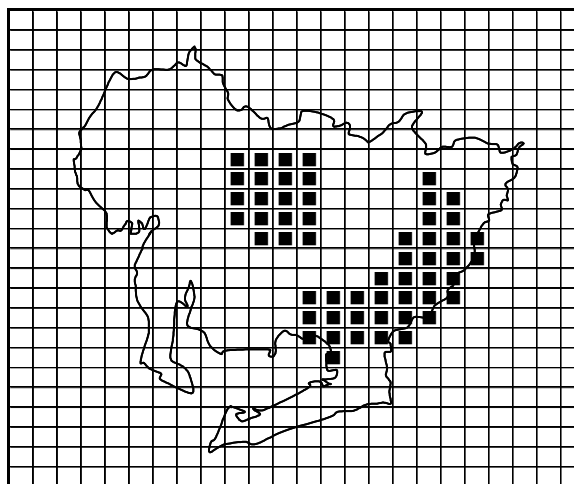
【国内の分布】

本州 (伊豆諸島以西)、四国、九州。

【世界の分布】

日本および台湾。

要配慮地区図



【生育地の環境／生態的特性】

低山地の林内や林縁に生育する。スギ造林地内にも生育している。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林	○			
草・岩				
湿地				
水域				

【現在の生育状況／減少の要因】

全国的に見ればやや少ない植物であるが、東三河中部の山地には比較的多く、沢沿いの林内や林縁に点在している。

【保全上の留意点】

造林地内に生育するものについては、間伐など適切な管理が必要である。

【特記事項】

ナキリスゲ類の 1 種で、全体に小型で、果胞がまばらにつくことが特徴である。ヒメナキリスゲとも呼ばれる。和名は、伊勢神宮で最初に発見されたからである。

【関連文献】

保草本Ⅲ p.276, 平草本 I p.152, 平新版 I p.308, SOS 旧版 p.106, SOS 新版 p.27,29.
勝山輝男, 2005. ネイチャーガイド 日本のスゲ p.88. 文一総合出版, 東京.

ホソバカンスゲ *Carex temnolepis* Franch.

【評価理由】

個体数階級 1、集団数階級 4、生育環境階級 3、人為圧階級 1、固有性階級 2、総点 11。日本海系の植物で、愛知県は分布域の南限にあたる。県内では生育地が極めて少ない。

【形態】

常緑性の多年生草本。匍匐枝はなく、株を作る。茎は高さ 25～40cm、3 稜があり、基部の葉鞘は褐色で多少繊維に分解する。葉は線形、長さ 20～40cm、幅 3～6mm、辺縁は上半部に上向きの微少な鋸歯があり、基部は逆方向にざらつく。果期は 5 月、小穂は 3～5 個、下方のものは互いに離れ、頂小穂は雄性、線形で長さ 2.5～4.5cm、側小穂は雌性で円柱形、長さ 1.5～3cm、最下のものには長い、上部のものにはやや短い柄がある。カンスゲに比べて葉が細く、またカンスゲでは頂芽が伸長し続けるのに対し本変種は花茎が形成されて仮軸分枝する。

【分布の概要】

【県内の分布】

東：6 設楽西部。段戸山裏谷（芹沢 82874, 2008-5-17）に大きな群落があり、本谷（小林 51792, 1994-5-29）でも採集されている。

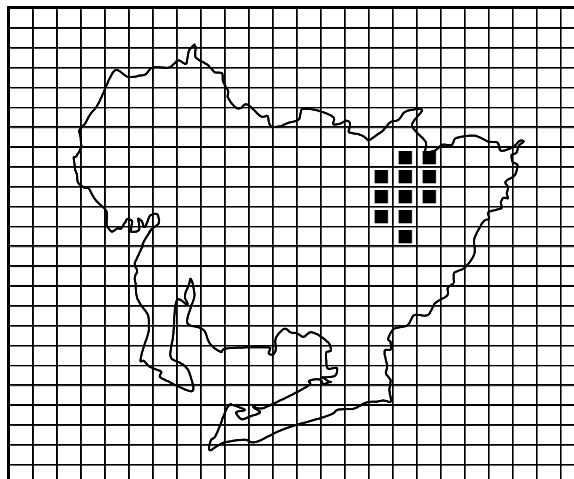
【国内の分布】

本州（岩手県、東北地方南部～兵庫県の日本海側、愛知県）。

【世界の分布】

日本固有種。

要配慮地区図



【生育地の環境／生態的特性】

山地の林内に生育する。愛知県の場合、段戸山裏谷では沢沿いのモミと落葉広葉樹の混交林内にカンスゲと混生して生育している。本谷ではブナ、ミズナラの二次林やスギ造林地内に生育しているという。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林	○			
草・岩				
湿地				
水域				

【現在の生育状況／減少の要因】

生育範囲は狭いが、そこでの個体数は多い。裏谷は学術考証林として保護されており、過去から大きな変化はなく、将来もそのまま維持されると思われる。本谷の自生地は自然林が伐採された時に大きな影響を受けたはずであるが、その後やや回復して現在に至っているものと思われる。しかし今後は、造林地の手入れ不足による被陰のため、減少する可能性がある。

【保全上の留意点】

日本の造林地は、木材価格の低迷のために手入れされず、全体に荒廃が進んでおり、間伐など適切な管理に努める必要がある。また、造林地を自然林に戻す方策も検討する必要がある。

【特記事項】

本変種の同定は、神奈川県立生命の星・地球博物館の勝山輝男氏による。レッドデータブックあいち 2001 植物編ではスルガスゲとして収録したが、誤同定であった。

【関連文献】

平草本 I p.158, 平新版 1 p.318.

勝山輝男. 2005. ネイチャーガイド 日本のスゲ p.192. 文一総合出版, 東京.

ヌマガヤツリ *Cyperus glomeratus* L.

【評価理由】

個体数階級 3、集団数階級 3、生育環境階級 2、人為圧階級 2、固有性階級 1、総点 11。低湿地性の植物で、愛知県では生育地も個体数も極めて少ない。

【形態】

1 年生草本。茎は太く、単生または少数束生し、高さ 40～90cm、下部は濃褐色の葉鞘に包まれる。葉身は線形、幅 3～7mm である。花期は 9～10 月、花序の枝は長さ 3～10cm であるが、小型の個体では出ないこともあり、苞は 3～4 個で葉状、花序よりも長い。小穂は密集して長卵形で長さ 3～4cm の花穂をつくり、その花穂が花序の枝の先端に 3～5 個つく。小穂は線形、長さ 5～10mm、茶褐色、扁平、10～20 個の花からなり、鱗片は長楕円形である。

【分布の概要】

【県内の分布】

東：1 富山 (小林 54019, 1994-9-23)、13 豊川 (小林 76414, 2002-10-6)、14 蒲郡 (小林 80333, 2003-10-11)。尾：37b 尾張旭 (村松正雄 16788, 1996-10-10)。木曾三川下流部にもありそうだが、現在のところ確認できない。

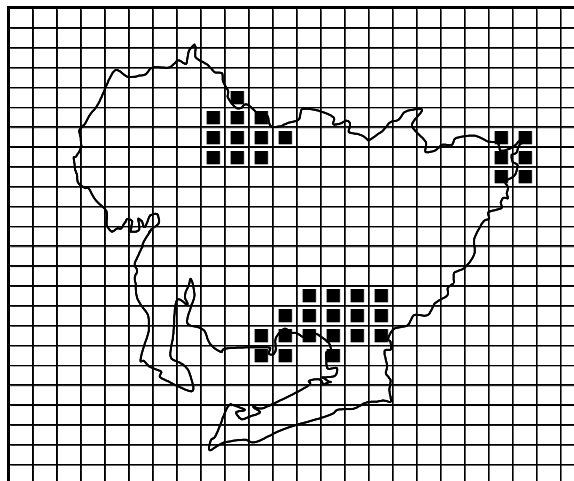
【国内の分布】

本州に生育する。関東地方利根川水系の河川敷には比較的多いが、他ではあまり見られない。

【世界の分布】

日本、朝鮮半島、中国大陸、アムール、インド、ヨーロッパに分布する。

要配慮地区図



【生育地の環境／生態的特性】

河川敷や池沼の周辺などの低湿地に生育する。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩				
湿地	○	○		
水域				

【現在の生育状況／減少の要因】

富山では、佐久間湖に堆積した土砂でできた低湿地状の場所に小群落があった。豊川は碎石場調整池、蒲郡は埋立地に生育していたという (小林 2004)。尾張旭では休耕田に 1 株生育していただけで、その場所は現在では耕作が再開されており、周辺の他の場所でも確認できない。

【保全上の留意点】

愛知県では完全に定着しているとは言い難い植物で、既知の生育地はいずれも二次的に形成された場所である。生育地の個別的な保全は難しく、また無理に保全してもそこで長期的に存続するという保証はない。このような植物の場合は、発見したらなるべく完全な標本を作成し、分布情報の蓄積を図るべきである。その一方で、低湿地的な環境を全体として保全し、本種が安定して生育できるような場所を確保することも重要である。

【特記事項】

1 年生であるが大型のカヤツリグサで、茶褐色の密な花穂が特徴である。今後他の場所でも生育が確認される可能性がある。

【引用文献】

小林元男. 2004. 宝飯の植物 p.67, 200. 東三河農林水産事務所, 豊橋.

【関連文献】

保草本Ⅲp.245, 平草本Ⅰp.183, 平新版Ⅰp.341.

ウンヌケ *Eularla speciosa* (Debeaux) O.Kuntze

【評価理由】

個体数階級 1、集団数階級 1、生育環境階級 4、人為圧階級 2、固有性階級 3、総点 11。本地域の丘陵地を代表する植物の一つで、本地域に隔離的に分布しており、分布域の東限にあたる。

【形態】

多年生草本。稈は束生して株をつくり、直立し、高さ 80~120cm、茎の基部には枯れた葉が残存し、黄褐色の毛が密生する葉鞘に囲まれる。葉は叢生し、葉身は線形、20~45cm、幅 5~8mm、葉身の基部と鞘の上部に白い毛がある。花期は 9~10 月、花序は長さ 10~15cm の枝を 4~9 本つけ、その枝に小穂が並ぶ。花序の枝は開花時には開くが、花が終わるとほとんど直立する。小穂は有柄のものと無柄のものが対になって枝につき、披針形、長さ約 5mm、毛が多く、不稔の第 1 小花と結実する第 2 小花からなり、第 2 小花の護穎には長い芒がある。種子が熟すと、花序の枝が折れて散布される。

【分布の概要】

【県内の分布】

東：9 鳳来南部（加藤等次 5504, 1996-10-18）、11 作手（小林 60371, 1996-10-20）、12 新城（加藤等次 4202, 1993-10-26）、13 豊川（芹沢 60828, 1991-10-13）、15 豊橋北部（芹沢 68574, 1993-10-6）、17 田原東部（芹沢 73296, 1996-9-29）。西：20 足助（芹沢 72527, 1995-10-20）、21 下山（芹沢 83600, 2008-10-17）、23 藤岡（芹沢 77665, 2001-9-24）、24 豊田東部（芹沢 68179, 1993-10-1）、25 豊田北西部（芹沢 60869, 1991-10-16）、27 みよし（芹沢 63861, 1992-9-28）、28 額田（芹沢 60883, 1991-10-21）、29 岡崎北部（芹沢 68060, 1993-9-25）、30 岡崎南部（芹沢 71009, 1994-9-22）、31 幸田（芹沢 73295, 1995-10-9）、36 西尾南部（芹沢 71166, 1994-9-24）。尾：37a 瀬戸（塚本威彦 2836, 1999-9-24）、37b 尾張旭（芹沢 76997, 2007-10-1）、38a 長久手（半田多美子 2975, 2000-9-24）、38b 日進（芹沢 90701, 2015-10-3）、39a 東郷（芹沢 90697, 2015-10-3）、39b 豊明（浅野守彦 1990, 2004-10-24）、40a 大府（芹沢 60472, 1991-9-29）、41a 東海（芹沢 74330, 1997-9-30）、42a 阿久比（芹沢 72334, 1995-10-3）、42b 半田（芹沢 77065, 2000-10-11）、42c 武豊（林 彰一 808, 1990-9-27）、43 常滑（梅田零奈 734, 2000-9-14）、44a 美浜（林 彰一 841, 1990-9-7）、47 小牧（芹沢 57799, 1990-10-17）、48 春日井（芹沢 76589, 1999-10-9）、50 名古屋北部（鳥居ちゑ子 3283, 2013-9-23）、51 名古屋南東部（芹沢 77732, 2001-10-13）。14 蒲郡（三ヶ根山, 加藤等次 s.n., 1956-9-23）、16 豊橋南部（寺沢町, 小林 23334, 1981-10-18）で採集された標本もある。平野部や三河山地にはなく、渥美半島の大部分、知多半島先端部、犬山にも生育していない。

【国内の分布】

本州（静岡県西部、愛知県、岐阜県南部、兵庫県）、四国北部、九州北部。国内の詳細な分布は、野寄ほか（1997）にまとめられている。

【世界の分布】

日本、朝鮮半島、中国大陸、タイ、インド。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩		○		
湿地				
水域				

【生育地の環境／生態的特性】

日当たりのよい草地や半裸地に生育する。やせ山の尾根筋などのほか、谷戸田周辺の里草地にもよく生育している。

【現在の生育状況／減少の要因】

現在の所はまだ生育地も個体数も多いが、草地の減少に伴い、特に分布域の周辺部では減少傾向が著しい。

【保全上の留意点】

定期的に草刈りが行われる里草地は、多くの草地性植物の生育場所になっている。文化財としても重要な意味があり、注意して保全を図る必要がある。やせ山についてはウンヌケモドキの項（455 頁）を参照されたい。

【特記事項】

和名は牛の毛という意味で、尾張地方の方言に由来すると言われる。愛知県には多いが全国的には稀少な植物で、そのため国と県の間で、評価の逆転現象が起きている。

【引用文献】

野寄玲児・小林禮樹・藤本義昭.1997. 兵庫県新産のウンヌケ(イネ科)の分布とその生育環境. 植物分類地理 48: 197-204.

【関連文献】

保草本Ⅲp.381, 平草本Ⅰp.93, 平新版Ⅱp.85, 環境省 p.563, SOS 旧版 p.99+図版 12, SOS 新版 p.86,88.
長田武正. 1989. 日本イネ科植物図譜 p.690-691. 平凡社, 東京.

トウササクサ *Lophatherum sinense* Rendle

【評価理由】

個体数階級 2、集団数階級 2、生育環境階級 3、人為圧階級 2、固有性階級 2、総点 11。西日本系の植物で、愛知県は分布域の東限にあたる。県内での分布は、特定の範囲に限られている。

【形態】

多年生草本。稈は束生し、高さ 60～90cm になる。葉は少数が互生し、葉身は広披針形、長さ 10～30cm、幅 2～5cm、先端は鋭尖頭、葉脈は横の小脈で結ばれて方眼状になり、基部は急に細まり、短い柄状になり、葉鞘はまばらに開出毛があるか無毛、葉舌は小さい。花期は 8～10 月、円錐花序は長さ 15～30cm、枝は各節から 1 本ずつ出て分枝せず、その枝に小穂が並ぶ。小穂はゆがんだ長卵形、長さ 7～8mm で扁平、1 個の結実する小花と、数個の不稔の小花からなり、結実する小花の護穎は背面が「く」の字形にふくらむ。護穎の先端には短い芒があり、芒には下向きの小刺があつて、衣服に付着する。

【分布の概要】

【県内の分布】

東：7 設楽東部 (小林 60410, 1996-10-26)、10 鳳来北西部 (芹沢 70506, 1994-8-28)、11 作手 (小林 58199, 1995-9-30)。尾：37a 瀬戸 (日比野修 5481, 2002-9-25)、45 犬山 (芹沢 71324, 1994-10-15)、47 小牧 (日比野修 4997, 1999-9-11)。県内での分布は 2 区域に分かれており、中間の西三河ではまだ確認されていない。

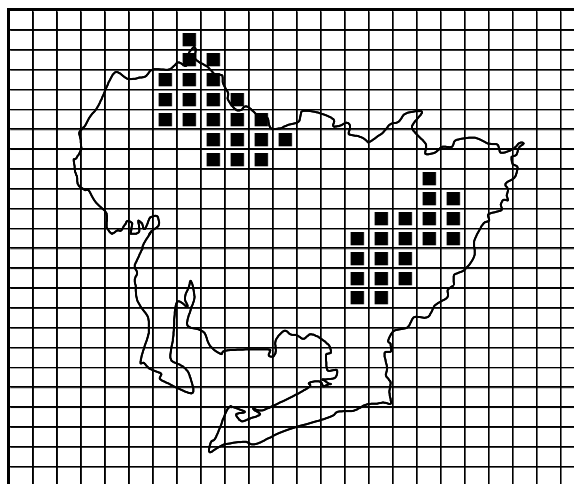
【国内の分布】

本州 (日本海側は新潟県西部、太平洋側は愛知県以西)、四国、九州。

【世界の分布】

日本および中国大陸中部。

要配慮地区図



【生育地の環境／生態的特性】

丘陵地～低山地の二次林内に生育する。造林地内にも生育している。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林	○	○		
草・岩				
湿地				
水域				

【現在の生育状況／減少の要因】

生育範囲は限られているが、そこでは小群落が点在している。道路の拡幅、森林の伐採等により減少するおそれがある。

【保全上の留意点】

本種のような美しい花をつけない植物は、その重要性が意識されないまま、工事等により消失してしまう可能性がある。目立たない植物の中にも重要なものがあることを認識する必要がある。

【特記事項】

ササクサに比べ、小穂は短く、幅広く、枝にやや密に並んでつく。

【関連文献】

保草本Ⅲ p.329, 平草本Ⅰ p.108, 平新版 2 p.77, SOS 旧版 p.100.
長田武正. 1989. 日本イネ科植物図譜 p.442-443. 平凡社, 東京.

ウキシバ *Pseudoraphis sordida* (Thwaites) S.M.Phillips et S.L.Chen

【評価理由】

個体数階級 2、集団数階級 1、生育環境階級 3、人為圧階級 3、固有性階級 2、総点 11。ため池などの水中や水辺に生育する植物で、生育できる環境が急激に減少している。

【形態】

多年生で浮葉性の水草。稈は束生し、水中を伸びて長さ 1m に達し、枝は斜上して水面に葉を浮かべる。葉は互生し、葉身は線形、長さ 3～5cm、幅 2～4mm、粉緑色をおび、無毛、葉鞘は葉身とほぼ同長で、小さい葉舌がある。花期は 8～9 月、花序は長さ 3～6cm、総状、基部は葉鞘の中にあつて多数の枝を出し、その枝が中軸に沿って立つため、見かけ上長楕円形となり、開花時には水上に出るが、花後水中に沈む。小穂は各枝に 1 個つき、披針形で長さ 4～5mm、枝に圧着し、雄性の第 1 小花と雌性の第 2 小花からなり、小穂の先の枝は芒状となるが、小花自体は無芒である。陸生型は茎が短く、小さいマット状になる。

【分布の概要】

【県内の分布】

東：13 豊川 (小林 65105, 1998-8-10)、17 田原東部 (小林 72869, 2001-7-15)、18 田原西部 (小林 73015, 2001-7-29)。西：25 豊田北西部 (芹沢 71302, 1994-10-14)、26 豊田南西部 (芹沢 70753, 1994-9-9)、30 岡崎南部 (小林 58282, 1995-10-7)、32a 刈谷 (芹沢 92641, 2017-7-10)。尾：37b 尾張旭 (村松正雄 21994, 2003-10-11)、39b 豊明 (浅野守彦 1967, 2004-8-14)、40b 東浦 (芹沢 70891, 1994-9-17)、42c 武豊 (芹沢 85141, 2009-10-3)、43 常滑 (林 彰一 138, 1990-6-17)、45 犬山 (芹沢 70929, 1994-9-20)、48 春日井 (芹沢 76593, 1999-10-9)、50 名古屋北部 (芹沢 75214, 1998-10-11)、51 名古屋南東部 (芹沢 77571, 2001-9-8)。15 豊橋北部 (岩田町水神池, 鳥居喜一 9873, 1949-9-25, HNSM) で採集された標本もある。

【国内の分布】

本州、四国、九州。

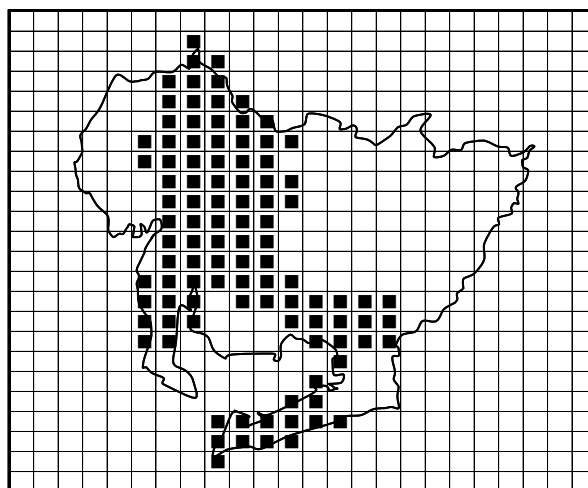
【世界の分布】

日本、朝鮮半島、中国大陸。

【生育地の環境／生態的特性】

池沼の水中に生育するが、干上がった岸などに生育することもある。生育地は、極めてというほどではなくてもそれなりに水のきれいなため池に限られている。

要配慮地区図



	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩				
湿地		○		
水域		○		

【現在の生育状況／減少の要因】

尾張とそれに接した西三河の、平野部に接した浅い丘陵地のため池には比較的多く見られるが、それ以外では極めて稀である。開発圧力の高い地域であるだけに、ため池の埋め立てや改修、水の汚れなどにより、生育できる場所は急激に減少している。特に、浮葉型は見る機会が減少している。

【保全上の留意点】

ため池を維持し、水質を保全することが必要である。西三河東部と東三河では生育地が少なく、個別的な保護を要する。

【特記事項】

イネ科には湿地性のものは多いが、水草になるものは少ない。

【関連文献】

保草本Ⅲ p.370, 平草本 I p.101, 平新版 2 p.94, SOS 旧版 p.100, SOS 新版 p.118,120.
角野康郎. 1994. 日本水草図鑑 p.68. 文一総合出版, 東京.
長田武正. 1989. 日本イネ科植物図譜 p.634-635. 平凡社, 東京.

ハマエノコロ

Setaria viridis (L.) Beauv. var. *pachystachys* (Franch. et Sav.) Makino et Nemoto

【評価理由】

個体数階級 2、集団数階級 3、生育環境階級 3、人為圧階級 2、固有性階級 1、総点 11。海浜性の植物で、愛知県では生育地も個体数も少ない。なお、今回の準絶滅危惧という評価は海浜性の典型的なものについてであり、やや内陸部などに見られるエノコログサとの中間型は対象外である。

【形態】

1 年生草本。稈は根ざわで分枝し、ほうき状に束生し、高さ 5～15cm である。葉は互生し、葉身は短い線形～披針形、長さ 5～10cm、幅 5～13mm、斜上して質はやや厚く、白色の縁があり、無毛、葉舌は軟毛の列となる。花期は 8～11 月、花序は楕円形で、長さ 1～4cm、直立し、多数の小穂を密につけ、その下に淡緑色の長い刺毛がある。小穂は楕円形、長さ 2mm 程度、不稔の第 1 小花と結実する第 2 小花からなり、第 2 苞穎は小花とほぼ同じ長さである。基準変種のエノコログサに比べ、丈が低く、花序が短く、刺毛が長くて密生するが、中間型もある。

【分布の概要】

【県内の分布】

東：16 豊橋南部 (小林 40400, 1992-11-8)、18 田原西部 (芹沢 80796, 2006-8-29)。西：36 西尾南部 (芹沢 87470, 2011-10-6)。尾：42c 武豊 (畑佐武司 818, 1999-9-17)、44b 南知多 (芹沢 83448, 2008-10-3)。ただし西尾南部、武豊、南知多のものは、典型的なものに比べるとやや大型である。小林・深谷 (2008) によれば南知多の篠島以外のいくつかの島にもあるという。

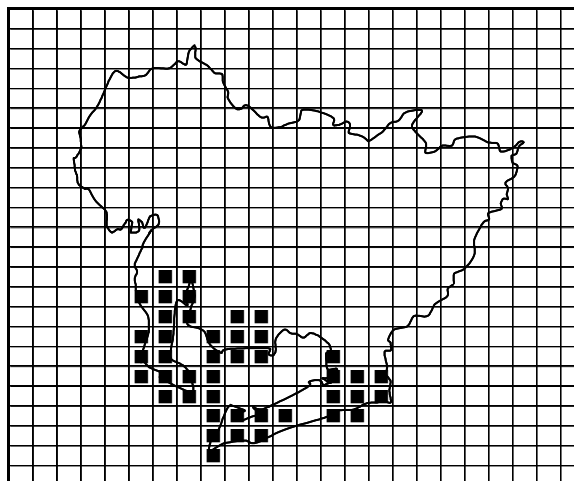
【国内の分布】

北海道、本州、四国、九州に生育する。

【世界の分布】

日本、朝鮮半島 (済州島)、台湾、中国大陸南部に分布する。

要配慮地区図



【生育地の環境／生態的特性】

海岸の砂地や岩場に生育する。道路工事等で多少攪乱された場所に生育することもある。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩				○
湿地				
水域				

【現在の生育状況／減少の要因】

4 区画の 5 カ所で確認されているが、いずれも個体数は少ない。攪乱に伴う帰化植物の増加や、砂浜へのオフロード車の乗り入れなどにより、減少傾向にある。

【保全上の留意点】

自然度の高い砂浜は、観光開発や護岸工事、あるいは陸地における砂防工事の進展による砂供給の停止により、全国的にも愛知県でも急激に減少している。現在砂浜の状態が残されている場所は、絶滅危惧種のあるなしにかかわらず、どこも注意して保全する必要がある。またオフロード車の乗り入れは砂浜の植生に甚大な影響を与えており、このような行為が行われないよう普及活動を推進する必要がある。

【引用文献】

小林元男・深谷昭登司. 2008. 佐久島・三河湾島々の植物 p.194, 277. 佐久島会, 刈谷.

【関連文献】

保草本Ⅲ p.369, 平草本Ⅰ p.101, 平新版 2 p.96.

長田武正. 1989. 日本イネ科植物図譜 p.606-607. 平凡社, 東京.

オニシバ *Zoysia macrostachya* Franch. et Sav.

【評価理由】

個体数階級 2、集団数階級 2、生育環境階級 4、人為圧階級 2、固有性階級 1、総点 11。海浜性の植物で、愛知県では生育範囲が限られている。

【形態】

小型で硬質の多年生草本。根茎は砂中を長くはう。地上茎は節から出て直立し、地表近くで枝を分け、地上部は高さ 10～15cm である。葉は互生し、葉身は披針形、長さ 3～8cm、幅 2～5mm、乾けば管状になり、中央脈は不明瞭、先端は硬い針状になる。葉鞘は口部に長い毛を密生し、葉舌も毛の列となる。花期は 6～8 月、花序は穂状で長さ 3～4cm、幅 6～8mm、基部は最上葉の鞘に包まれ、小穂は長楕円形、長さ 6～8mm、幅約 2mm、左右から扁平で 1 小花からなり、芒はない。

【分布の概要】

【県内の分布】

東：16 豊橋南部（加藤等次 7620, 1999-7-11）、17 田原東部（小林 40409, 1992-11-8）、18 田原西部（芹沢 79243, 2004-6-28）。

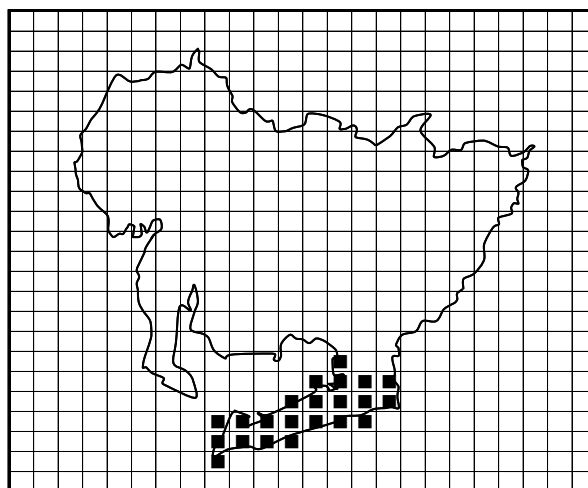
【国内の分布】

北海道（南西部）、本州、四国、九州、琉球の海岸の砂浜に生育する。

【世界の分布】

日本固有種。

要配慮地区図



【生育地の環境／生態的特性】

海岸の砂地に生育し、まばらな群落を作る。今回は地下茎がつながっていると思われるものを同一個体として見積もったため、個体数階級が 2 となっている。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩				○
湿地				
水域				

【現在の生育状況／減少の要因】

渥美半島太平洋側の砂浜に点在しているが、防波堤やサイクリングロードの建設、オフロード車の乗り入れなどにより減少している。

【保全上の留意点】

自然度の高い砂浜は、観光開発や護岸工事、あるいは陸地における砂防工事の進展による砂供給の停止により、全国的にも愛知県でも急激に減少している。現在砂浜の状態が残されている場所は、絶滅危惧種のあるなしにかかわらず、どこも注意して保全する必要がある。またオフロード車の乗り入れは砂浜の植生に甚大な影響を与えており、このような行為が行われないよう普及活動を推進する必要がある。

【特記事項】

ナガミノオニシバ *Z. sinica* Hance var. *nipponica* Ohwi は本種と異なり内湾性の植物で、愛知県では三河湾の岸に点在している。

【関連文献】

保草本Ⅲ p.361, 平草本 I p.102, 平新版 2 p.73, SOS 新版 p.151,152.
長田武正. 1989. 日本イネ科植物図譜 p.540-541. 平凡社, 東京.

ヘビノボラズ *Berberis sieboldii* Miq.

【評価理由】

個体数階級 1、集団数階級 1、生育環境階級 4、人為圧階級 2、固有性階級 3、総点 11。本地域の湧水湿地を特徴づける準固有種である。

【形態】

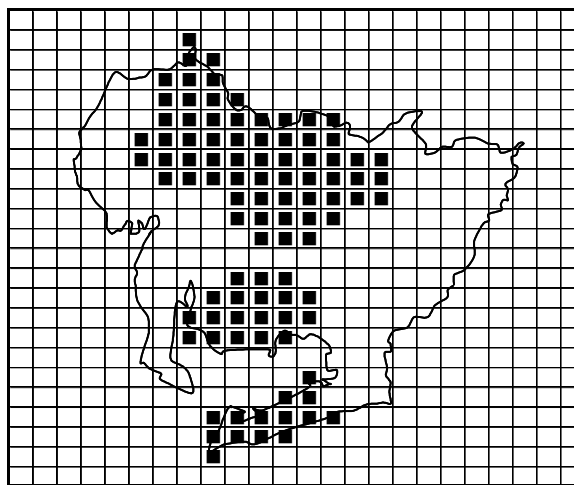
小形の落葉性低木。茎は細く、直立して多少分枝し、高さ 80cm くらいになり、鋭い刺針がある。刺針は長さ 5～15mm で、多くは基部で 3 分枝する。葉は倒卵形または倒披針形、長さ 3～9cm、幅 1～2cm、先端は鋭頭またはやや鈍頭、辺縁には先が刺状になった細かい鋸歯がある。葉裏は普通緑色であるが、帯白色のものもある。花期は 4～5 月、短枝の先から垂れ下がる総状花序を出し、数個の黄色の花をつける。花序はふつう葉よりも短い。果実は赤く熟し、球形～やや楕円形、長さ約 6mm である。

【分布の概要】

【県内の分布】

東：17 田原東部（芹沢 55011*, 1990-5-22）、18 田原西部（芹沢 58203*, 1991-4-29）。西：20 足助（日比野修 3804, 1996-10-5）、22 小原（日比野修 2684, 1994-10-23）、23 藤岡（芹沢 54918*, 1990-6-17; 日比野修 1460, 1993-7-19）、24 豊田東部（芹沢 75404, 75405*, 1999-4-29）、25 豊田北西部（畑佐武司 1679, 2001-4-29）、30 岡崎南部（芹沢 69088, 1994-5-6）、31 幸田（芹沢 58194, 1991-4-27）、35 西尾北部（芹沢 54129, 1989-11-12）。尾：37a 瀬戸（塚本威彦 2750*, 1998-12-7; 芹沢 80568, 2006-6-3）、45 犬山（芹沢 69241, 1994-5-17）、47 小牧（日比野修 4911, 1999-7-17）、48 春日井（山田果与乃 469*, 1999-4-30）、50 名古屋北部（芹沢 51066, 1989-4-4）。*は葉裏が帯白色の型である。11 作手（東田原、鳥居喜一 5808, 1982-5-27, HNSM）と 16 豊橋南部（大清水、恒川敏雄 s.n.= 鳥居 14608, 採集日不明, HNSM）で採集された標本もある。シデコブシと同じような分布をしており、豊橋北部では発見されておらず、知多半島にもない。作手は「中央部の湿地」（鳥居 1982）と報告されており、この辺りという場所も教えてもらったが、確認できなかった。

要配慮地区図



【国内の分布】

本州（東海地方西部、近畿地方）、九州（宮崎県）に分布する。

【世界の分布】

日本固有種。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩				
湿地		○		
水域				

【生育地の環境／生態的特性】

湧水湿地周辺の林縁や疎林内に生育する。

【現在の生育状況／減少の要因】

現在のところはまだ生育地も個体数も多いが、丘陵地に生育しているだけに開発の影響を受けやすく、次第に減少している。湿地周辺の森林化に伴う被陰によっても衰退している。

【保全上の留意点】

愛知県のやせた丘陵地に点在する湧水湿地は、この地域を特徴づける植物が集中して生育しており、絶滅危惧種も多く、優先して保全すべき場所である。湧水湿地の保全のためには、湿地本体だけでなく、湧水を涵養する水源部の地形をあわせて保全する必要がある。

【特記事項】

鋭い針があってヘビも登れないというので、ヘビノボラズという。しかし、時には刺針がほとんどないものもある。彩色画は 2001 年版 図版 3 に掲載されている。

【引用文献】

鳥居喜一. 1982. 新城（愛知県）からコンニチワ植物の便り(Ⅲ). レポート日本の植物(14):129.

【関連文献】

保木本Ⅱp.174, 平木本Ⅰp.129, 平新版Ⅱp.115, SOS 旧版 p.51+図版 18.

アズマイチゲ *Anemone raddeana* Regel

【評価理由】

個体数階級 2、集団数階級 3、生育環境階級 3、人為圧階級 2、固有性階級 1、総点 11。温帯性の、代表的な早春植物である。愛知県では生育地が少ない。

【形態】

多年生草本。根茎は横にはい、ところどころに紡錘形のふくらみがある。根出葉は 2 回 3 出複葉で、小葉は 3 出状に分裂する。花茎は高さ 15～20cm、長軟毛があるが落ちやすく、茎葉は 3 枚が輪生し、柄があり、3 出複葉で垂れ気味に開出し、小葉は鋸歯はあっても深く切れ込むことはない。茎や葉は全体に青白色を帯びる。花期は 3～5 月、花茎に 2～3cm の花を 1 個頂生する。がく片は 8～13 枚で白色、裏面はやや紫色を帯びる。

【分布の概要】

【県内の分布】

東：2 豊根（村松正雄 15047, 1994-4-17）、
3 東栄（小林 41195, 1993-4-5）。

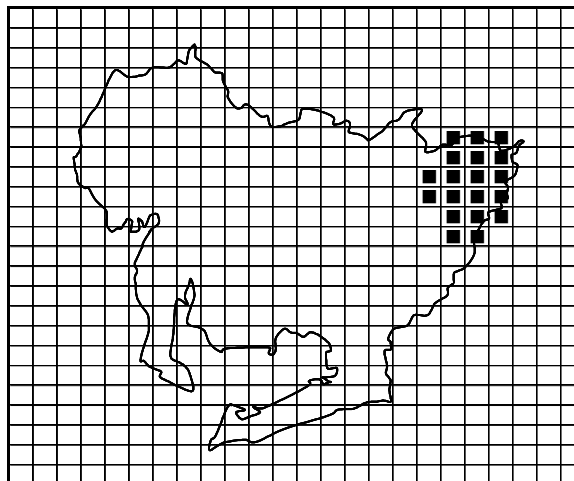
【国内の分布】

北海道、本州、四国、九州。

【世界の分布】

サハリン、日本、朝鮮半島、ウスリー。

要配慮地区図



【生育地の環境／生態的特性】

落葉広葉樹林の林内や林縁に生育する。春早く開花し、夏には地上部が消失する。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林	○			
草・岩				
湿地				
水域				

【現在の生育状況／減少の要因】

生育地は少ないが、その場所ではある程度の個体数が見られることが多い。しかし、二次林の利用停止に伴う林床植物の繁茂やスギ、ヒノキの造林により、開花個体は著しく減少している。道路沿いの群落の場合は、拡幅工事等により生育地が削られたり埋められたりするおそれがある。

【保全上の留意点】

造林地については、間伐などの手入れが必要である。開花期が早く少数回の調査では見落とされてしまうおそれがあるので、調査の際には注意を要する。園芸目的の採取を防止するため、分布情報の公表に際し慎重な配慮が必要である。

【特記事項】

「イチゲ」は 1 花のことで、花が 1 本の茎に 1 個だけつくからである。

【関連文献】

保草本Ⅱ p.233, 平草本Ⅱ p.69, 平新版 2 p.135, SOS 旧版 p.49.

ミスミソウ *Hepatica nobilis* Schreber var. *japonica* Nakai

【評価理由】

個体数階級 2、集団数階級 2、生育環境階級 3、人為圧階級 3、固有性階級 1、総点 11。愛知県では人為的な影響を受けやすい場所に生育しており、園芸目的の採取等により激減している。

【形態】

常緑性の多年生草本。細長く匍匐する根茎がある。根出葉は根茎の先に束生し、長い葉柄があり、やや3角形で基部は心形、幅3~6.5cm、3浅~深裂し、裂片は鋭頭である。花期は3~4月、高さ10~15cmの花茎の先端に、直径1~1.5cmの花を1個頂生する。花のすぐ下には、がくのように見える小さい茎葉が3枚輪生する。がく片は6~10枚、披針形~卵状披針形、色は変化が多く、白、淡青、淡紫、または淡紅色などのものがあるが、愛知県のものは白色である。

【分布の概要】

【県内の分布】

東：7 設楽東部（小林 33387, 1989-3-12）、12 新城（加藤等次 2687, 1993-4-13）、15 豊橋北部（芹沢 64706, 1993-4-27）、18 田原西部（小林 50026, 1994-2-27）。

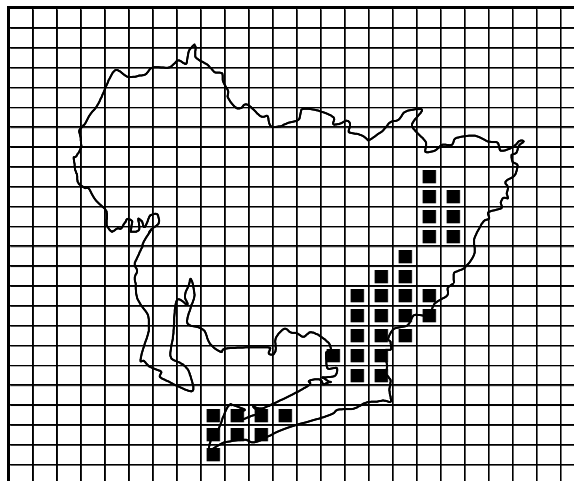
【国内の分布】

本州（中部地方以西）、九州北部に分布する。

【世界の分布】

変種としては日本固有とされている。種としてはヨーロッパと東アジアに隔離的に分布している。

要配慮地区図



【生育地の環境／生態的特性】

通常は落葉広葉樹林内に生育する。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林	○			
草・岩				
湿地				
水域				

【現在の生育状況／減少の要因】

点在するが、園芸目的の採取や林の伐採、遷移の進行等により、減少傾向が著しい。

【保全上の留意点】

園芸目的の採取やカメラマン、観察者の踏み荒らしを防止するため、常時監視できない場所では分布情報の公表に際し慎重な配慮が必要である。

【特記事項】

園芸植物として栽培され、いろいろな園芸品種がある。次頁のスハマソウと共に、地理的な分化に関して詳細な検討が必要な植物である。ミスミソウもスハマソウも愛知県における評価は準絶滅危惧であるが、両者を比較すればミスミソウの方が危機的である。

【関連文献】

保草本Ⅱ p.230, 平草本Ⅱ p.70, 平新版Ⅱ p.153, SOS 旧版 p.50.

スハマソウ *Hepatica nobilis* Schreber var. *japonica* Nakai form. *variegata* (Makino) Kitam.

【評価理由】

個体数階級 2、集団数階級 2、生育環境階級 3、人為圧階級 3、固有性階級 1、総点 11。愛知県では人為的な影響を受けやすい場所に生育しており、減少傾向が著しい。通常は前頁のミスミソウとは品種の階級で区別される植物で、環境省のレッドデータブックではミスミソウを含めて扱われているが、愛知県ではミスミソウが東三河、スハマソウが西三河・尾張と分布域が分かれているので、あえて区別して評価する。

【形態】

ミスミソウによく似ているが、根出葉の裂片は先端が鈍頭、茎葉の裂片は先端が鈍頭～円頭となる。

【分布の概要】

【県内の分布】

西：23 藤岡（芹沢 58006, 1991-4-2）、25 豊田北西部（畑佐武司 1580, 2001-4-7）。尾：37a 瀬戸（日比野修 82, 1992-3-26）、50 名古屋北部（芹沢 51071, 1989-4-4）。24 豊田東部（西広瀬町, 芹沢 58008, 1991-4-2）にもあったが、ここでは絶滅した。名古屋北部でも最近では現存を確認できない。

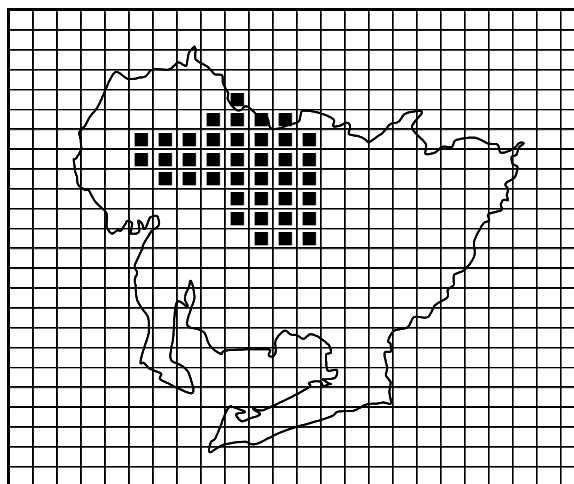
【国内の分布】

本州（山形県、宮城県以南）および四国。

【世界の分布】

日本固有とされている。種としてはヨーロッパと東アジアに隔離的に分布している。

要配慮地区図



【生育地の環境／生態的特性】

通常落葉広葉樹の二次林内に生育するが、造林地内に生育していることもある。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林	○	○		
草・岩				
湿地				
水域				

【現在の生育状況／減少の要因】

分布域内では点在しているが、開発や園芸目的の採取、遷移の進行（特にネザサの繁茂）等により減少している。豊田東部では土石採取のため生育地が破壊された。瀬戸市では、工業団地造成に際して自生地を伐採し人工緑地にする計画があったが、保全の要請が受け入れられ難を免れた。

【保全上の留意点】

園芸目的の採取やカメラマン、観察者の踏み荒らしを防止するため、常時監視できない場所では分布情報の公表に際し慎重な配慮が必要である。

【特記事項】

ミスミソウと共に、地理的な分化に関して詳細な検討が必要な植物である。

【関連文献】

保草本Ⅱ p.230, 平草本Ⅱ p.70, 平新版 2 p.153.

シギンカラマツ *Thalictrum actaeifolium* Siebold et Zucc.

【評価理由】

個体数階級 3、集団数階級 2、生育環境階級 3、人為圧階級 2、固有性階級 1、総点 11。西日本系の植物で、愛知県では個体数が少ない。

【形態】

多年生草本。茎はまばらに分枝し、高さ 30～70cm になる。茎葉は数個つき、2～3 回 3 出複葉、小葉は卵形または卵円形、長さ 2～6cm、幅は長さより広く、基部は円形または心形、裏面は灰白色になる。花期は 7～10 月、花は大きな複合の散房花序につき、直径 1cm 程度、長さ 5～10mm の花柄があり、がく片は 4 個、広楕円形で長さ約 4mm、花期には脱落する。

【分布の概要】

【県内の分布】

東：3 東栄（芹沢 87388, 2011-9-24）、15 豊橋北部（芹沢 67015, 1993-8-23）。西：5 稲武（芹沢 87487, 2011-10-8）、19 旭（日比野 修 2454, 1994-8-9）、20 足助（塚本威彦 2124, 1996-9-12）。

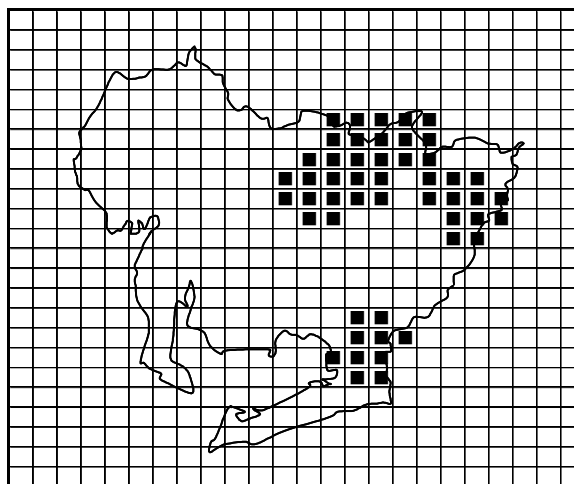
【国内の分布】

本州（関東地方南部以西）、四国、九州。

【世界の分布】

日本固有種。

要配慮地区図



【生育地の環境／生態的特性】

礫地などの林内や林縁に生育する。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林	○			
草・岩				
湿地				
水域				

【現在の生育状況／減少の要因】

点在するが、どの場所でも個体数は少ない。愛知県では主として二次林内や造林地に生育しており、二次林の利用停止に伴う林床植物の繁茂や造林地の手入れ不足による被陰のため、衰退傾向にある。その一方で、森林の伐採によって失われるおそれもある。

【保全上の留意点】

生育地の森林を、いわゆる里山状態で保全することが必要である。

【特記事項】

シギンカラマツはシキンカラマツに対する名で、紫錦の錦を「金」とよみかえ、それに対して花の白い本種を「銀」としたものである。

【関連文献】

保草本Ⅱ p.238, 平草本Ⅱ p.85, 平新版 2 p.167.

キバナハナネコノメ *Chrysosplenium album* Maxim. var. *flavum* H.Hara

【評価理由】

個体数階級 1、集団数階級 1、生育環境階級 3、人為圧階級 2、固有性階級 4、総点 11。本地域に固有の植物である。

【形態】

小型の多年生草本で、高さ 5~10cm になる。地上性の走出枝があり、走出枝は花後に成長し、白軟毛を密生する。根出葉は花時に枯れる。茎葉は扇状円形~円腎形で長さ 2~10mm、幅 3~16mm、基部は鈍形またはくさび形、上縁には 5~9 個の半円状の鋸歯がある。花期は 4~5 月、集散花序を頂生し、直径 3~5mm の花を少数つける。がく裂片は 4 枚、黄色で花弁状、長卵形で長さ 3~5mm である。

【分布の概要】

【県内の分布】

東：1 富山（芹沢 86700, 2011-4-10）、2 豊根（村松正雄 25749, 2011-5-7）、3 東栄（村松正雄 25625, 2011-3-31）、4 津具（村松正雄 25614, 2011-3-31）、6 設楽西部（石川静雄 122, 1996-4-17）、7 設楽東部（小林 50760, 1994-4-24）、10 鳳来北西部（小林 41622, 1993-4-22）。西：5 稲武（村松正雄 25730, 2011-4-30）、19 旭（芹沢 72759, 1996-4-12）、20 足助（芹沢 86739, 2011-4-24）。

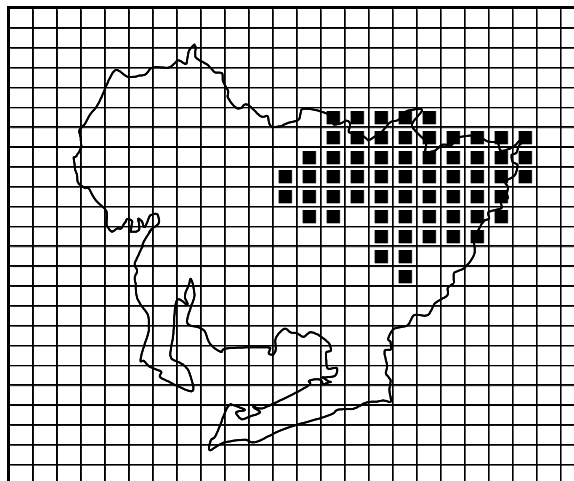
【国内の分布】

本州。東海地方（静岡県、愛知県、岐阜県）だけに分布する。

【世界の分布】

種としても日本固有で、西南日本に分布し、いくつかの地理的変種に分化している。

要配慮地区図



【生育地の環境／生態的特性】

山地の沢沿いの岩上に生育する。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林	○			
草・岩				
湿地				
水域				

【現在の生育状況／減少の要因】

愛知県での分布は、東三河とそれに接した西三河の一部に限られているが、その範囲内では少ないものではなく、まだあちこちの沢で見ることができる。しかし、森林の伐採や林道建設等に伴う沢すじの荒廃により、全体として減少傾向にある。

【保全上の留意点】

すぐに絶滅が危惧される状態ではないが、貴重な植物であることを認識する必要がある。

【特記事項】

ネコノメソウ属の中では、小型であるが花の目立つ植物である。

【関連文献】

保草本Ⅱ p.143, 平草本Ⅱ p.160, 平新版 2 p.203, SOS 新版 p.22,24.

ナメライダイモンジソウ *Saxifraga fortunei* Hook.f. var. *suwoensis* Nakai

【評価理由】

個体数階級 1、集団数階級 2、生育環境階級 3、人為圧階級 2、固有性階級 3、総点 11。西日本系の植物で、愛知県は分布域の東限にあたる。岩崖地性の植物で生育環境が限定されており、園芸目的の採取で減少している。

【形態】

多年生草本。高さ 5～40cm になる。葉は根茎の先端に束生し、長さ 3～20cm の葉柄があり、葉身は腎円形で基部は心形、長さ 3～15cm、幅 4～20cm、掌状に 5～7 中裂し、裂片はふつう倒卵形である。花期は 10～11 月、花茎の先の集散花序に、白色の花をつける。花弁は上側の 3 個は楕円形で小さく、長さ 3～4mm、下の 2 個は線状楕円形で、長さ 6～15mm である。

【分布の概要】

【県内の分布】

西：5 稲武（塚本威彦 2583, 1997-10-18）、19 旭（芹沢 64297, 1992-10-19）、20 足助（塚本威彦 1817, 1995-10-23）、22 小原（日比野修 3816, 1996-10-12）、23 藤岡（塚本威彦 1814, 1995-10-23）、28 額田（千賀敏之 s.n., 2010-10-14）。尾：37a 瀬戸（日比野修 945, 1992-10-11）、45 犬山（芹沢 73419, 1996-10-19）。8 鳳来北東部（杉野文昭 s.n., 1964-10-4）、30 岡崎南部（生平, 高橋 孝 s.n., 1950-8-26）で採集された標本もある。

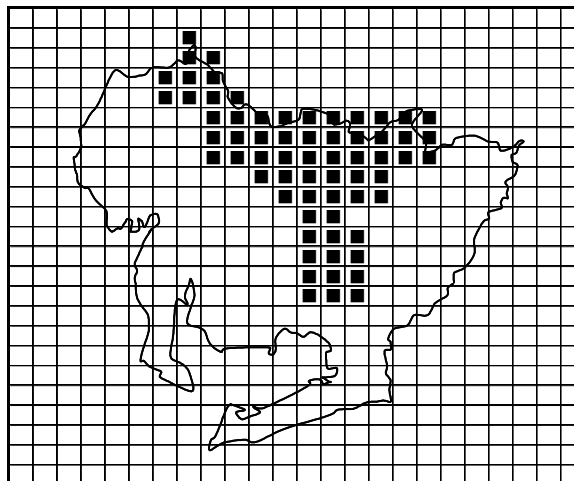
【国内の分布】

本州（中部地方以西）、九州に分布する。

【世界の分布】

日本固有変種。種としては日本、朝鮮半島、中国大陆、ウスリーなどに分布する。

要配慮地区図



【生育地の環境／生態的特性】

川岸などの湿った岩壁に生育し、通常群生する。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩	○			
湿地				
水域				

【現在の生育状況／減少の要因】

人目につかない場所ではよく生育しているが、園芸目的の採取で荒らされ、ほとんど絶滅状態になってしまった場所もある。

【保全上の留意点】

園芸目的の採取を防止するため、分布情報の公表に際し慎重な配慮が必要である。一部の群落は東海豪雨時の増水により大きな被害を受けたが、これは自然変動の範囲内であり、放置しておいてもそのうちに回復すると思われる。

【特記事項】

「ダイモンジソウ」の名は、5 枚の花弁のうち下側の 2 枚が長く、花が全体として「大」の字に見えるからである。以前は誤ってカエデダイモンジソウと呼ばれていた。

【関連文献】

保草本Ⅱ p.155（カエデダイモンジソウとして）、平草本Ⅱ p.172、平新版 2 p.213、SOS 旧版 p.57＋図版 29。

ツメレンゲ *Orostachys japonicus* (Maxim.) A.Berger

【評価理由】

個体数階級 1、集団数階級 2、生育環境階級 3、人為圧階級 3、固有性階級 2、総点 11。岩崖地を特徴づける植物で、著しい園芸目的の採取圧がある。

【形態】

1 回開花性の多年生草本。根茎はない。葉は密生し、夏には直径 12cm に達するロゼットをつくり、ロゼット葉は多肉質で披針形、長さ 2.5~6cm、幅 5~15mm、緑色または白色を帯びた緑色、先端は鋭頭で短針がある。冬のロゼットの葉は夏のものより小さく、先は硬くなり針状にとがる。花期は 10~11 月、ロゼット中央の軸の上方に円錐状の高さ 8~30cm の花序をのぼし、密に白色の花をつける。花弁は 5 枚で披針形、長さ 5~6mm である。

【分布の概要】

【県内の分布】

東：1 富山（小林 48866, 1993-10-17）、2 豊根（村松正雄 14340, 1993-10-10）、3 東栄（小林 83509, 2000-10-3）、9 鳳来南部（小林 65436, 1998-11-3）。尾：45 犬山（小林 49026, 1993-10-2）、50 名古屋北部（村松正雄 17403, 1997-11-16）。名古屋北部では、真の自生ではないかもしれないが、名古屋城の石垣に大きな群落がある。名古屋城のものを移入と見なし除外すれば個体数階級が 2 になり、愛知県での評価は絶滅危惧Ⅱ類になる。

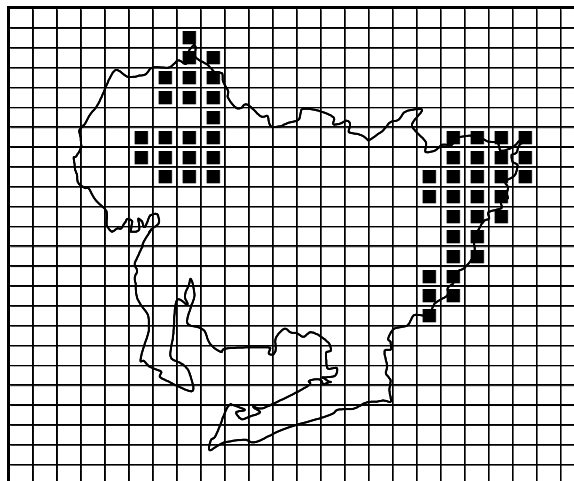
【国内の分布】

本州（関東地方以西）、四国、九州。

【世界の分布】

日本、朝鮮半島、中国大陸東北部。

要配慮地区図



【生育地の環境／生態的特性】

日当たりのよい岩上に生育する。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩	○		○	
湿地				
水域				

【現在の生育状況／減少の要因】

昔から園芸植物として珍重され、集中的に採取されるため、手が届く範囲にはほとんど見られなくなっている。東三河では、園芸業者が岩ごと運び出しているという。

【保全上の留意点】

園芸目的の採取を防止するため、常時監視できない場所では、分布情報の公表に際し慎重な配慮が必要である。

【特記事項】

和名は、細く尖った葉が動物の爪に似ているからである。

【関連文献】

保草本Ⅱ p.159, 平草本Ⅱ p.149, 平新版 2 p.220, SOS 旧版 p.55, SOS 新版 p.43,45.

タコノアシ *Penthorum chinense* Pursh

【評価理由】

個体数階級 2、集団数階級 2、生育環境階級 3、人為圧階級 2、固有性階級 2、総点 11。全国的に減少傾向の著しい、低湿地性の植物である。

【形態】

多年生草本。茎の基部は地中にあり、数個の走出枝を出す。地上部は直立し、ほとんど分枝せず、高さ 30～80cm、無毛でしばしば淡紅色を帯びる。葉は狭披針形～披針形、長さ 6～11cm、幅 5～12mm、草質、両端は長い鋭尖形となり、辺縁には細鋸歯がある。花期は 8～10 月、茎の先に長さ 4～12cm の枝を数個出し、多数の小さい淡黄白色の花を片側だけに総状につける。花弁はない。果実は直径 6～7mm である。

【分布の概要】

【県内の分布】

東：1 富山 (小林 52799, 1994-7-23)、2 豊根 (小林 53113, 1994-8-9)、15 豊橋北部 (芹沢 81131, 2006-10-14)。西：24 豊田東部 (畑佐武司 102, 1997-8-29)、25 豊田北西部 (畑佐武司 2544, 2001-9-29)、26 豊田南西部 (畑佐武司 103, 1997-8-29)、29 岡崎北部 (千賀俊之 s.n., 2009-9-24)、33 安城 (堀田喜久 4514, 1995-9-2)、35 西尾北部 (芹沢 68774, 1993-10-15)。尾：57b 愛西 (芹沢 76387, 1999-9-18)。

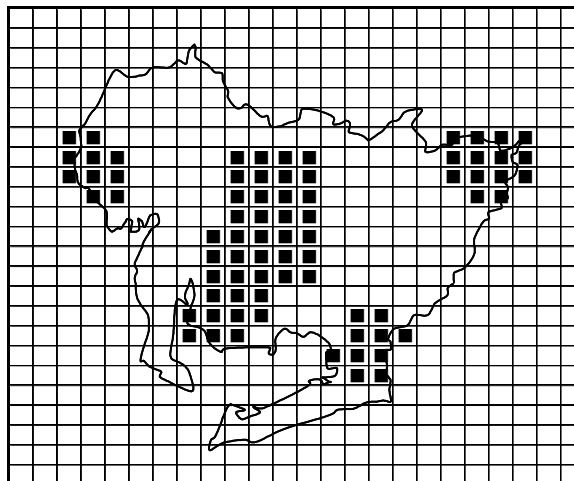
【国内の分布】

本州、四国、九州、琉球 (奄美大島) に生育する。

【世界の分布】

東アジアに広く分布する。

要配慮地区図



【生育地の環境／生態的特性】

河川敷や池沼の周辺などの低湿地に生育する。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩				
湿地			○	
水域				

【現在の生育状況／減少の要因】

愛知県では矢作川と木曽川の河川敷に比較的多く、生育状況も良好である。しかし、一部の場所では、開発により生育地が失われている。特に木曽川左岸では、河川敷の改修と開発の結果、ほとんど見られなくなった。天竜川は、本来なら愛知県内では本種が生育できるような場所はなかったはずで、確認できたのは佐久間ダム建設の結果できた二次的な地形の場所である。ただし、この場所は最近シカによる食害が著しく、すでに絶滅した可能性もある。

【保全上の留意点】

河川敷のヤナギ林やヨシ原は、平野部の本来の自然の姿を残す重要な場所で、本種以外にも多くの絶滅危惧種が生育している。特に注意して保全する必要がある。

【特記事項】

タコが逆立ちしたような変わった形の花序をつける植物で、和名もそれによる。花のない時にはややセイタカアワダチソウに似ており、調査時には注意を要する。

【関連文献】

保草本Ⅱ p.158, 平草本Ⅱ p.155, 平新版 2 p.230, SOS 旧版 p.56+図版 26, SOS 新版 p.135,137.

タチモ *Myriophyllum ussuriense* (Regel) Maxim.

【評価理由】

個体数階級 1、集団数階級 2、生育環境階級 4、人為圧階級 2、固有性階級 2、総点 11。汚染されていないため池に生育する植物で、愛知県では生育地に対する開発圧力が高い。

【形態】

多年生で抽水性の小形の水草。陸生型となることもある。茎は下部で分枝し、上部は直立して枝はなく、水中にあるものは長さ 50cm くらいになることがあるが、水上に出て湿地に生えるものは高さ 5~20cm である。水中葉は 3~4 個輪生し、披針形~広披針形、羽状深裂し、長さ 1.5~2cm、裂片は糸状線形である。花期は 6~8 月、花序は茎の先端につき、穂状、水面から出て直立し、花は淡紅色で小さく、雌雄異株、花序の葉は針形となって、羽裂しない。水中のものは、冬も植物体の一部が枯れずに残る。

【分布の概要】

【県内の分布】

東：13 豊川 (小林 75845, 2002-9-14)、15 豊橋北部 (小林 58566, 1995-10-22)、17 田原東部 (小林 45896, 1993-8-2)。西：27 みよし (芹沢 78420, 2002-10-29)。尾：37a 瀬戸 (芹沢 56814, 1990-9-1)、37b 尾張旭 (芹沢 68900, 1993-10-24)、38a 長久手 (芹沢 76302, 1999-9-10)、38b 日進 (芹沢 64017, 1992-9-30)、43 常滑 (相羽福松 4007, 1994-8-22)、45 犬山 (塚本威彦 1287, 1994-8-15)、50 名古屋北部 (鳥居ちゑ子 1872, 2000-10-1)。県内の分布はシラタマホシクサに似ており、西三河南部の丘陵地には見られない。

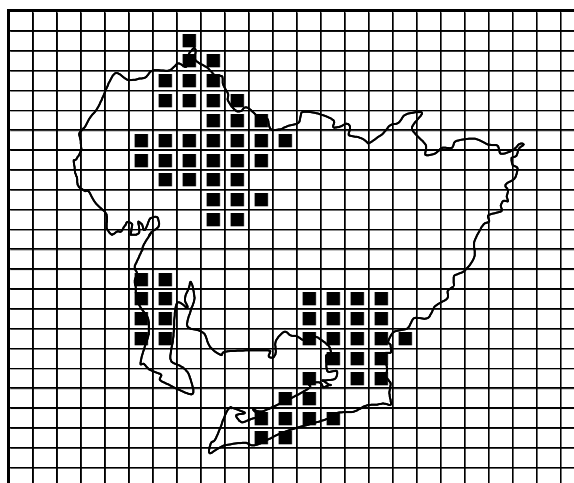
【国内の分布】

北海道、本州、四国、九州。

【世界の分布】

日本、朝鮮半島、台湾、中国大陸東北部、アムール、ウスリー。

要配慮地区図



【生育地の環境／生態的特性】

丘陵地の浅いため池などに生育する。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩				
湿地				
水域		○		

【現在の生育状況／減少の要因】

尾張東部の丘陵地には比較的多いが、他では少ない。開発圧力の高い地域だけに、一方で水の汚染、他方で宅地や農耕地の造成に伴うため池の埋め立て等により、減少傾向にある。

【保全上の留意点】

丘陵地の小規模なため池を保全する必要がある。豊田市旧市域には生育している可能性があり、特に注意して探索する必要がある。

【関連文献】

保草本Ⅱ p.36, 平草本Ⅱ p.270, 平新版 2 p.232.
角野康郎. 1994. 日本水草図鑑 p.136. 文一総合出版, 東京.

オオバクサフジ *Vicia pseudo-orobus* Fisch. et Mey.

【評価理由】

個体数階級 3、集団数階級 2、生育環境階級 3、人為圧階級 2、固有性階級 1、総点 11。温帯性の植物で、愛知県では個体数が少ない。

【形態】

つる性の多年生草本。茎は稜があってほとんど無毛、長さ 80～150cm になる。葉は互生し、偶数羽状複葉で長さ 7～20cm、先端は分枝する巻きひげとなる。小葉は互生し、4～10 枚、卵形、長さ 3～5cm、幅 1.5～3cm である。花期は 8～10 月、葉腋に長さ 4～7cm の総状花序をつける。花は花序の一方に偏ってつき、青紫色、長さ 13～15mm の蝶形花、小花柄は細く、長さ 4～5mm である。豆果は短柄があり、狭長楕円形、長さ 2.5～3cm、幅 6～7mm、無毛である。

【分布の概要】

【県内の分布】

東：3 東栄（芹沢 89675, 2014-9-3）、6 設楽西部（小林 39260, 1992-9-12）、12 新城（小林 62182, 1997-9-7）。西：5 稲武（塚本威彦 2527, 1997-9-28）。13 豊川（豊川旧市域）にもあるという（小林 2004）。尾：41a 東海（加木屋町、岡島錦也 520267, 1986-7-24）と 43 常滑（矢田、芹沢 76907, 2000-8-30）にもあったが、東海は現状不明、常滑は絶滅した。37a 瀬戸（定光寺山、沢井輝男 s.n., 1933-6-25）、45 犬山（善師野、岡田善敏 s.n., 1947-10-4）、48 春日井（玉野町、岡田善敏 s.n., 1948-8-21）で採集された標本もある。西三河では現在のところ確認されていない。

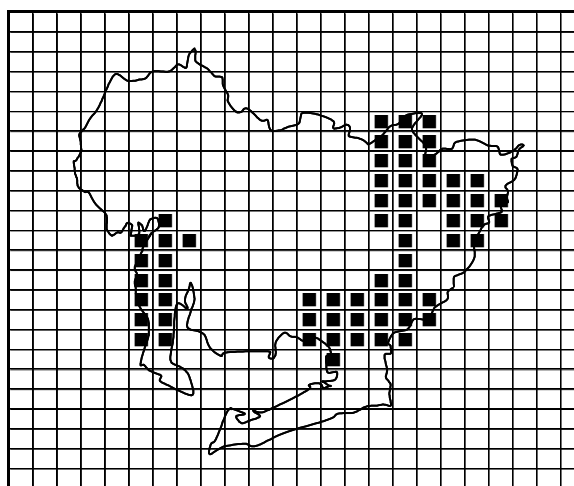
【国内の分布】

北海道、本州、四国、九州に生育する。

【世界の分布】

日本、朝鮮半島、中国大陸、ウスリー、アムール、シベリア東部に分布する。

要配慮地区図



【生育地の環境／生態的特性】

山地や丘陵地の草地や林縁に生育する。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩				
湿地		○		
水域				

【現在の生育状況／減少の要因】

点在しているが、どの場所も個体数は少ない。やや攪乱された場所にも生育しており、思わぬ時に行き当たることがある反面、いつの間にか消滅してしまうこともある。常滑では、愛知用水わきの草地に少数株が生育していたが、開花を確認できないうちに改修工事により消滅した。

【保全上の留意点】

散発的に出現する植物なので、効果的な保全対策は立てにくい。山間部の自然環境を、全体として保全することが必要である。また、愛知用水などの幹線水路わきの草地は、多くの草地性植物の逃避場所になっている。改修工事の際には、十分な配慮が必要である。

【特記事項】

ややまばらにつく大形の小葉が特徴で、和名もこれに基づく。

【引用文献】

小林元男. 2004. 宝飯の植物 p.43, 130. 東三河農林水産事務所, 豊橋.

【関連文献】

保草本Ⅱ p.108, 平草本Ⅱ p.197, 平新版 2 p.299.

ミヤマザクラ *Prunus maximowiczii* Rupr.

【評価理由】

個体数階級 3、集団数階級 2、生育環境階級 3、人為圧階級 2、固有性階級 1、総点 11。温帯性の樹木で、愛知県では個体数が少なく、また開発や被陰のため減少傾向にある。

【形態】

落葉性の高木。高さ 10m、直径 40cm になる。樹皮は紫褐色で、横に長い皮目が目立ち、若い枝には毛が多い。葉は互生し、倒卵状楕円形、先端は尾状鋭尖頭、基部は広いくさび形または切形で 1 対の蜜腺があり、長さ 4~7cm、幅 2.8~4.5cm、辺縁には鋭い重鋸歯があり、両面とも毛があり、裏面は淡緑色となる。花期は 5~6 月上旬、葉よりも遅れて側枝に短い総状花序または散房状花序を出し、4~10 個の花をつける。花は白色で直径 1.5~2cm、花弁は 5 枚で先端は円形である。果実は球形で直径約 8mm、紅紫色~黒紫色に熟す。

【分布の概要】

【県内の分布】

東：1 富山（芹沢 82109, 2007-8-26）、2 豊根（芹沢 94227, 2018-6-18）。4 津具にもあるという（小林 2006）。

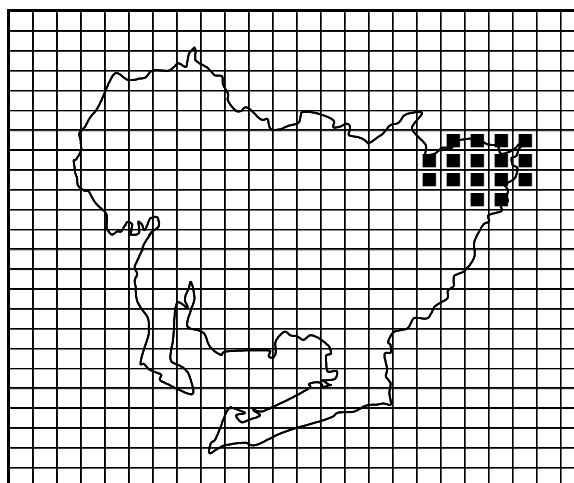
【国内の分布】

北海道、本州、四国、九州の温帯~亜寒帯域に生育する。

【世界の分布】

サハリン、日本、朝鮮半島、中国大陸東北部、ウスリー。

要配慮地区図



【生育地の環境／生態的特性】

山地の疎林や二次林の構成種で、林縁に生育することが多い。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林	○			
草・岩				
湿地				
水域				

【現在の生育状況／減少の要因】

県内では北東端の山地だけに生育している。ある程度の個体数はあるが、生育地の一部は観光開発により失われている。その一方で、薪炭林の利用停止によって遷移が進行すれば、被陰により衰退するおそれもある。

【保全上の留意点】

陽性の樹木であるため、極相林内では生育できない。地形の改変を伴わない伐採は、本種の個体群維持にはむしろ好都合である。

【特記事項】

狭義のサクラ類と異なり、花序が短い総状となる。

【引用文献】

小林元男. 2006. 北設楽の植物 p.152. 愛知県林業試験研究推進協議会, 新城.

【関連文献】

保木本Ⅱ p.16, 平木本Ⅰ p.192, 平新版 3 p.62.

ヤナギイチゴ *Debregeasia orientalis* C.J.Chen

【評価理由】

個体数階級 3、集団数階級 3、生育環境階級 2、人為圧階級 2、固有性階級 1、総点 11。暖地性の植物で、愛知県では生育地も個体数も少ない。

【形態】

落葉性の低木。高さ 2～3m になる。葉は互生し、長さ 0.5～4cm の柄があり、葉身は披針形～線状長楕円形、長さ 5～18cm、幅 1～3cm、先端は鋭尖頭、基部は広いくさび形～円形、辺縁には細鋸歯がある。葉の表面は暗緑色で無毛、裏面は白綿毛が密生する。雌雄異株で、花期は 4～5 月、雄花も雌花も球形の花序になる。果実は直径 5～7mm の集合果となり、6 月に橙黄色に熟し、多汁質で甘く、食べることができる。

【分布の概要】

【県内の分布】

東：15 豊橋北部(芹沢 51917, 1989-6-17)、
17 田原東部(小林 49452, 1993-11-7)。

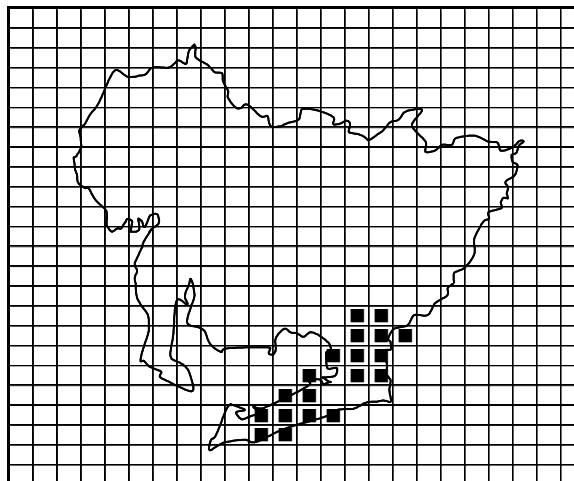
【国内の分布】

本州(関東地方南部～紀伊半島)、四国、九州、琉球。

【世界の分布】

日本、台湾、中国大陸南部。

要配慮地区図



【生育地の環境／生態的特性】

通常は林縁や路傍、伐採跡地などの、多少なりとも攪乱された場所に生育する。愛知県では石灰岩地にも生育している。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩	○			
湿地				
水域				

【現在の生育状況／減少の要因】

2 区画の各 2 カ所に小群落がある。

【保全上の留意点】

石灰岩地に生育しているものは、必要に応じ周辺の樹木を多少伐採する程度の手入れを行えば、そのまま存続すると思われる。しかし、攪乱地に生育しているものは、土地が安定化すれば光条件が悪化して消滅すると思われ、効果的な保全対策を立てにくい。愛知県ではもともと、生育地の拡大と消失をくり返している植物なのであろう。

【特記事項】

葉がヤナギに似ており、実がイチゴに似ることから、ヤナギイチゴと呼ばれる。

【関連文献】

保木 II p.229, 平木 I p.95, 平新版 2 p.345.

フモトミズナラ *Quercus crispula* Blume var. *mongolicoides* (H.Ohba) Seriz.

【評価理由】

個体数階級 1、集団数階級 1、生育環境階級 3、人為圧階級 3、固有性階級 3、総点 11。現在は生育地も個体数も多いが、二次林の構成種であること、強い開発圧があること、固有分類群であることにより、準絶滅危惧と判断される。

【形態】

落葉性の高木。幹は高さ 15m くらいになる。若枝は太くても直径 3mm 程度、帯紫褐色、ほぼ無毛である。葉は互生し、ほとんど無柄か長さ 5mm 以下の短柄があり、葉身は通常倒洋梨形、長さ 12~22cm、幅 5~15cm、先端は丸味を帯びて鈍頭、基部は円形~浅い心形、辺縁の鋸歯は 10~15 対で、円~鈍頭である。花期は 4 月、雄花序は新枝の下に多数ついて下垂し、雌花は新枝の上部の葉腋からでる短枝に数個つく。果実はその年の初秋に熟し、広楕円形、長さ約 2cm、殻斗は杯状で、多数の鱗状の総苞片におおわれる。新葉は黄緑色で、この時期には遠くからでも容易に確認できる。

【分布の概要】

【県内の分布】

東：12 新城（芹沢 54956, 1990-5-22）、13 豊川（青山正宏 84, 1992-11-8）、15 豊橋北部（小林 63480, 1998-4-10）。西：19 旭（芹沢 56542, 1990-8-25）、23 藤岡（芹沢 57526, 1990-10-2）、24 豊田東部（芹沢 58585, 1991-5-21）、25 豊田北西部（芹沢 55576, 1990-6-20）、27 みよし（芹沢 71456, 1995-4-27）。尾：37a 瀬戸（芹沢 80618, 2006-7-19）、38a 長久手（芹沢 77811, 2002-4-29）、38b 日進（芹沢 55294, 1990-5-31）、45 犬山（村瀬正成 A195, 1992-5-10）、47 小牧（日比野修 4963, 1999-8-23）、48 春日井（芹沢 55309, 1990-5-31）、50 名古屋北部（村松正雄 16251, 1995-7-24）。

【国内の分布】

東海地方（愛知県および岐阜県東濃地方）。ただし形態的にほとんど区別できないものが、関東地方北部にある。北海道北部の海岸にも似たものがあるが、これは別系統と思われる。

【世界の分布】

日本固有変種。

【生育地の環境／生態的特性】

やせた丘陵地の、主として中腹から尾根にかけて生育する。山地の一部にも見られる。沢沿いには通常生育しない。

【現在の生育状況／減少の要因】

瀬戸市を中心に、豊田市西部から日進市、名古屋市守山区、春日井市にかけてが分布の中心域で、この範囲では現在のところまだ個体数は多く、場所によっては優占種になっている。しかし、本種の生育する浅い丘陵地は全域にわたって宅地造成、工場用地造成、珪砂の採掘など強い開発圧にさらされており、本種も減少の一途をたどっていて、その点で将来の存続が懸念される。分布域の周辺部では個体数が少なく、小牧市大草では伐採・開発により僅かに残存するだけになった。

【保全上の留意点】

愛知県のやせた丘陵地は、点在する湧水湿地以外の場所でも本種やオキアガリネズ、ミカワツツジなど特徴的な樹木が生育しており、また森林の発達が悪いウンスケをはじめとする多くの草性植物が残存している。湿地以外の場所も保全上重要であることを認識する必要がある。

【特記事項】

愛知県の丘陵地を特徴づける植物の一つで、従来「モンゴリナラ」と呼ばれていたものである（芹沢 2008）。固有分類群であるがミズナラからの分化程度は低く、そのため固有性階級が 3 と評価されている。本来温帯性のミズナラ系植物が暖帯域の丘陵地に生育しているという点でも重要である。基準標本（T.Miyazaki 512004, 2005-12-8）は東京大学総合研究博物館（TI）に保管されている。

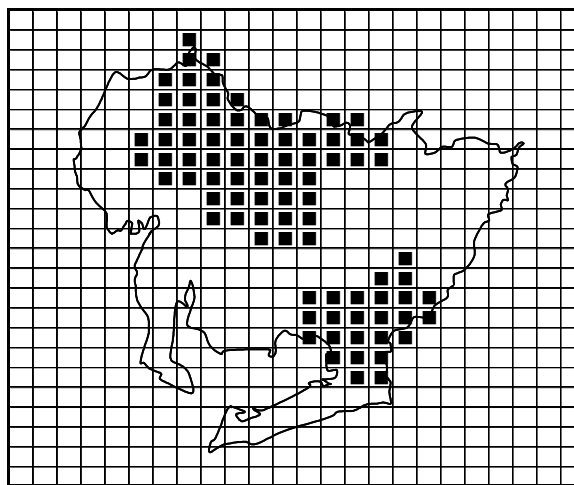
【引用文献】

芹沢俊介. 2008. 東海地方丘陵地の「モンゴリナラ」. シデコブシ 1: 54-55.

【関連文献】

SOS 旧版図版 4, SOS 新版 p.70,72（どちらもモンゴリナラとして）.

要配慮地区図



	山地	丘陵	平野	海浜
森林		○		
草・岩				
湿地				
水域				

イワウメヅル *Celastrus flagellaris* Rupr.

【評価理由】

個体数階級 3、集団数階級 2、生育環境階級 3、人為圧階級 2、固有性階級 1、総点 11。温帯性のつる性木本で、愛知県では個体数が少なく、存続の基盤が脆弱である。

【形態】

落葉性のつる性低木。枝は細く、今年枝は黄緑色、前年枝は紫褐色で、微細な乳頭状突起を密生し、托葉が刺となって宿存し、節から気根を出してはい上がることもある。葉は互生し、長さ 1～5cm の柄があり、葉身は円形～長卵形、長さ 2～5cm、幅 1.5～4cm、先端は急鋭頭～鋭尖頭、基部は浅心形～くさび形、葉質は薄く、辺縁には細鋸歯がある。花期は 5～6 月、雌雄異株で、葉腋に雄花は 1～3 個、雌花は 1 個ずつつき、花は黄緑色で径約 6mm である。果実は球形、径約 6mm、熟すと 3 裂し、中に橙赤色の仮種皮に包まれた種子がある。

【分布の概要】

【県内の分布】

東：2 豊根（小林 82578, 2004-8-31）、3 東栄（小林 33452, 1989-4-15）、7 設楽東部（小林 63846, 1998-5-9）、8 鳳来北東部（芹沢 81473, 2007-6-3）、10 鳳来北西部（小林 68120, 1999-12-21）、11 作手（小林 55284, 1994-11-26）。

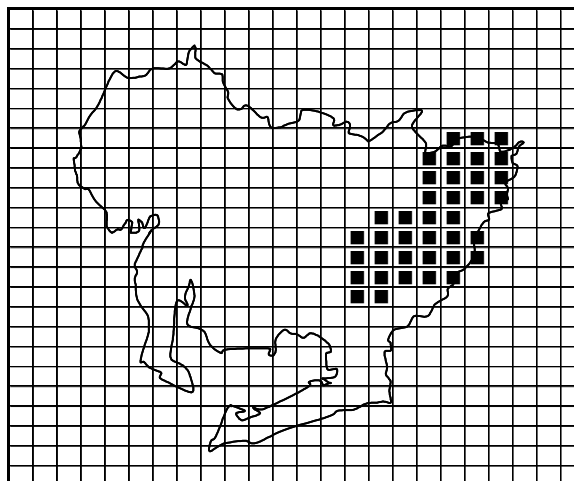
【国内の分布】

本州（関東地方以西）、四国、九州に生育する。

【世界の分布】

日本、朝鮮半島、中国大陸東北部、アムールに分布する。

要配慮地区図



【生育地の環境／生態的特性】

山地の岩礫地などに生育する。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林	○			
草・岩	○			
湿地				
水域				

【現在の生育状況／減少の要因】

愛知県では東栄と鳳来北東部に群生地があるが、それ以外ほどの場所も個体数が少なく、また生育状態もよくない。東栄町の群生地は町道沿いの岩場であり、道路拡幅等の際に失われる可能性がある。鳳来北東部では草刈りが行われるため、開花するのはごく一部である。

【保全上の留意点】

工事等の際には、注意が必要である。

【関連文献】

保木本 I p.259, 平木本 II p.39, 平新版 3 p.129, SOS 旧版 p.64.

コミヤマカタバミ *Oxalis acetosella* L.

【評価理由】

個体数階級 2、集団数階級 3、生育環境階級 3、人為圧階級 2、固有性階級 1、総点 11。自然度の高い山地林内に生育する植物で、愛知県では生育地が少ない。

【形態】

小型の多年生草本。根茎は細く、長くはう。葉は根茎の先端に 1～数个束生し、葉柄は長さ 3～10cm、葉身はほぼ同形の 3 小葉からなり、小葉は倒心形、幅 1～3cm、上縁の両側は円形である。花期は 7～8 月、花茎は根生し、葉よりも高く 5～15cm となり、先端に 1 個の花をつける。花は白色、直径 2～3cm、花弁は 5 枚で、脈はしばしば紫色になる。花期の終わりには閉鎖花をつける。蒴果は卵球形で長さ 3～4mm、全体に密毛がある。

【分布の概要】

【県内の分布】

東：6 設楽西部（芹沢 70463, 1994-8-27）。
西：5 稲武（芹沢 87577, 2012-5-12）。

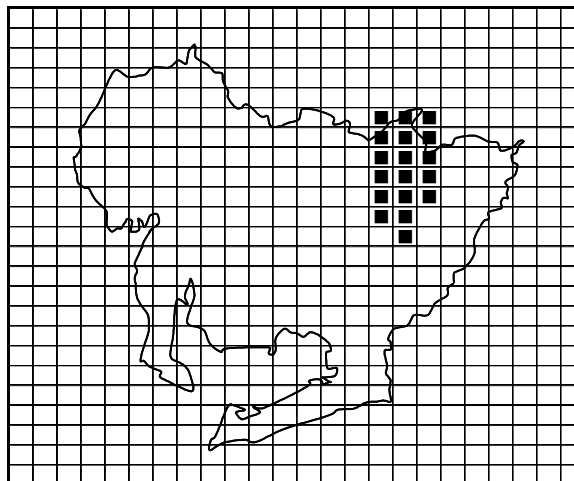
【国内の分布】

北海道、本州（中国地方を除く）、四国、九州。

【世界の分布】

北半球の温帯～亜寒帯に広く分布する。

要配慮地区図



【生育地の環境／生態的特性】

通常は亜高山帯の林内に群生する。愛知県では、落葉広葉樹林内のコケの多い岩上やヒノキ林内などに生育している。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林	○			
草・岩				
湿地				
水域				

【現在の生育状況／減少の要因】

生育地は 2 区画の 3 カ所で、群落の規模も本種としては小さい。過去の自然林が広範囲に伐採された時代には著しく減少したと思われるが、最近では小康状態を保っている。しかし、森林の伐採が最大の脅威であるという状況は変わらない。

【保全上の留意点】

自生地とその周辺の森林を保全することが必要である。設楽西部の 1 カ所の自生地は県道沿いなので、道路の拡幅等の際には注意が必要である。

【特記事項】

ミヤマカタバミと異なり、根茎が長くは、栄養的に繁殖して群落を作る。

【関連文献】

保草本Ⅱ p.86, 平草本Ⅱ p.216, 平新版 3 p.142, SOS 旧版 p.61.

ミヤマカタバミ *Oxalis griffithii* Edgew. et Hook.f.

【評価理由】

個体数階級 2、集団数階級 3、生育環境階級 3、人為圧階級 2、固有性階級 1、総点 11。山地の林内に生育する植物で、愛知県では生育地が少ない。

【形態】

半常緑性の多年生草本。根茎は太く、密に古い葉柄の基部に被われる。葉は根茎の先端に束生し、葉柄は長さ 8～20cm、葉身はほぼ同形の 3 小葉からなり、小葉は倒心形、幅 2.5～4cm、上縁の両側はややとがった円頭となる。葉柄、花茎、葉の裏面には密に軟毛がある。花期は 3～4 月、花茎は根生し、葉が展開する前に伸長し、先端に 1 個の花をつける。花は白色または淡紅紫色、直径 3～4cm、花弁は 5 枚である。蒴果は楕円形、長さ 10～17mm である。

【分布の概要】

【県内の分布】

東：3 東栄（小林 41180, 1993-4-5）、8 鳳来北東部（加藤等次 1335, 1992-5-15）。西：19 旭（日比野修 1961, 1994-4-21）。尾：45 犬山（芹沢 85580, 2010-5-8）、48 春日井（村松正雄 16919, 1997-4-20）。ただし、鳳来北東部は移入の可能性はある。28 額田（芹沢 87694, 2012-7-7）も移入と思われる。岐阜県美濃地方北部の山地には多いが、愛知県では稀にしか見ることができない植物である。

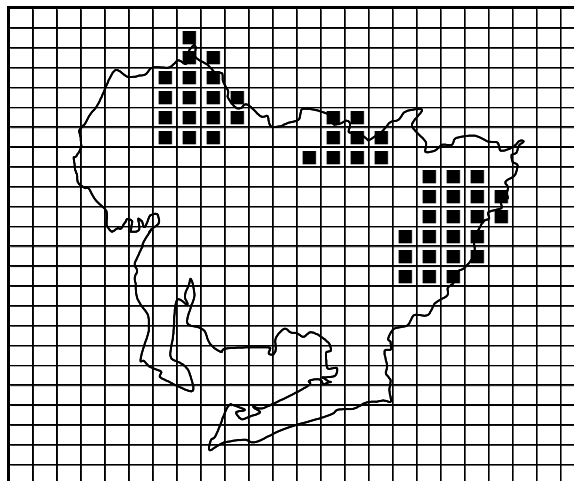
【国内の分布】

本州（東北地方南部～中国地方）、四国。

【世界の分布】

日本から中国大陆、ヒマラヤにかけて分布する。

要配慮地区図



【生育地の環境／生態的特性】

山地の沢沿いの林内に生育する。落葉広葉樹林だけでなく、スギの造林地などにも見られる。溪岸の岩上に生育することもある。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林	○			
草・岩				
湿地				
水域				

【現在の生育状況／減少の要因】

個体数はどこもそれほど多いものではない。どの場所でも林内に常緑樹の低木が侵入して被陰され、衰退傾向にある。特に春日井では、ほとんど花が咲かない状態になっている。

【保全上の留意点】

自生地とその周辺の森林を保全することが必要である。造林地の場合は、間伐など適切な手入れも欠かすことができない。県全体としては準絶滅危惧と評価されたが、春日井は尾張地方唯一の生育地であり、特に配慮が必要である。園芸目的の採取を防止するため、分布情報の公表に際し慎重な配慮が必要である。

【関連文献】

保草本Ⅱ p.86, 平草本Ⅱ p.216, 平新版 3 p.142.

キヌヤナギ *Salix kinuyanagi* Kimura

【評価理由】

個体数階級 1、集団数階級 1、生育環境階級 3、人為圧階級 2、固有性階級 4、総点 11。本地域の固有種で、平野部の低湿地を特徴づける種でもある。

【形態】

落葉性の低木または小高木。高さ 2～6m になる。小枝は長くてやや太く、灰色の軟毛が密生する。葉は狭披針形、長さ 10～20cm、幅 1～2cm、先端は長く鋭尖形、基部は鋭形または鈍形、辺縁はわずかに裏側に巻き、不明瞭な低い鋸歯があり、表面は緑色でやや光沢があり、裏面は銀白色の毛を密生する。雌雄異株で、花期は 3 月中旬～4 月上旬、雄花穂は楕円形～長楕円形で無柄、小枝にやや密につき、長さ 2.5～3.5cm、雌花穂は円柱形で長さ 3.5cm 程度である。

【分布の概要】

【県内の分布】

西：20 足助（芹沢 72419, 1995-10-11）、22 小原（日比野修 2102, 1994-5-12）、24 豊田東部（畑佐武司 3358, 2002-5-2）、25 豊田北西部（畑佐武司 3599, 2002-5-17）、29 岡崎北部（村松正雄 17675, 1998-4-29）、30 岡崎南部（小林 75113, 2002-8-11）、33 安城（堀田喜久 7994, 2000-9-2）。尾：37a 瀬戸（日比野修 5374, 2002-6-8）、40a 大府（中村裕治 683, 1994-6-24）、45 犬山（芹沢 78406, 2002-10-27）、47 小牧（村松正雄 17161, 1997-9-20）、48 春日井（村松正雄 16218, 1995-7-16）、50 名古屋北部（村松正雄 17640, 1998-4-19）、51 名古屋南東部（渡辺幸子 6873, 2014-7-2）、52 名古屋南西部（芹沢 77268, 2001-5-6）、54 一宮西部（村松正雄 17069, 1997-8-30）、55 稲沢（渡辺幸子 5315, 2003-5-6）、56a あま（芹沢 64657, 1993-4-25）、57b 愛西（鳥居ちる子 2616, 2008-3-18）、58c 飛島（高木順夫 11872, 2003-12-13）。河川敷のヤナギ林の構成種であるが、木曽川以外では少ない。このほかにも県内のところどころに生育しているが、その多くは植栽品か、植栽起源の逸出品と思われる。

【国内の分布】

愛知県および岐阜県（木曽三川下流部、庄内川、矢作川水系）と滋賀県（琵琶湖岸）に分布する。ただし、北海道および東北地方北部に分布するエゾノキヌヤナギ *S. pet-susu* Kimura との差違は軽微である。

【世界の分布】

日本固有種。種の範囲を大きく取り、エゾノキヌヤナギも含めて、日本、朝鮮半島、中国大陸北東部、シベリア東部に分布（この場合学名は *S. schwerinii* E. Wolf となる）とする見解もある。

【生育地の環境／生態的特性】

河川敷などの低湿地に生育する。中流の溪谷部では見られず、また最下流部にもない。ネコヤナギとの雑種であるミヤコヤナギは、中流部（例えば稲武名倉川、芹沢 82860）まで生育している。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩				
湿地			○	
水域				

【現在の生育状況／減少の要因】

河川敷の開発により、本種が生育可能な場所は著しく減少している。ただし、現在のところまだ個体数は多く、増水や一時的造成などで攪乱された場所にも多数の若木が生育している場合がある。

【保全上の留意点】

増水などによる適度の攪乱は、本種の個体群維持のためにはむしろ望ましいことである。

【特記事項】

葉裏に白色の絹毛が多く美しいのでキヌヤナギという。本種は本州（主として関東地方以西）、四国、九州で広く栽培されており、従来は雄株しか知られていなかったため、江戸時代に朝鮮半島などから渡来したものと考えられてきた。しかし実際には、これもかつては中国原産と考えられていたシデコブシと同様、名古屋周辺で選抜育種され、全国に広まった植物であろう。彩色画は、2009 年版図版 8 に掲載されている。

【関連文献】

保木本Ⅱ p.320, 平木本Ⅰ p.43, SOS 旧版 p.45+図版 27, SOS 新版 p.134,136.

サクラスミレ *Viola hirtipes* S.Moore

【評価理由】

個体数階級 3、集団数階級 2、生育環境階級 3、人為圧階級 2、固有性階級 1、総点 11。温帯域の草地性植物で、愛知県では個体数が少ない。

【形態】

多年生草本。地上茎はなく、葉は束生し、葉柄はほぼ直立して長さ 5～15cm、下部に開出する白色の軟毛があり、葉身は三角状長卵形、花時に長さ 3～6cm、先端は鈍頭、基部は心形、辺縁には鈍鋸歯がある。花期は 5 月、花柄も直立して白軟毛があり、高さ 7～12cm、花は淡紅紫色で日本産スミレ類では最も大きく、花弁は 5 枚で長さ 15～20mm、凹頭または円頭、側弁には毛があり、距は長く 7～8mm ある。

【分布の概要】

【県内の分布】

東：2 豊根（村松正雄 15119, 1994-5-3）、3 東栄（小林 36922, 1992-5-4）、4 津具（芹沢 546601990-4-29）。1 富山、5 稲武からも記録されている（小林 2006）。

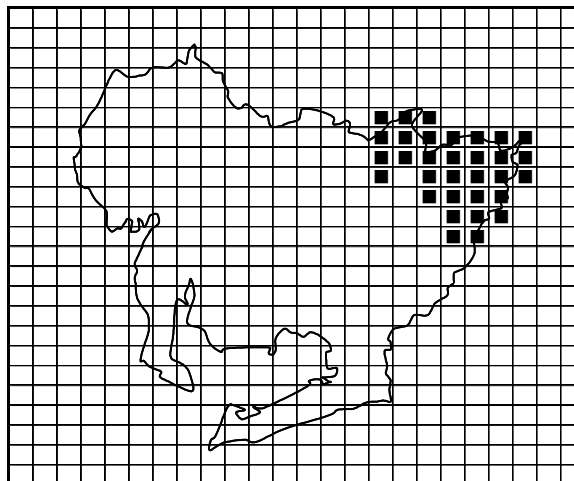
【国内の分布】

北海道、本州、四国、九州。

【世界の分布】

日本、朝鮮半島、中国大陸東北部、ウスリ一。

要配慮地区図



【生育地の環境／生態的特性】

山地の草地や明るい林内に生育する。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林	○			
草・岩	○			
湿地				
水域				

【現在の生育状況／減少の要因】

点在するが、どの場所でも個体数は少ない。採草が減少し、落葉広葉樹林内も低木やササ類が繁茂して、全体的に衰退傾向にある。

【保全上の留意点】

草地の保全が必要である。山地の尾根部にある草地は防火帯としても重要であり、草刈りや火入れを行って草地状態を維持する必要がある。

【特記事項】

和名は、淡紅色の大きい花をサクラに例えたものである。

【引用文献】

小林元男. 2006. 北設楽の植物 p.60, 171. 愛知県林業試験研究推進協議会, 新城.

【関連文献】

保草本Ⅱ p.59, 平草本Ⅱ p.246, 平新版 3 p.218.

ヒメミソハギ *Ammannia multiflora* Roxb.

【評価理由】

個体数階級 2、集団数階級 2、生育環境階級 3、人為圧階級 3、固有性階級 1、総点 11。あちこちに生育していた植物であるが、最近は見かける機会が減少している。

【形態】

1 年生草本。茎は直立して枝を分け、高さ 10～50cm、4 稜がある。葉は対生し、ほとんど無柄、葉身は広線形～狭長楕円形、長さ 2.5～5cm、幅 5～13mm、先端は鋭頭～やや鈍頭、基部は切形～やや心形で、両側に突起があり、辺縁には微かな鋸歯がある。花期は 9～10 月、花は葉腋に短い集散花序をつくって咲き、直径約 1.5mm、花弁は 4 個で淡紅色、がくは鐘形で長さ 1～1.5mm である。

【分布の概要】

【県内の分布】

東：10 鳳来北西部(小林 53853, 1994-9-17)、12 新城(小林 39269, 1992-9-12)、13 豊川(芹沢 89718, 2014-10-4)、15 豊橋北部(芹沢 76538, 1999-10-2)、16 豊橋南部(小林 48842, 1993-10-16)、17 田原東部(芹沢 71197, 1994-10-4)、18 田原西部(小林 47721, 1993-9-12)。西：5 稲武(塚本威彦 2584, 1997-10-18)、19 旭(日比野修 1858, 1993-9-18)、20 足助(山崎玲子 1772, 1998-11-7)、24 豊田東部(畑佐武司 5155, 2002-9-19)、25 豊田北西部(畑佐武司 5421, 2002-10-12)、30 岡崎南部(芹沢 64101, 1992-10-7)、31 幸田(壁谷祥和 3, 1991-8-15)、33 安城(堀田喜久 7259, 1999-9-26)、36 西尾南部(壁谷重美子 1047, 1994-9-21)。尾：38b 日進(村瀬美智子 450, 1992-9-21)、44b 南知多(村松正雄 26684, 2012-10-27)、50 名古屋北部(村松正雄 26191, 2011-10-2)。小林(2000, 2004, 2006)によれば 3 東栄、11 作手、14 蒲郡にもあるという。

【国内の分布】

本州、四国、九州、琉球。

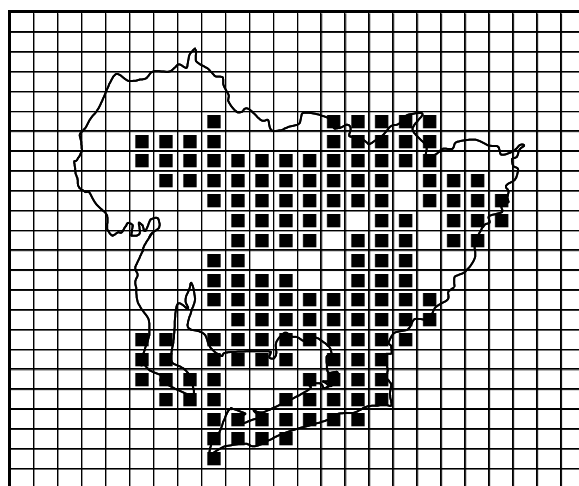
【世界の分布】

アジア、アフリカ、オーストラリアの熱帯～亜熱帯に広く分布する。

【生育地の環境／生態的特性】

水田雑草であるが、耕作中の水田には少なく、丘陵地の休耕田に生育していることが多かった。もちろん休耕が長期化して大形の草本が繁茂すれば消失する。平野部の広い水田では見られない。

要配慮地区図



	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩				
湿地		○		
水域				

【現在の生育状況／減少の要因】

記録されている場所は多いが、個体数はもともとそれほど多くなかった。本種の生育できそうな丘陵地の谷戸田の消失が、減少の主要因と思われる。

【保全上の留意点】

谷戸田の保全が必要だが、現実問題としては難しい。

【特記事項】

ホソバヒメミソハギ *A. coccinea* Rottb. は各地に普通に見られる熱帯アメリカ原産の帰化植物で、本種に似ているが紅紫色の花弁が目立つ。

【引用文献】

- 小林元男. 2000. 新城地方の植物. 211 頁. 愛知県, 名古屋.
小林元男. 2004. 宝飯の植物. 237 頁. 愛知県東三河水産事務所, 豊橋.
小林元男. 2006. 北設楽の植物. 282 頁. 愛知県林業試験研究推進協議会, 新城.

【関連文献】

保草本Ⅱ p.46, 平草本Ⅱ p.261, 平新版 3 p.257.

オニビシ *Trapa natans* L.

【評価理由】

個体数階級 2、集団数階級 3、生育環境階級 3、人為圧階級 2、固有性階級 1、総点 11。減少傾向の著しい水草で、生育地も少ない。

【形態】

1 年生の浮葉性水草。茎は地中から長く伸びて水面に達し、節から羽状に分裂した根状の沈水葉を出す。浮水葉は茎の先端に放射状に叢生し、葉柄は長く、中央部は長楕円状にふくらみ、浮きぶくろとなり、葉身は三角状ひし形、幅 2.5～5cm、上部の辺縁は三角状の鋸歯があり、裏面の脈上には密に毛がある。花期は 7～10 月、花は葉腋から出た柄の先に 1 個ずつつき、白色、直径約 1cm、果実は石果で倒 3 角形、幅約 4cm、4 個の刺がある。葉柄や葉裏が紅色を帯びるものをメビシ form. *rubeola*、緑色のものを狭義のオニビシ form. *viridis* Sugim. として区別することがある。

【分布の概要】

【県内の分布】

東：11 作手（小林 64820, 1998-5-1）、13 豊川（小林 39195, 1992-9-10）、15 豊橋北部（小林 64887, 1998-8-13）。西：25 豊田北西部（芹沢 78039, 2002-9-4）。尾：38a 長久手（芹沢 78030, 2002-9-4）。

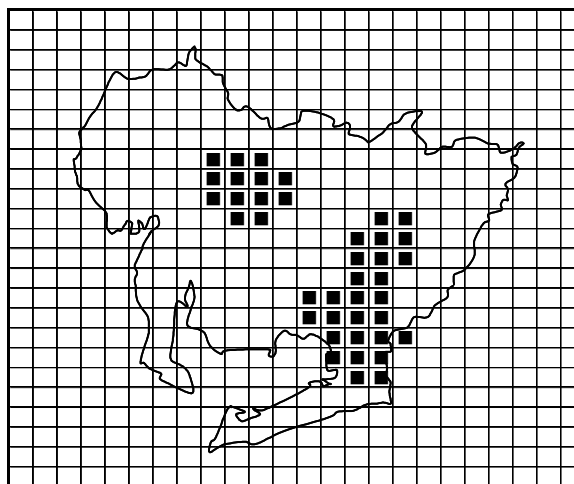
【国内の分布】

本州および四国。

【世界の分布】

日本および台湾。

要配慮地区図



【生育地の環境／生態的特性】

平野部や丘陵地の池沼に生育する。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩				
湿地				
水域		○	○	

【現在の生育状況／減少の要因】

東三河には点在するが、それ以外では極めて少ない。

【保全上の留意点】

長久手の自生地は、尾張で現存が確認できる唯一の場所であり、特に保全が必要である。ため池の改修工事をする場合には、工事の時期に注意すると共に、種子や殖芽が含まれる池底の土を保全するなど、復水後に植生が復活できるような配慮が必要である。

【特記事項】

オニビシ var. *natans* とコオニビシ var. *pumila* Nakano ex Verdc. の関係については、よく分らないことが多い。角野（1994）はオニビシの果実を幅 45～75mm と記述しているが、愛知県ではそれほど果実の大きいものは見られない。ここでは、葉柄や葉裏が紅色を帯びるメビシ型の植物と、紅色を帯びないが他の点ではそれと区別できないものだけをオニビシとして扱った。植物体も果実もやや小さいコオニビシ型の植物は、13 豊川（小林 26237, 1983-10-6）、15 豊橋北部（小林 58431, 1995-10-13）、17 田原東部（小林 46461, 1993-8-13）、31 幸田（金子律子 1317, 1995-9-28）、36 西尾南部（中根幸司 166, 2007-9-20）、50 名古屋北部（鳥居ちゑ子 2380, 2003-10-1）、51 名古屋南東部（高木順夫 20489, 2011-10-27）などで採集されているが、これらは今回の評価の対象外である。いずれにしても日本産のヒシ属については、分類学的な再検討が必要である。

【関連文献】

保草本Ⅱ p.45, 平草本Ⅱ p.262, 平新版 3 p.260.
角野康郎. 1994. 日本水草図鑑 p.128. 文一総合出版, 東京.

カジカエデ *Acer diabolicum* Blume ex Koch

【評価理由】

個体数階級 3、集団数階級 2、生育環境階級 3、人為圧階級 2、固有性階級 1、総点 11。温帯性の樹木で、愛知県では個体数が少ない。

【形態】

落葉性の高木。高さ 20m に達する。葉は対生し、各枝に 1～4 対生じ、長さ 4～10cm の柄がある。葉身はほぼ 5 角形、掌状に浅～中裂し、長さ 6～12cm、幅 7～15cm、先端は鋭頭、基部は心形、裂片は 3 または 5、辺縁には大きな欠刻状の鋸歯があるが、細鋸歯はない。花期は 4～5 月、花序は総状で有花枝に頂生し、長さ 3～5cm、雌雄異株、雄花序は 5～11 花で下垂し、雌花序は 3～9 花でやや上向きにつき、花は淡緑色で紅色を帯びる。果実は 2 つの分果に分かれ、それぞれの分果は長さ 2.5～3cm、翼は鋭角に開く。

【分布の概要】

【県内の分布】

東：1 富山（小林 46624, 1993-8-17）、2 豊根（芹沢 81457, 2007-6-2）、4 津具（芹沢 82155, 2007-9-1）。西：5 稲武（塚本威彦 2313, 1997-6-24）。6 設楽西部（西納庫駒ヶ原口～峠、鳥居喜一 25135, 1974-9-23, HNSM）で採集された標本もある。

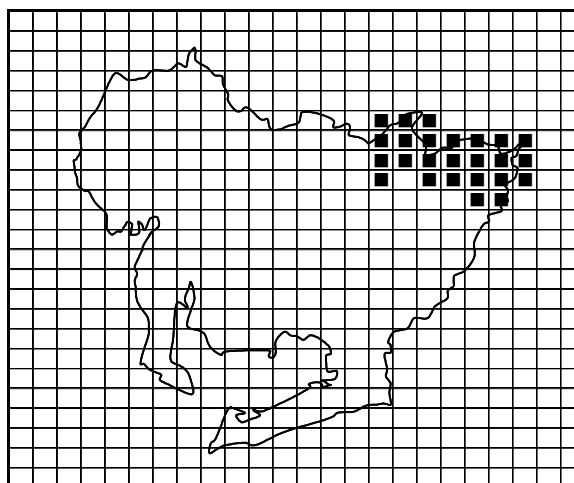
【国内の分布】

本州（宮城県以南の主として太平洋側）、四国、九州。

【世界の分布】

日本固有種。

要配慮地区図



【生育地の環境／生態的特性】

山地の落葉広葉樹林内に生育する。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林	○			
草・岩				
湿地				
水域				

【現在の生育状況／減少の要因】

点在するが個体数は少なく、しかもほとんどが幼木で、開花結実するような個体はなかなか見られない。希少種であることを意識しない伐採等により失われるおそれがある。

【保全上の留意点】

愛知県では希少な樹木であることを認識する必要がある。特に成木については、個別的な保全が必要である。

【特記事項】

和名は、葉の形がカジノキに似ているからである。

【関連文献】

保木本 I p.289, 平木本 II p.16, 平新版 3 p.293.

ミズタガラシ *Cardamine lyrata* Bunge

【評価理由】

個体数階級 2、集団数階級 2、生育環境階級 3、人為圧階級 2、固有性階級 2、総点 11。本地域を特徴づける低湿地性植物である。

【形態】

多年生草本。茎ははじめ直立し、高さ 30～60cm になるが、花後には倒れる。茎の基部から長い匍匐枝を出し、その匍匐枝には卵円形で基部が浅い心形の葉がつく。直立茎につく葉は短い柄があり、葉身は羽状複葉で長さ 2～7cm、頂小葉は大きく広卵形、側小葉は小さく卵形で 2～7 対ある。花期は 4～6 月、茎の先端に総状花序を伸ばし、10～30 個の白色の花をつける。花弁は 4 枚で広倒卵形、長さ 5～8mm である。果実は線形で、長さ 2～3cm になる。

【分布の概要】

【県内の分布】

東：13 豊川（永田芳男 s.n., 1999-5-17）。
西：31 幸田（小林 61123, 1998-5-10）、35 西尾北部（芹沢 86954, 2011-5-19）。尾：41a 東海（吉鶴靖則 815, 2016-5-7）、45 犬山（芹沢 58330, 1991-5-6）、47 小牧（日比野修 4451, 1998-5-20）、48 春日井（秋山葉子 69, 1993-4-27）、49a 岩倉（鈴木幸子 630, 1994-5-13）、50 名古屋北部（鳥居ちゑ子 2882, 2011-5-15）、53 一宮東部（栗田郁男 247, 1993-6-13）、54 一宮西部（芹沢 61375, 1991-5-24）、55 稲沢（渡辺幸子 3326, 1998-4-26）、57a 津島（芹沢 73543, 1997-5-12）、57b 愛西（福岡義洋 6530, 2019-5-12）。

【国内の分布】

本州（関東地方以西）、四国、九州に生育するとされているが、一般にあまりよく理解されていない植物で、東海地方以外での現状は今ひとつはっきりしない。

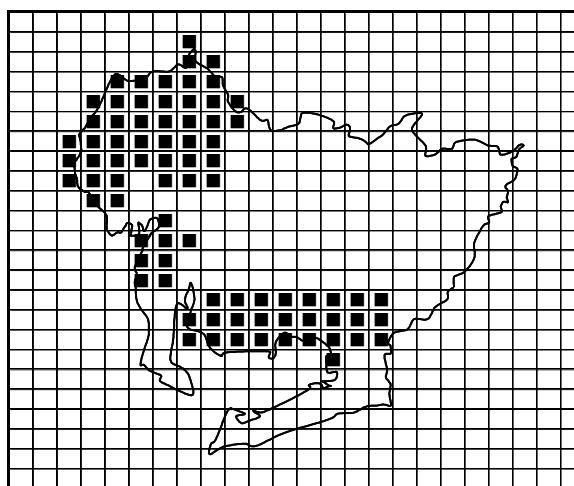
【世界の分布】

日本、朝鮮半島、中国大陆、モンゴル、シベリア東部などに広く分布する。

【生育地の環境／生態的特性】

河川敷などの低湿地に生育するほか、休耕田や水田わきの水路などに生育することもある。

要配慮地区図



	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩				
湿地			○	
水域				

【現在の生育状況／減少の要因】

どこでも見られるというわけではないが、ある場所では一般によく生育している。しかし、低湿地性の植物であるため、耕地整理、宅地化、水の汚染などの影響を受けやすく、その点で将来の存続が懸念される。帰化植物であるオランダガラシの増加によって圧迫されている場所もある。

【保全上の留意点】

平野部の湿地や未整理耕地は、そこを利用している、あるいは近傍に住む人に不利益をもたらすため、行政としては今までなるべく消失させるよう努力してきた。しかし、ここまで少なくなってしまうと、今後は旧来の農村景観という文化財的な意味を含めて、保全を図る必要がある。名古屋北部の守山区才井戸流は流水中に本種の群落が点在しており、特に保全が必要である。

【特記事項】

「日本の野生植物」Ⅱ 127 図版に本種として掲載されている写真は、タネツケバナである。写真小図鑑類に掲載されている写真も、ほとんどが誤りである。「原色日本植物図鑑」草本編Ⅱ 41 図版の図では、本種の特徴がよく示されている。

【関連文献】

保草本Ⅱ p.175, 平草本Ⅱ p.131, 平新版 4 p.56, SOS 旧版 p.55.

ハマサジ *Limonium tetragonum* (Thunb.) A.A.Bullock

【評価理由】

個体数階級 2、集団数階級 2、生育環境階級 3、人為圧階級 2、固有性階級 2、総点 11。全国的に減少傾向の著しい、塩湿地性の植物である。

【形態】

越年生草本。葉は束生し、葉身は長楕円状へら形、長さ 8~17cm、幅 1.5~3cm、先端は鈍頭またはややとがり、下部は次第に狭まって柄状となり、質は厚く、辺縁は全縁である。花期は 9~11 月、株の中央から高さ 30~50cm の花茎を伸ばし、よく分枝して、多数の小穂からなる円錐状の花序をつくる。小穂基部の苞は長さ 2~3mm で、鋭頭である。小穂は 1 個の正常花と 1 個の不熟花からなり、がくは筒型で長さ 5~6mm、浅く 5 裂し、白色、花冠はがくよりやや長く深く 5 裂し、上部は黄色である。果実は紡錘形で、長さ約 2.5mm である。

【分布の概要】

【県内の分布】

東：14 蒲郡（小林 58669, 1995-11-3）、16 豊橋南部（小林 48839, 1993-10-6）、17 田原東部（小林 53150, 1994-8-17）、18 田原西部（芹沢 79241, 2004-6-28）。西：36 西尾南部（芹沢 82270, 2007-9-1）。既知の生育地は三河湾だけである。知多半島では、三河湾側でも伊勢湾側でもまだ確認されていない。

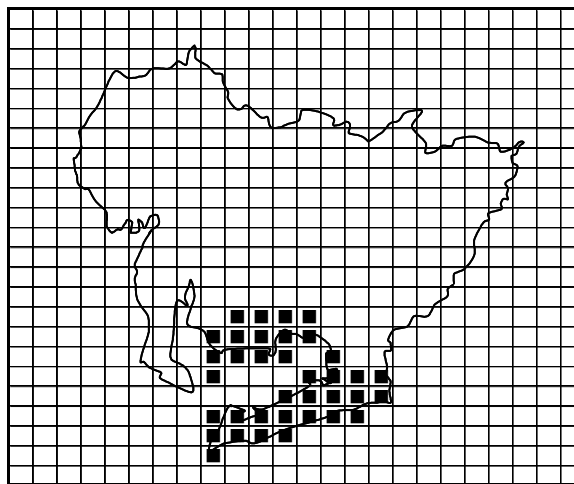
【国内の分布】

本州（三陸海岸以南の太平洋側）、四国、九州。

【世界の分布】

日本、朝鮮半島、中国大陸東北部。

要配慮地区図



【生育地の環境／生態的特性】

海浜の塩湿地の、満潮時には海水に浸かるような場所に生育する。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩				
湿地				○
水域				

【現在の生育状況／減少の要因】

三河湾には点在しており、比較的まとまった群落もあるが、それでも埋め立て等による塩湿地の破壊に伴い、過去に比べれば相当減少している。伊勢湾では、三重県側にはあるが、愛知県側は生育できそうな場所がほとんど残っていない。

【保全上の留意点】

内湾の塩湿地は、開発圧力が高く、全国的にも愛知県でも急激に減少している。現在残存している場所は、特に注意して保全する必要がある。生育地の直接的な改変を避けることはもちろんであるが、通常は河口にあるので、流入する河川の水質維持にも注意を払う必要がある。

【特記事項】

和名は、葉の形状による。

【関連文献】

保草本 I p.223, 平草本 III p.26, 平新版 4 p.82, SOS 旧版 p.69, SOS 新版 p.158,160.

サトヤマタデ *Persicaria clivorum* Seriz.

【評価理由】

個体数階級 2、集団数階級 3、生育環境階級 3、人為圧階級 1、固有性階級 2、総点 11。湿地性の植物で、愛知県が分布の中心である。特別な環境の場所に生育しているわけではないが、それでいて生育地の少ない植物である。

【形態】

1 年生草本。茎は直立して枝を分け、高さ 35-80cm になる。葉は長さ 3~15mm の柄があり、葉身は長楕円形、長さ 6~12cm、幅 1.5~3cm、両端はほぼ同形に細まり、先端は鋭尖頭、葉質はボントクタデに比べて薄く、両面に毛が多く、表面中央部に明瞭な黒斑がある。托葉鞘は筒状で、長さ 4~8mm、それとほぼ同じ長さか多少短い縁毛がある。花期は 8 月下旬~9 月、総状花序は長さ 4~10cm で先端はたれ、まばらに花をつける。がくは 5 裂し、淡紅色、長さ 1.5~2mm で、腺点がある。そう果は 3 稜形、黒褐色、長さ 2~2.5mm である。

【分布の概要】

【県内の分布】

東：13 豊川（芹沢 89732, 2014-10-1）。西：19 旭（芹沢 84950, 2009-9-19）、21 下山（芹沢 85062, 2009-9-24）、24 豊田東部（芹沢 87461, 2011-10-1）、25 豊田北西部（芹沢 86508, 2010-10-6）、28 額田（芹沢 86350, 2010-10-2）、29 岡崎北部（芹沢 87468, 2011-10-1）。尾：37a 瀬戸（芹沢 81026, 2006-9-20, 正基準標本）。

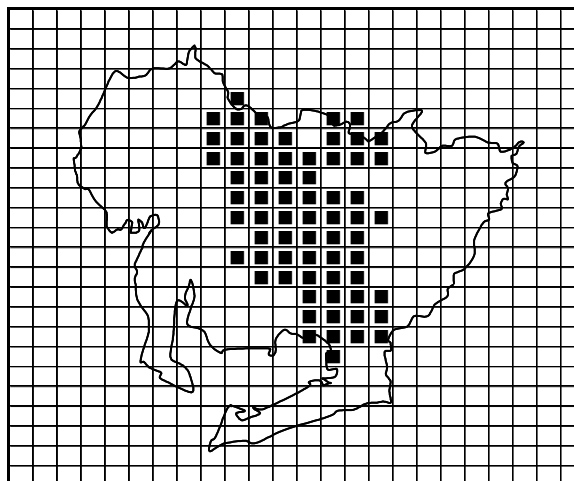
【国内の分布】

本州（静岡県西部以西）、九州（宮崎県）。

【世界の分布】

日本固有種。

要配慮地区図



【生育地の環境／生態的特性】

沢沿いの林道わきの湿った場所、放棄された谷戸田の跡、沢すじの土砂の堆積した場所などに生育している。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩				
湿地		○	○	
水域				

【現在の生育状況／減少の要因】

岡崎南部は小群落だが、他はそれなりの個体数が見られる。

【保全上の留意点】

1 年生草本なので、小規模な工事等ならば神経質になる必要はない。多少の攪乱は本種にとってむしろ好都合と思われる。

【特記事項】

愛知県には比較的多いが、全国的には稀少な 2 倍体植物。2009 年版では「ヒメボントクタデ」の名で掲載した。詳しい形態的特徴等は、芹沢（2011）を参照されたい。本州～琉球に広く分布し、愛知県でも普通に見られるボントクタデ *P. pubescens* (Blume) H.Hara は、本種とヤナギタデの交雑に由来する複 2 倍体種と推定される。

【引用文献】

芹沢俊介. 2011. ボントクタデの再検討(3) 早咲き型の分類. シデコブシ 2: 7-10.

【関連文献】

平新版 4 p.97.

サイコクヌカボ *Persicaria foliosa* (H.Lindb.) Kitagawa var. *nikaii* (Makino) H.Hara

【評価理由】

個体数階級 2、集団数階級 2、生育環境階級 3、人為圧階級 2、固有性階級 2、総点 11。全国的に減少傾向の著しい低湿地性植物である。愛知県では点在するが、どの場所でも特定の地点に生育しているにすぎない。

【形態】

1 年生草本。茎の下部は斜めに倒れ、節から根を出し、上部は斜上して枝を分け、高さ 30～60cm になる。葉は短い柄があり、葉身は長披針形～長線形、長さ 3～9cm、幅 2～9mm、両端は細まり、葉質はヌカボタデなどに比べやや厚い。托葉鞘は筒状で、長さ 5～10mm、ほぼ同じ長さの縁毛がある。花期は 9～10 月、総状花序は長さ 5～6cm で先端はたれ、まばらに花をつける。がくは 5 裂し、淡紅色、長さ約 1.5mm である。そう果はレンズ形、黒褐色で光沢があり、長さは約 1.5mm である。

【分布の概要】

【県内の分布】

東：15 豊橋北部（芹沢 68833, 1993-10-20）、17 田原東部（芹沢 88058, 2012-10-10）、18 田原西部（小林 48342, 1993-10-3）。西：36 西尾南部（小林 60468, 1996-11-2）。尾：37b 尾張旭（村松正雄 21996, 2003-10-11）、41b 知多（鳥居ちる子 2610, 2007-10-29）、48 春日井（芹沢 88000, 2012-10-3）。低湿地性の葉が細いタデ類の中では最も多くの場所に生育しているが、現在のところ木曽三川下流部では確認されていない。

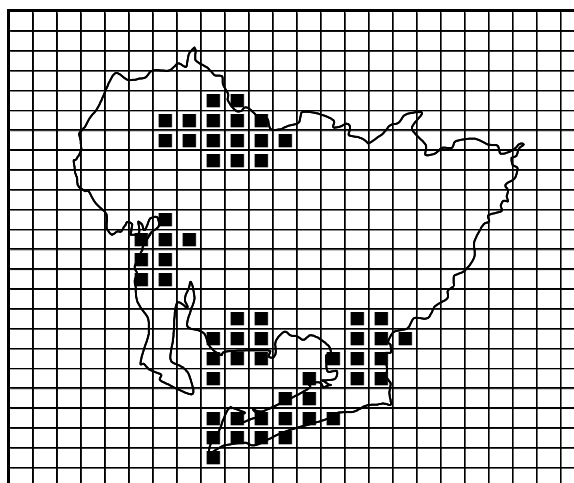
【国内の分布】

本州（中部地方以西）、四国、九州。

【世界の分布】

日本固有変種。種としても日本固有といわれている。

要配慮地区図



【生育地の環境／生態的特性】

河川敷、ため池の周辺などの低湿地に生育する。愛知県ではため池の岸に多く、河川敷では少ない。また、通常はヌカボタデ(511 頁)ほど群生しない。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩				
湿地		○	○	
水域				

【現在の生育状況／減少の要因】

個体数に関しては、年変動が著しい。ため池の改修や水の汚れによって、確認できなくなった場所もある。

【保全上の留意点】

やや貧栄養状態の場所では、概して生育状態はよくないものの、比較的安定して生育している。しかし、富栄養化した場所では、適度な攪乱がないと存続できない。もちろん、公園化などの過度の攪乱があれば、存続できなくなる。

【特記事項】

低湿地を特徴づける狭葉性のタデ類の 1 種である。「植物からの SOS」(SOS 旧版)ではヤナギヌカボとして扱ったが、ヤナギヌカボとサイコクヌカボを区別すれば、愛知県のものは全てサイコクヌカボになる。ヤナギヌカボは花序が短いもので、木曽川の岐阜県側にはあるが、愛知県内ではまだ確認されていない。なお、「日本の野生植物」Ⅱ 21 図版にヤナギヌカボとして掲載されている写真は、ヤナギタデである。

【関連文献】

保草本Ⅱ p.312, 平新版 4 p.99, 環境省 p.392, SOS 旧版 p.47 (ヤナギヌカボとして), SOS 新版 p.115,117.

トヨボタニソバ *Persicaria geocarpica* Suyama

【評価理由】

個体数階級 1、集団数階級 2、生育環境階級 3、人為圧階級 1、固有性階級 3、補正+1 (獣害)、総点 11。最近記載された植物で、愛知県が分布の中心である。

【形態】

1 年生草本。茎は長さ 30～60cm、はじめ直立するがやがて上部が曲がり、枝を分けて垂れ、地に接するようになる。葉は長さ 1～3cm の柄があり、葉身は長さ 1.7～5.5cm、先端は多少なりとも鋭尖頭、基部はほぼ切形、浅く 3 裂し、頂裂片は三角形～卵状三角形で基部が最も広く、側裂片も三角形である。托葉鞘は長さ 1.5～3mm、短い縁毛がある。花期は 8～9 月、花は枝の先端にほとんど 1 個ずつつき、通常白色、時に帯紅色、しばしば閉鎖花状になる。茎の下部の節からも長さ 1.5～10cm の細い枝を出し、その先に閉鎖花をつける。

【分布の概要】

【県内の分布】

東：1 富山 (芹沢 67334, 1993-9-2)、4 津具 (芹沢 93085, 2017-9-2)、6 設楽西部 (芹沢 83175, 2008-9-6)。西：5 稲武 (芹沢 91511, 2016-9-11)、19 旭 (芹沢 63183, 1992-9-8)、28 額田 (芹沢 84817, 2009-9-5)。

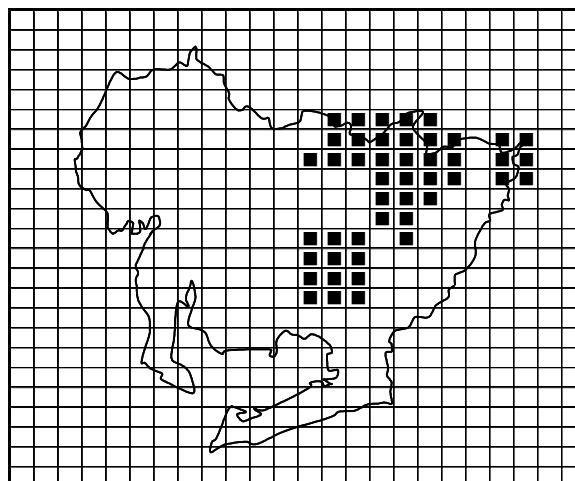
【国内の分布】

本州 (長野県、岐阜県、愛知県)、九州 (熊本県)。

【世界の分布】

日本固有種。

要配慮地区図



【生育地の環境／生態的特性】

山地沢沿いの湿地状の場所に生育する。比較的自然度の高い場所に多いが、林道わきなどに見られることもある。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩				
湿地		○	○	
水域				

【現在の生育状況／減少の要因】

既知の生育地は限られているが、その場所ではたいてい群生している。一部の場所ではニホンジカによる食害が見られる。イノシシが湿地を攪乱し、その結果激減してしまった場所もある。

【保全上の留意点】

既知の生育地を保全する必要がある。獣害対策も必要である。1 年生草本なので、生育地を決定的に破壊しなければ存続すると思われる。

【特記事項】

ミヤマタニソバに似ているが、花序の枝は長く伸びて地表に垂れ、先端に閉鎖花状の花をつける。葉はミヤマタニソバより明瞭に 3 裂し、頂裂片はやや卵形を帯びる。またミヤマタニソバの托葉鞘は先端がやや葉状になり縁毛がないが、本種の托葉鞘は先端が葉状にならず縁毛がある。彩色画は、2009 年版図版 9 に掲載されている。

【関連文献】

平新版 4 p.92.

ナガバノウナギツカミ *Persicaria hastatosagittata* (Makino) Nakai

【評価理由】

個体数階級 2、集団数階級 2、生育環境階級 2、人為圧階級 3、固有性階級 2、総点 11。低湿地性の植物で、愛知県では減少傾向が著しい。

【形態】

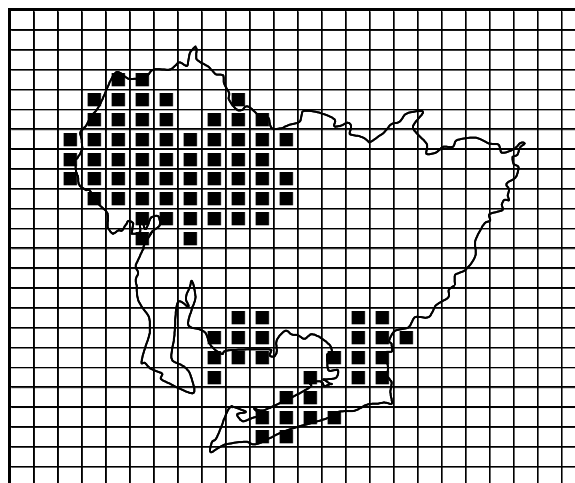
1 年生草本。茎の下部は倒伏して枝を分け、上部は直立して高さ 40～70cm になる。葉柄はアキノウナギツカミより明瞭で、長さ 3cm に達する。葉身は線状楕円形のことが多いが卵状長楕円形のこともあり、長さ 5～10cm、幅 1～2 (～4) cm、先端は鋭尖頭、基部は小さく 3 裂することが多いが、ほとんど切形のこともある。托葉鞘は筒状で長さ 1～3cm、短い縁毛がある。花期は 9～10 月、総状花序は短く、密に花をつける。花序の柄には黒褐色の腺毛が密生する。がくは 5 裂し、上部は紅紫色、花時に長さ 3～4mm である。そう果は 3 稜形、黒褐色で光沢があり、長さ 2～3mm である。

【分布の概要】

【県内の分布】

東：15 豊橋北部（芹沢 53517, 1989-9-25）、17 田原東部（芹沢 88059, 2012-10-10）。西：25 豊田北西部（芹沢 50809, 1988-10-14）、36 西尾南部（壁谷重美子 892, 1994-8-31）。尾：37b 尾張旭（村松正雄 20128, 2000-10-2）、38b 日進（半田多美子 818, 1992-10-10）、49c 北名古屋（鈴木幸子 119, 1992-7-1）、50 名古屋北部（芹沢 88986, 2013-10-5）、51 名古屋南東部（渡辺幸子 6681, 2013-10-16, 逆刺なし）、52 名古屋南西部（高木順夫 3990, 1993-10-9）、53 一宮東部（芹沢 70908, 1994-9-20）、54 一宮西部（芹沢 77719, 2001-10-7）、55 稲沢（家田春俊 127, 1992-11-12）、57b 愛西（山田茂貴 885, 1993-10-20）。56a あま（甚目寺町下萱津, 芹沢 60930, 1991-12-8）にもあったが、絶滅した。上記区画のいくつかでも、実際にはすでに絶滅している可能性がある。32a 刈谷（小堤西池, 芹沢 40928, 1984-10-15）で採集された標本もある。

要配慮地区図



【国内の分布】

本州、四国、九州。

【世界の分布】

日本、台湾、中国大陸南部。

【生育地の環境／生態的特性】

ため池や湿田の周辺、河川敷、休耕田などに生育する。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩				
湿地		○	○	
水域				

【現在の生育状況／減少の要因】

点在するが、どの場所も個体数は少ない。耕地整理や乾田化の進行、ため池の改修や水の汚れなどにより、観察できる機会は著しく減少している。ある場所で消失してもまた別の場所に出現することがあり、どの区画でも絶滅と断定しにくいいため準絶滅危惧と評価されたが、実際の状況はもっと危機的かもしれない。

【保全上の留意点】

平野部に残存する湿田や未整理耕地は、本種を含め、多くの現在では稀少になってしまった生物の生育・生息場所になっている。過去の農業形態を示す文化財としても重要である。現に生産活動が行われている場所であるため難しい問題はあるが、代表的な場所については保全を図るべきである。

【特記事項】

花は紅紫色で、アキノウナギツカミよりはるかに目立つ。

【関連文献】

保草本Ⅱ p.306, 平草本Ⅱ p.20, 平新版 4 p.93.

コミゾソバ *Persicaria mikawana* Hanai et Seriz.

【評価理由】

個体数階級 2、集団数階級 2、生育環境階級 3、人為圧階級 2、固有性階級 2、総点 11。湿地性の植物で、東海地方は主産地であるが、それでも生育地は少ない。

【形態】

1 年生草本。主軸は長さ 15～80cm、基部はあまり倒伏せず、閉鎖花序枝を出さない。葉は 1～3.5cm の柄があり、葉身は長さ 3～7cm、幅 2～5cm、先端は突出して鈍端、基部は浅い心形、頂裂片は卵状五角形で基部ははっきりくびれ、側裂片は葉長の割に大きくてほとんど円頭になる。花期は 8～9 月、花序は小さく、少数の花をつける。花序群も少数（しばしば 1 個のみ）の花序からなる。がくは長さ 3～4mm、帯紅色または緑白色、そう果は淡褐色でやや光沢があり、長さ約 3mm である。

【分布の概要】

【県内の分布】

東：4 津具（芹沢 86199, 2010-9-19）、11 作手（芹沢 91451, 2016-9-3）。西：5 稲武（芹沢 84940, 2009-9-19）、21 下山（芹沢 85058, 2009-9-24）、28 額田（芹沢 83614, 2008-10-17）、29 岡崎北部（芹沢 85064, 2009-9-24）、30 岡崎南部（芹沢 80097, 2005-8-7, 正基準標本）。尾：37a 瀬戸（芹沢 82038, 2007-8-16）、45 犬山（芹沢 82644, 2007-10-11）、51 名古屋南東部（芹沢 95855, 2019-9-21）。50 名古屋北部（千種村, 天野景従 s.n., 1910-10-23, MAK）で採集された標本もある。正基準標本は花が帯紅色だが、他の大部分は花が緑白色の型（ミドリコミゾソバ）である。

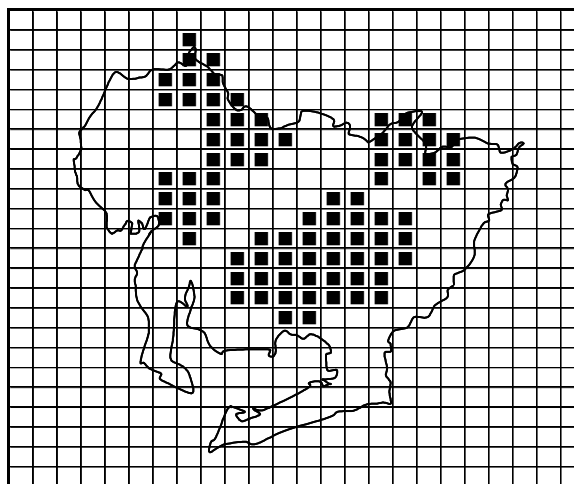
【国内の分布】

本州（福島県～兵庫県）。

【世界の分布】

日本固有種。

要配慮地区図



【生育地の環境／生態的特性】

丘陵地～山地の、やや貧栄養の、しかし極度に貧栄養ではない湿地の、林縁や林内に生育する。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩				
湿地	○	○		
水域				

【現在の生育状況／減少の要因】

下山の一部と岡崎南部（池金町）の北山湿地には比較的多いが、他はどこも小群落である。一部の場所では森林化が進行して湿地が暗くなり、衰退している。

【保全上の留意点】

ある程度は被陰に耐えられる植物であるが、それでもあまり暗くなると生育できない。湿地周辺の樹木を伐採して光条件を確保する必要がある。本種に限れば適度の攪乱はむしろ好都合であるから、作業に際し過度に神経質になる必要はない。

【特記事項】

2008 年に新種として記載された植物で（花井・芹沢 2008）、基準標本産地は岡崎南部の北山湿地である。

【引用文献】

花井隆晃・芹沢俊介. 2008. 日本のミゾソバ類. シデコブシ 1: 3-26.

【関連文献】

平新版 4 p.93.

オオミゾソバ

Persicaria thunbergii (Sieb. et Zucc.) H. Gross subsp. *stolonifera* (F. Schmidt)

【評価理由】

個体数階級 2、集団数階級 3、生育環境階級 2、人為圧階級 2、固有性階級 2、総点 11。東北日本に多い湿地性の植物で、愛知県は分布域の東限にあたる。

【形態】

1 年生草本。主軸は長さ 60～150cm、基部は倒伏して長さ 30～150cm のつる状の閉鎖花序枝を出し、上部はほぼ直立する。葉は 4～7cm の柄があり、葉身は長さ 8～13cm、先端は鋭尖頭、基部は切形～ごく浅い心形、頂裂片は卵形で基部ははっきりくびれ、側裂片は大きくて左右に張り出す。花期は 9 月中旬～10 月中旬、花序は大きく、茎頂に集まってつく。がくは長さ 5.5～7mm、淡紅色または白色、そう果は淡褐色で光沢がなく、長さ約 4mm である。

【分布の概要】

【県内の分布】

東：4 津具（芹沢 89015, 2013-11-9）、6 設楽西部（芹沢 78895, 2003-10-1）。西：5 稲武（芹沢 86222, 2010-9-19）。11 作手（鴨ヶ谷～岩波, 村田 源 13235, 1959-9-24, KYO）で採集された標本もある。

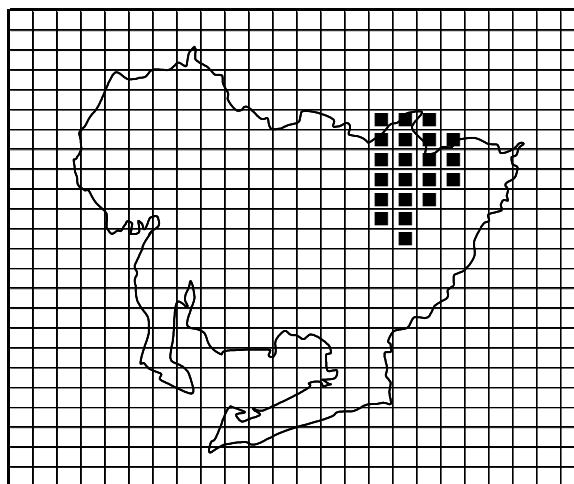
【国内の分布】

北海道（東南部）、本州（中北部の太平洋側）。

【世界の分布】

千島列島南部、サハリン、日本。

要配慮地区図



【生育地の環境／生態的特性】

湿地の日当たりのよい場所や明るい湿地林内に群生する。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩				
湿地	○			
水域				

【現在の生育状況／減少の要因】

生育地は少ないが、ある場所では群生していることが多い。

【保全上の留意点】

ある程度攪乱耐性がある植物なので、生育地を決定的に破壊しなければ存続すると思われる。

【特記事項】

ミゾソバ subsp. *thunbergii* に比べ、長い閉鎖花序枝があり、花が大きい。花井・芹沢（2008）では subsp. *hastatotriloba* (Meisn.) Sugim. を用いたが、この学名のもととなる *Poly. hastatotrilobum* の基準標本は、米倉氏によれば、ただのミゾソバだそうである。

【引用文献】

花井隆晃・芹沢俊介, 2008. 日本のミゾソバ類. シデコブシ 1: 3-26.

ハチジョウイノコヅチ *Achyranthes bidentata* Blume var. *hachijoensis* (Honda) H.Hara

【評価理由】

個体数階級 2、集団数階級 2、生育環境階級 3、人為圧階級 2、固有性階級 1、総点 10。海浜性の植物。総点は 10 であるが、最近になって注目された植物であることを考慮し、準絶滅危惧と評価する。

【形態】

多年生草本。茎は高さ 20～90cm になる。葉は対生し、長さ 1～4cm の柄があり、葉身は楕円形～卵形、長さ 17cm、幅 10cm に達し、先端は鋭頭～やや鋭尖頭、基部は広くさび形、全縁でほとんど無毛、表面は深緑色でやや光沢がある。花期は 8～9 月、花序は穂状で枝の先端につき、長さ 4～12cm、密に花をつけるが、果実期には花序が伸びるためややまばらになる。小苞基部の付属体はやや大きい。

【分布の概要】

【県内の分布】

東：17 田原東部（小林 74107, 2001-11-9）。
西：36 西尾南部（芹沢 87471, 2011-10-6）。
尾：44b 南知多（芹沢 83439, 2008-10-3）。三河湾にある篠島、日間賀島、佐久島には比較的多いが、それ以外では渥美半島の太平洋側で 1 回採集されただけである。

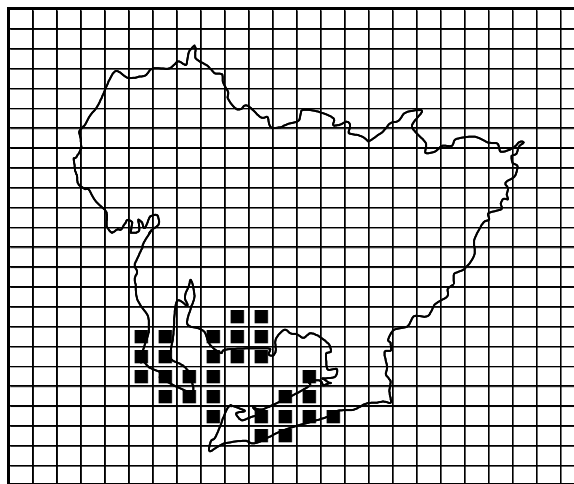
【国内の分布】

本州（中南部）、四国、九州、琉球。

【世界の分布】

日本固有変種。

要配慮地区図



【生育地の環境／生態的特性】

海岸の半日陰の岩場や林内に生育する。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				○
草・岩				○
湿地				
水域				

【現在の生育状況／減少の要因】

三河湾の島には点在しており、生育状況も良好である。ただし、過度に攪乱された場所には生育しない。過去には更に多く生育していたが、観光開発等によって減少し、現在の状態になったと思われる。

【保全上の留意点】

三河湾の島は開発が進み、海岸部の地形はほとんど改変されている。現在残存している自然地形の海岸は確実に保全していく必要がある。

【特記事項】

花は他のイノコヅチ類より 1 ヶ月以上早く、8 月から咲き始める。表記の学名はおそらく不適切で、現在検討中である。

【関連文献】

保草本Ⅱ p.283, 平草本Ⅱ p.55, 平新版 4 p.130.

マルバアカザ *Chenopodium acuminatum* Willd. var. *japonicum* Franch. et Sav.

【評価理由】

個体数階級 2、集団数階級 3、生育環境階級 3、人為圧階級 2、固有性階級 1、総点 11。海浜の砂地を特徴づける植物の一つで、愛知県では減少傾向が著しい。

【形態】

1 年生草本。茎は直立するか斜上して分枝し、高さ 20～60cm になる。葉は互生し、有柄、葉身は長楕円形～広卵形、長さ 2.5～6cm、幅 1.8～4.5cm、先端は鈍頭～円頭、基部は鈍円形、辺縁は全縁で狭い膜質半透明部があり、やや厚くて裏面に粉状物がある。花期は 5～10 月、花は密集して細い穂状につき、花序の下部では枝を出す、それ以上は分かれぬ。種子は黒色で光沢があり、長さ 1.3～1.5mm である。

【分布の概要】

【県内の分布】

東：16 豊橋南部（芹沢 71228, 1994-10-4）、18 田原西部（芹沢 79239, 2004-6-28）。尾：41b 知多（畑佐武司 378, 1999-9-27）、43 常滑（芹沢 76805, 2000-6-16）。17 田原東部にもあるという（小林 2002）。42c 武豊（富貴海岸、相羽福松 217, 1979-9-2）で採集された標本もある。

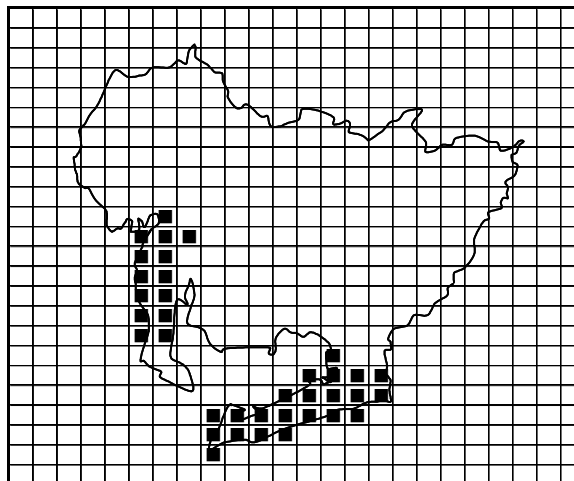
【国内の分布】

本州、四国、九州、琉球。

【世界の分布】

日本のほか、中国大陸、モンゴル、シベリア、中央アジアなどに広く分布する。

要配慮地区図



【生育地の環境／生態的特性】

海岸の砂地に生育する。1 年生草本で、やや不安定な場所に多く見られる。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩				○
湿地				
水域				

【現在の生育状況／減少の要因】

点在するが、大きな群落はない。かつてはあちこちの海岸に生育していたものと思われるが、砂浜の減少に伴い、生育可能な場所自体がなくなりつつある。

【保全上の留意点】

自然海岸は、埋め立てや護岸などで急激に減少している。現在砂浜や塩湿地が残されている場所は、注意して保全する必要がある。

【特記事項】

海岸部に生育するシロザはしばしば葉が厚く、辺縁の欠刻が目立たなくなるが、それからは花穂の形態で区別できる。

【引用文献】

小林元男. 2002. 渥美半島の植物 p.106. 東三林業振興会, 豊川.

【関連文献】

保草本Ⅱ p.292, 平草本Ⅱ p.47, 平新版 4 p.138.

カワラアカザ *Chenopodium acuminatum* Willd. var. *vachelii* (Hook. et Arn.) Miq.

【評価理由】

個体数階級 2、集団数階級 3、生育環境階級 3、人為圧階級 2、固有性階級 1、総点 11。砂地を特徴づける植物の一つで、愛知県では減少傾向が著しい。

【形態】

1 年生草本。茎は直立するか倒伏して分枝し、高さ 10～35cm になる。葉は互生し、有柄、葉身は茎の下部のものも広披針形～長卵形、鋭頭～鈍頭、辺縁は全縁で狭い膜質半透明部があり、上部のものはさらに細くなる。花期は 7～10 月、花は密集して細い穂状につき、花序の下部では枝を出す、それ以上は分かれぬ。種子は長さ 1.3～1.5mm である。

【分布の概要】

【県内の分布】

西：24 豊田東部（畑佐武司 2244, 2001-8-5）。尾：54 一宮西部（芹沢 77723, 2001-10-7）、55 稲沢（芹沢 76362, 1999-9-18）、57b 愛西（芹沢 49730, 1988-8-19）。東：4 津具（芹沢 70574, 1994-8-31）でも採集されたことがあるが、おそらく土砂と共に移入されたものである。

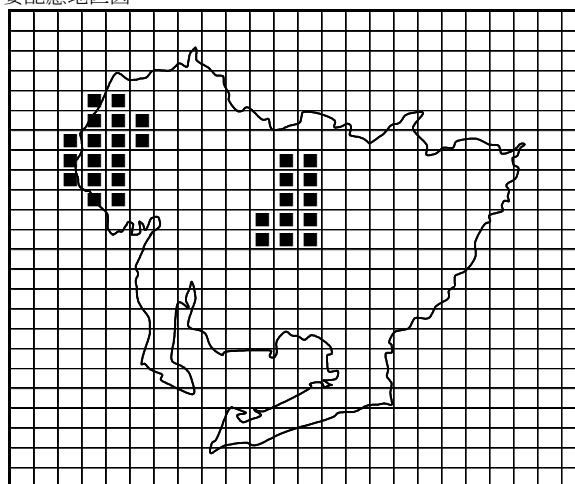
【国内の分布】

本州、四国、九州、琉球。

【世界の分布】

日本、朝鮮半島、中国大陸、モンゴル、ウズベキスタン。

要配慮地区図



【生育地の環境／生態的特性】

河川敷や海岸近くの砂地に生育する。1 年生草本で、やや不安定な場所に多く見られる。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩			○	○
湿地				
水域				

【現在の生育状況／減少の要因】

稲沢市（旧祖父江町）の木曽川河川敷には比較的多いが、他の場所では少ない。観光開発やオフロード車の乗り入れ等により、本種が生育できるような場所は著しく減少している。次代に良好な自然を残すためには、現在の利用にある程度の制約が必要である。

【保全上の留意点】

砂地を、本来の状態のまま保全することが必要である。木曽川沿いの河岸砂丘は、地形的に見ても国内にほとんど例がないものであり、特に注意して保全する必要がある。

【特記事項】

マルバアカザに比べて葉が細く、薄く、先端がやや尖り、花序も細いが、差違はやや微妙なところがある。葉が更に細く、花序が細かく分枝するホソバアカザ *C. stenophyllum* (Makino) Koidz. も、葉の辺縁に狭い膜質半透明部を持つことが多い。

【関連文献】

保草本Ⅱ p.292, 平草本Ⅱ p.47, 平新版 4 p.138, SOS 新版 p.130,132.

イソホウキギ *Kochia littorea* (Makino) Makino

【評価理由】

個体数階級 1、集団数階級 2、生育環境階級 4、人為圧階級 2、固有性階級 2、総点 11。大陸系の塩湿地性植物で、愛知県は分布域の東限に近い。

【形態】

1 年生草本。茎は多くの開出した枝を分け、高さ 30～100cm になる。葉は互生し、狭倒披針形～倒披針形、長さ 1～5cm、幅 2～7mm、やや厚く、先端は鋭頭、基部は細まり、3 脈があり、全縁で両面に褐色の絹毛がある。花期は 9～10 月、花は葉腋に 1～3 個つき、両性花と雌花があり、枝全体で大きな円錐花序となる。種子は倒卵形で、長さ 1.3mm 程度である。

【分布の概要】

【県内の分布】

東：16 豊橋南部(芹沢 90800, 2015-10-12)、17 田原東部(小林 54077, 1994-9-24)、18 田原西部(芹沢 88014, 2012-10-6)。西：36 西尾南部(佐久島)からも報告されている(小林・深谷 2008)。14 蒲郡(西浦町、鳥居喜一 14094, 1949-7-17, HNSM)で採集された標本もある。知多半島では現在のところ確認されていない。

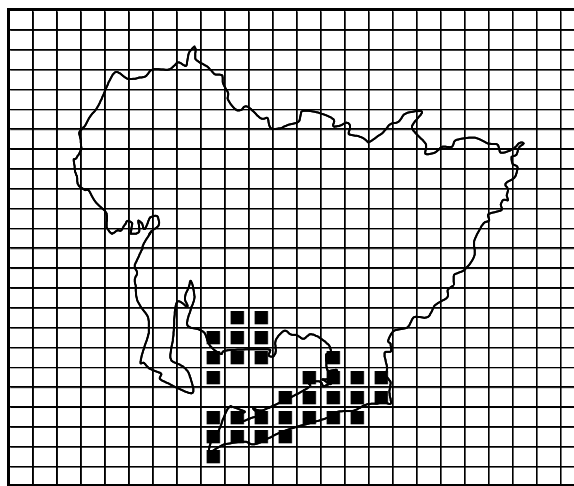
【国内の分布】

本州(東海地方以西)、四国、九州に生育する。

【世界の分布】

日本、朝鮮半島、中国大陸東部に分布する。

要配慮地区図



【生育地の環境／生態的特性】

内湾の塩湿地や多少安定した砂浜に生育する。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩				○
湿地				○
水域				

【現在の生育状況／減少の要因】

三河湾南岸に点在している。近年に限ればそれほど減少しているわけではないが、過去の内湾部の埋め立てによって大きな影響を受けたと思われる。現在生育している場所でも、開発や水の汚れがあれば容易に消滅する。佐久島では「砂利混じりの砂浜に少数株生育していた」と書かれているが生育は不安定らしく、2008 年の調査では確認できなかった。

【保全上の留意点】

内湾の塩湿地は、開発圧力が高く、全国的にも愛知県でも急激に減少している。現在残存している場所は、特に注意して保全する必要がある。生育地の直接的な改変を避けることはもちろんであるが、通常は河口にあるので、流入する河川の水質維持にも注意を払う必要がある。

【特記事項】

栽培されるホウキギに比べ、枝分かれが少なく、葉は幅広くてやや厚い。

【引用文献】

小林元男・深谷昭登司. 2008. 佐久島・三河湾島々の植物 p.80,231. 佐久島会, 刈谷.

【関連文献】

保草本Ⅱ p.290, 平草本Ⅱ p.46, 平新版 4 p.135, SOS 旧版 p.48+図版 32.

バイカアマチャ *Platycrater arguta* Siebold et Zucc.

【評価理由】

個体数階級 2、集団数階級 2、生育環境階級 3、人為圧階級 2、固有性階級 2、総点 11。日本と中国に分布する 1 属 1 種の植物で、日本では西日本に分布しており、愛知県は分布域の東限に近い。

【形態】

落葉性の低木。茎は下部から分枝し、高さ 1～2m になる。葉は対生し、長さ 1～2.5cm の柄があり、葉身は長楕円形または狭長楕円形、先は長鋭尖頭、基部はくさび型、枝の上部のものほど大きくなり、最上部のもので長さ 10～22cm、幅 3～6cm、辺縁には鋭い鋸歯があり、両面に伏毛がある。花期は 7～8 月、今年枝の先端に直径 5～10cm の集散花序をつける。装飾花は楕状につき、円形で直径 10～30mm、果期まで残存する。通常花は白色で直径 16～22mm、花弁は 4 枚で卵形、長さ 8～10mm、花後に脱落する。

【分布の概要】

【県内の分布】

東：1 富山（小林 46767, 1993-8-21）、2 豊根（加藤等次 3233, 1993-7-6）、3 東栄（芹沢 79343, 2004-8-21）、4 津具（小林 47794, 1993-9-15）、8 鳳来北東部（小林 33132, 1988-7-31）。県内の分布域は、ほとんど天竜川水系に限られている。

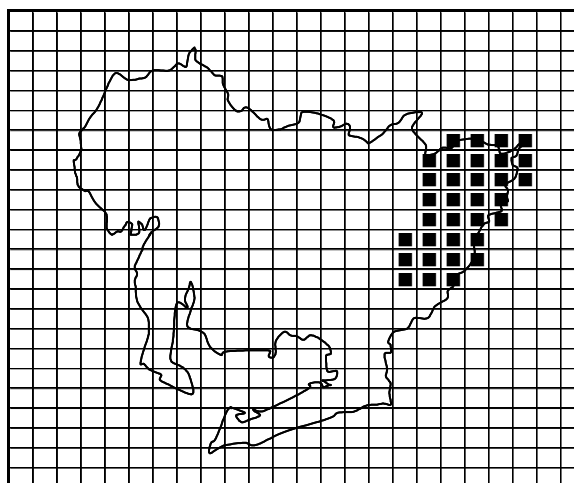
【国内の分布】

本州（静岡県、愛知県、紀伊半島および中国地方）、四国、九州。

【世界の分布】

基準変種は日本固有。他の変種が中国大陸にある。

要配慮地区図



【生育地の環境／生態的特性】

山地林下のやや湿った斜面や崖状地などに生育する。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林	○			
草・岩	○			
湿地				
水域				

【現在の生育状況／減少の要因】

天竜川流域には比較的多いが、豊川流域では鳳来町に 2 カ所自生地があるにすぎない。そのうち 1 カ所は、大島ダムの建設により大部分が水没した。

【保全上の留意点】

道路沿いに生育しているものについては、拡幅などの際に注意を要する。

【特記事項】

和名は、葉がアマチャに似ており、花が梅のようだからである。

【関連文献】

保木本Ⅱ p.111, 平木本Ⅰ p.164, 平新版 4 p.170.

クリンソウ *Primula japonica* A.Gray

【評価理由】

個体数階級 2、集団数階級 2、生育環境階級 3、人為圧階級 3、固有性階級 1、総点 11。美しい花をつける鑑賞価値の高い植物で、愛知県では園芸目的の採取により、減少傾向が著しい。

【形態】

多年生草本。葉は束生し、葉身は倒卵状長楕円形、長さ 15～40cm、幅 5～13cm、先端は円く、基部は次第に狭まって柄状になり、無毛、辺縁には不ぞろいな多数の歯牙がある。花期は 5～6 月、花茎は高さ 40～80cm になり、上部に多数の花を 2～5 段に輪生してつける。花冠は紅紫色で中央部は濃色になり、直径 2～2.5cm、筒部は長さ 1.5～1.7cm である。果実はさく果で球形、直径約 7mm である。

【分布の概要】

【県内の分布】

東：2 豊根 (村松正雄 25748, 2011-5-7)、4 津具 (小林 45726, 1993-7-31)、6 設楽西部 (小林 37795, 1992-6-14)、9 鳳来南部 (小林 62071, 1997-8-30)、11 作手 (芹沢 64795, 1993-5-1)。西：5 稲武 (小林 38010, 1992-6-28)、19 旭 (日比野修 1093, 1993-5-8)、20 足助 (芹沢 88538, 2013-7-6)。24 豊田東部 (山崎玲子 2817, 2003-5-9) でも採集されているが、これは植栽起源の可能性が高い。

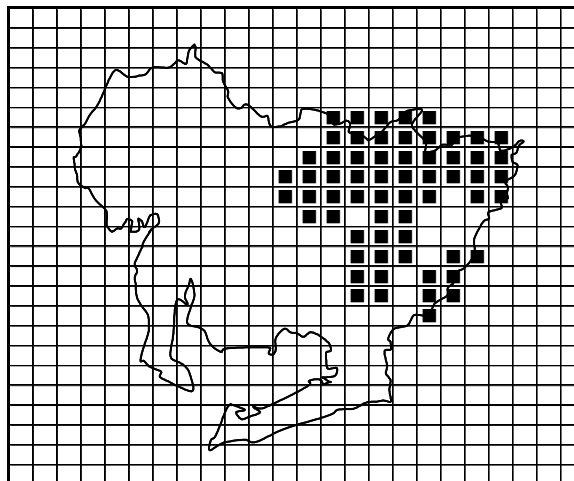
【国内の分布】

北海道、本州、四国。

【世界の分布】

日本固有種。

要配慮地区図



【生育地の環境／生態的特性】

山地の沢沿いなどの湿地に生育する。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩				
湿地	○			
水域				

【現在の生育状況／減少の要因】

長野県まで行けば比較的多いが、愛知県ではもともとそれほど多い植物ではない。人目につにくい場所ではまだ小群落が点在するが、道路の近くなど目につきやすい場所ではほとんど持ち去られ、山麓の民家の庭などに栽培されていることが多い。

その一方で豊田市などでは、もともとなかった場所に植栽や播種が行われ、本来の自然状態に対する大きな脅威になっている。本来ないものは「ない」のが自然の状態であり、移入はどのような場合でもその自然状態を破壊する行為であることを認識する必要がある。

【保全上の留意点】

園芸目的の採取を防止するため、分布情報の公表に際し慎重な配慮が必要である。

【特記事項】

和名は花が段になって輪生するからであるが、9 段には及ばない。

【関連文献】

保草本 I p.231, 平草本 III p.23, 平新版 4 p.200, SOS 旧版 p.69, SOS 新版 p.63,65.

サラサドウダン *Enkianthus campanulatus* (Miq.) G.Nicholson

【評価理由】

個体数階級 2、集団数階級 3、生育環境階級 3、人為圧階級 2、固有性階級 1、総点 11。愛知県では生育地が少なく、また園芸目的の採取により減少している。

【形態】

落葉性の低木。よく分枝し、高さ 2～5m になる。葉は枝先に集まって互生し、長さ 3～10mm の柄があり、葉身は倒卵形、長さ 2～5cm、幅 1～2cm、先端は鈍頭または鋭頭、下部はしだいに狭くなって葉柄に流れ、辺縁に先が長毛になる微小な鋸歯がある。花期は 5 月中旬～6 月下旬、枝先に長さ 2～3cm の短い総状花序を伸ばし、10 個内外の花を下垂する。花冠は鐘形で長さ 8～10mm、浅く 5 裂し、裂片は円形、下部は黄白色で紅色の縦条があり、上部は淡紅色である。果実は蒴果で、上向きにつき、長さ 5～7mm である。

【分布の概要】

【県内の分布】

東：11 作手(小林 56712, 1995-5-14)。西：21 下山(小林 56720, 1995-5-14)、28 額田(小林 52755, 1994-7-17)。

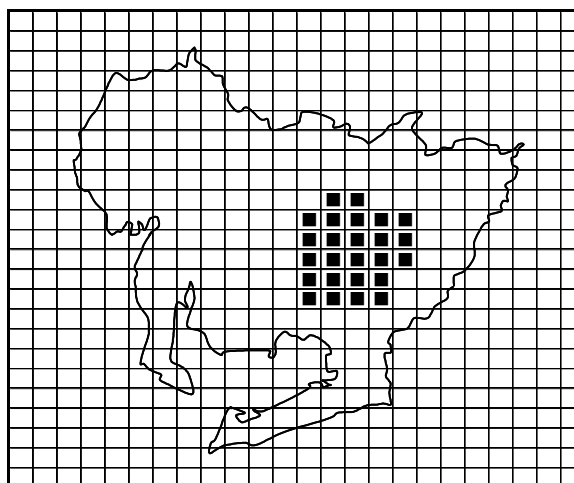
【国内の分布】

北海道(西南部)、本州(兵庫県以東)、四国(徳島県)に生育する。

【世界の分布】

日本固有種。

要配慮地区図



【生育地の環境／生態的特性】

通常は深山の岩地に生育する。愛知県の生育地は、やせ山や湿地状の場所である。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩	○			
湿地	○			
水域				

【現在の生育状況／減少の要因】

生育地は限られているが、その場所では個体数は比較的多い。愛知県では比較的平坦な地形の場所に生育しているため、牧場等の開発により減少傾向にある。造林地となっている場所では、被陰による衰退も目につく。また道路沿いなどでは、園芸目的でかなり掘り取られている。

【保全上の留意点】

生物多様性の保全の上では、植生の発達が悪いやせ山が重要な場所であることをよく認識する必要がある。園芸目的の採取を防止するため、分布情報の公表に際し慎重な配慮が必要である。

【特記事項】

花序が長いカイナンサラサドウダン *E. sikokianus* (Palibin) Ohwi は、愛知県では比較的広く分布している。

【関連文献】

保木本 I p.131, 平木本 II p.145, 平新版 4 p.251.

シャクジョウソウ *Monotropa hypopitys* L.

【評価理由】

個体数階級 3、集団数階級 2、生育環境階級 3、人為圧階級 2、固有性階級 1、総点 11。自然度の高い場所に生育する腐生植物で、愛知県では点在するが、どの場所でも個体数が少ない。

【形態】

全体が淡黄褐色の、腐生の多年生草本。茎は高さ 10～20cm で、上部に軟毛がある。葉は互生し、鱗片状で広卵形、先端は鋭頭である。花期は 6～8 月、茎の先に総状花序をつくり、4～8 個の花を下向きにつける。花は筒状鐘形でがく片は 4～5 枚、花弁も 4～5 枚で長橢円形、長さ 1.2～1.5cm、先端は円頭、辺縁には不規則な歯牙がある。果実はさく果で、上向きにつく。

【分布の概要】

【県内の分布】

東：1 富山 (小林 48053, 1993-9-19)、4 津具 (村松正雄 18143, 1998-8-23)、9 鳳来南部 (小林 62069, 1997-8-30)、11 作手 (山崎玲子 2113, 2000-1-1)。西：19 旭 (日比野修 1369, 1993-6-22)、20 足助 (山崎玲子 1533, 1996-10-8)、21 下山 (山崎玲子 1642, 1997-10-22)、24 豊田東部 (山崎玲子 2853, 2003-6-25)。尾：48 春日井 (山田果与乃 376, 1998-7-23)。2 豊根 (砦山, 加藤等次 1170, 1967-8-5)、6 設楽西部 (段戸山, 杉浦哲郎 88, 1949-8) で採集された標本もある。

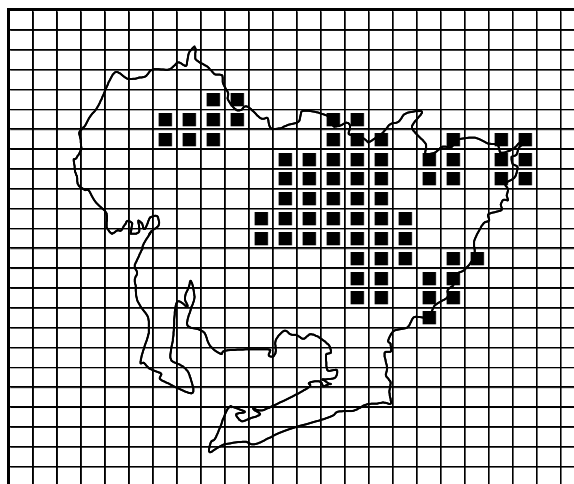
【国内の分布】

北海道、本州、四国、九州。

【世界の分布】

アジア、北アメリカ、ヨーロッパの温帯に広く分布する。

要配慮地区図



【生育地の環境／生態的特性】

山地の落葉広葉樹林内に生育する。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林	○			
草・岩				
湿地				
水域				

【現在の生育状況／減少の要因】

点在するが、どの場所でもたまたま発見できたというような状況で、確実に観察できる場所は少ない。自然林やよく発達した二次林の伐採により、減少傾向にあるものと思われる。

【保全上の留意点】

生育が確認されている場所の森林を保全することはもちろん必要であるが、本種のような出現頻度の低い植物については、自然環境の全体的な劣化を防止しなければ、いつの間にか消滅してしまうおそれがある。

【特記事項】

和名は、花序が僧侶や修験者の持つ錫杖に似ているからである。

【関連文献】

保草本 I p.235, 平草本 III p.6, 平新版 4 p.226.

キクムグラ *Galium kikumugura* Ohwi

【評価理由】

個体数階級 2、集団数階級 2、生育環境階級 3、人為圧階級 2、固有性階級 2、総点 11。愛知県では生育地が少なく、存続の基盤が脆弱である。

【形態】

多年生草本。茎はやわらかく、斜上して長さ 20～40cm になる。葉は 4 枚輪生し、楕円形～狭倒卵形、長さ 6～15mm、幅 3～8mm、先端は円頭または鈍頭で短く尖り、辺縁に上向きの剛毛がある。花期は 5～6 月、枝先や葉腋から花序を出し、1～3 個の花をつける。小花柄はほとんどないものから 5mm くらいのもので長さが不同で、その基部に 1 個の披針形の苞がある。花冠は白色で 4 深裂し、直径約 1mm である。果実は楕円形で、上向きに曲がった毛がある。

【分布の概要】

【県内の分布】

東：2 豊根（芹沢 95743, 2019-9-8）、8 鳳来北東部（小林 51439, 1994-5-15）、11 作手（小林 51500, 1994-5-15）。尾：46a 扶桑（小林 68963, 2000-5-13）、50 名古屋北部（鳥居ちゑ子 2303, 2003-5-9）、54 一宮西部（渡辺幸子 2660, 1996-6-9）、55 稲沢（渡辺幸子 4690, 2001-5-15）。45 犬山（犬山城, 沢井輝男 s.n., 1934-8-14）で採集された標本もある。

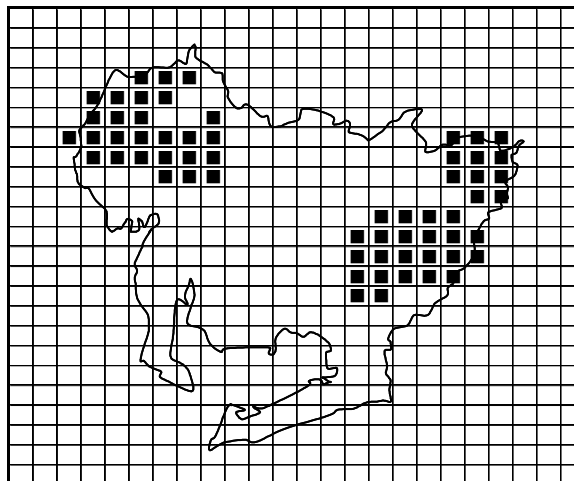
【国内の分布】

北海道、本州、四国、九州。

【世界の分布】

日本固有種。

要配慮地区図



【生育地の環境／生態的特性】

山地の林縁などに生育する。ただし愛知県の場合、名古屋北部は名古屋城、扶桑、一宮西部、稲沢は木曽川の河川敷である。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林	○		○	
草・岩				
湿地				
水域				

【現在の生育状況／減少の要因】

二次林や造林地の林縁、林内などに生育している。特別な環境の場所に生育しているわけではなく、それでいて生育地が少ない植物である。造林地の場合は、手入れ不足で林床の光条件が悪化し、衰退傾向にある。

【保全上の留意点】

間伐など、適切な林地の手入れが必要である。

【特記事項】

目立たない植物なので、他に自生地がないか、今後更に注意して探索する必要がある。花序に小さい苞があることがよい特徴である。

【関連文献】

保草本 I p.112, 平草本 III p.54, 平新版 4 p.275, SOS 旧版 p.74.

ルリミノキ *Lasianthus japonicus* Miq.

【評価理由】

個体数階級 2、集団数階級 2、生育環境階級 3、人為圧階級 2、固有性階級 2、総点 11。暖地性の低木で、伐採等により生育地が減少している。

【形態】

常緑性の低木。高さ 1～1.5m になる。葉は対生し、長さ 5～15mm の柄があり、葉身は長楕円形、長さ 7～15cm、幅 2～4cm、先端は鋭尖頭、基部は鋭形、やや厚い革質で全縁、表面は無毛で光沢があり、裏面脈上に短毛が散生する。花期は 5～6 月、花は葉腋から出る短い集散花序に 2～4 個つき、下向きに咲く。花冠は白色で高杯形、長さ約 1cm、先端は 5 裂し、裂片は卵形で鈍頭、長さ約 4mm である。果実は液果で球形、直径約 6mm、晩秋にりり色に熟す。

【分布の概要】

【県内の分布】

東：2 豊根（小林 43420, 1993-5-29）、8 鳳来北東部（村松正雄 27873, 2013-9-22）、10 鳳来北西部（小林 55230, 1994-11-23）、12 新城（小林 55168, 1994-11-19）、13 豊川（芹沢 82613, 2007-11-7）。西：30 岡崎南部（芹沢 69235, 1994-5-23）。

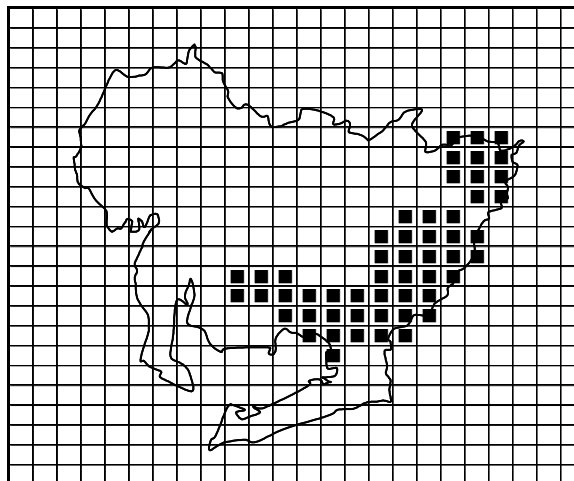
【国内の分布】

本州（東海地方、紀伊半島、中国地方）、四国、九州、琉球（沖縄島）。

【世界の分布】

日本、台湾北部、中国大陸南部。

要配慮地区図



【生育地の環境／生態的特性】

暖地の照葉樹林や二次林内に生育する。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林	○	○		
草・岩				
湿地				
水域				

【現在の生育状況／減少の要因】

東三河では数カ所に生育している。東三河以外では岡崎南部の山中八幡宮社叢に生育しているだけである。この場所は、県の自然環境保全地域として保全が図られている。

【保全上の留意点】

生育地の森林を保全することが必要である。社寺林に生育している場合は、日常的には比較的安全であるが、社殿改修などの際に伐採されることがあるので、注意が必要である。

【特記事項】

和名は、果実の色による。

【関連文献】

保木本 I p.58, 平木本 II p.202, 平新版 4 p.280, SOS 旧版 p.74, SOS 新版 p.71,73.

イヌセンブリ *Swertia tosaensis* Makino

【評価理由】

個体数階級 2、集団数階級 1、生育環境階級 3、人為圧階級 3、固有性階級 2、総点 11。全国的に減少傾向の著しい、湿地性の植物である。

【形態】

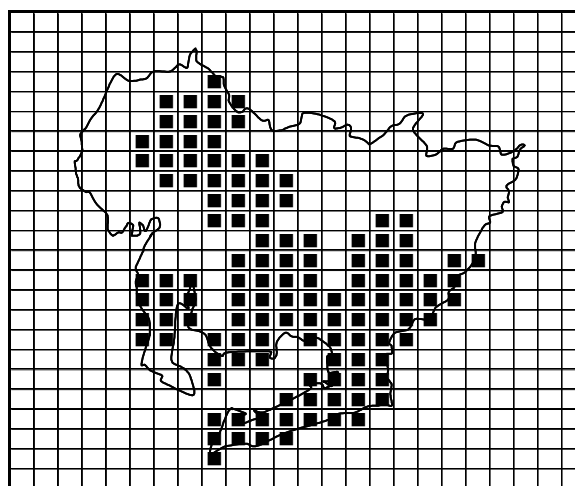
1年生または越年生の草本。茎は直立してしばしば基部から分枝し、高さ 10~30cm になる。葉は対生し、無柄、葉身は倒披針形、長さ 2~5cm、幅 4~10mm、先端は鈍頭、辺縁は全縁である。花期は 10~11 月、花は茎の上部の枝先にまばらな円錐状につき、花冠は白色で淡紫色の条があり、直径約 15mm、5 裂し、裂片は披針形で長さ 8~10mm、基部に 2 個の蜜腺があり、そのまわりに長い毛がある。

【分布の概要】

【県内の分布】

東: 9 鳳来南部(小林 29340, 1985-10-31)、11 作手(芹沢 53725, 1989-10-3)、12 新城(加藤等次 4170, 1993-10-26)、13 豊川(小林 40337, 1992-10-2)、15 豊橋北部(芹沢 68836, 1993-10-20)、16 豊橋南部(小林 40398, 1992-10-8)、17 田原東部(瀧崎吉伸 26305, 2009-11-3)、18 田原西部(小林 49147, 1992-11-8)。西: 25 豊田北西部(芹沢 81159, 2006-11-4)、27 みよし(芹沢 81156, 2006-11-4)、29 岡崎北部(安達史幸 s.n., 1988-11-9)、30 岡崎南部(本多さおり 1124, 1994-10-29)、36 西尾南部(芹沢 71388, 1994-10-31)。尾: 38a 長久手(半田多美子 2874, 1999-11-9)、42c 武豊(芹沢 91626, 2016-11-5)、43 常滑(芹沢 77747, 2001-10-23)、47 小牧(村松正雄 17276, 1997-10-25)、48 春日井(芹沢 88227, 2012-11-3)、50 名古屋北部(芹沢 88192, 2012-10-27)。ただし一部の区画では、すでに絶滅しているかもしれない。その一方でみよしは以前にはなかったはずの場所で、近年新たに形成された群落と思われる。

要配慮地区図



【国内の分布】

本州、四国、九州。

【世界の分布】

日本、朝鮮半島、中国大陆。

【生育地の環境／生態的特性】

ため池の周辺、谷戸田の周辺などの湿った草地に生育する。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩				
湿地		○		
水域				

【現在の生育状況／減少の要因】

愛知県では、注意して探索すればまだあちこちに生育しているが、どの場所でも個体数は少ない。開発やため池の改修、谷戸田の放棄、草刈りの停止による大型草本の繁茂などにより、減少傾向にある。公園整備によって絶滅した例もある。西尾南部(旧幡豆町)では、生育地の谷戸田が空港埋め立て用の土砂を採取するため買収された。土砂採取事業自体は中止されたが、結果的に谷戸田は放棄され、大型草本が繁茂して、本種は消失した。

【保全上の留意点】

丘陵地や低山地の谷戸田周辺にある里草地(いわゆるボタ)は、草地性植物が多く生育しており、その中には絶滅危惧植物も多い。文化遺産としても重要で、特に保全に配慮する必要がある。

【特記事項】

センブリに似ているが苦味がなく薬用にならないので、イヌセンブリという。センブリと異なり、湿地性の植物である。

【関連文献】

保草本 I p.216, 平草本 III p.35, 平新版 4 p.303, 環境省 p.480, SOS 旧版 p.71+図版 23.

コイケマ *Cynanchum wilfordii* (Maxim.) Hook.f.

【評価理由】

個体数階級 2、集団数階級 2、生育環境階級 3、人為圧階級 3、固有性階級 1、総点 11。愛知県では生育地も個体数も少なく、存続の基盤が脆弱である。

【形態】

つる性の多年生草本。太い根茎がある。茎は淡緑色で長く伸び、切ると白い乳液が出る。葉は対生し、長さ 2～5cm の柄があり、葉身は円心形、長さ 5～10cm、幅 4～8cm、先端は急に鋭くとがり、基部は深い心形、辺縁は全縁、脈上に短毛がある。花期は 7～8 月、花序の柄は葉柄より短く、小花柄は長さ 7～10mm、花冠は淡黄緑色で 5 裂し、裂片は斜開し、3 角状卵形、長さ約 3mm である。袋果はほとんど単生し、長さ 8～13cm、幅約 1cm である。

【分布の概要】

【県内の分布】

東：3 東栄（小林 52557, 1994-7-9）、8 鳳来北東部（堀田喜久 2455, 1991-8-11）、13 豊川（小林 79698, 2003-7-27）、15 豊橋北部（小林 66702, 1999-7-17）。西：5 稲武（日比野修 4603, 1998-7-28）、22 小原（日比野修 2595, 1994-9-12）。尾：44b 南知多（芹沢 81916, 2007-7-29）。

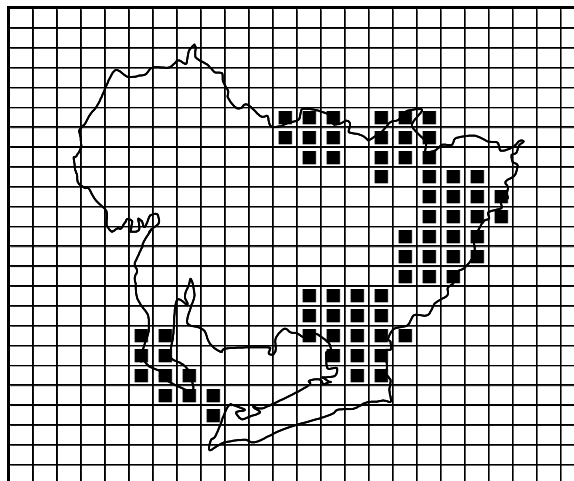
【国内の分布】

本州（関東地方以西）、四国、九州。

【世界の分布】

日本、朝鮮半島、中国大陸。

要配慮地区図



【生育地の環境／生態的特性】

林縁や明るい林内に生育する。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林	○			
草・岩				
湿地				
水域				

【現在の生育状況／減少の要因】

点在するが、どこも個体数が少ない。遷移途中のやや不安定な場所に生育しているため消長も著しく、再度同じ場所に行っても確認できないことがある。南知多は、丁寧に調査してみると割合あちこちに生育している。攪乱された場所に幼植物が生育していることもある。

【保全上の留意点】

適度に伐採を行い、さまざまなステージが混在する二次林を全体として保全することが必要である。

【特記事項】

イケマ *C. caudatum* (Miq.) Maxim.からは、標高の低い場所に生育していることのほか、葉の基部がやや耳状になることで、花がなくても区別できる。

【関連文献】

保草本 I p.206, 平草本Ⅲp.40, 平新版 4 p.310, SOS 旧版 p.73.

クサナギオゴケ *Vincetoxicum katoi* (Ohwi) Kitag. (図版 10)

【評価理由】

個体数階級 1、集団数階級 2、生育環境階級 3、人為圧階級 3、固有性階級 2、総点 11。全国的に希少な植物で、愛知県が基準標本産地である。

【形態】

多年生草本。茎は直立し、高さ 30~100cm、大きい個体では上部がややつる状に伸びる。葉は小さい個体では茎の上部、大きい個体では茎の中部に集まり、対生、長さ 5~10mm の柄があり、葉身は卵状披針形、長さ 8~17cm、幅 3~5cm、先端は鋭頭、基部はくさび形、全縁、質は薄くて脈上に短毛がある。上部のつる状の部分につく葉は小形になる。花期は 5~6 月、花序はまばらに分枝し、全体として大きい円錐花序となり、小花柄は細く、花冠は淡紫色で直径 6~9mm、5 裂する。袋果は披針形、長さ 4~5.5cm である。花が緑白色のものは、シロバナクサナギオゴケ form. *albescens* (Honda) Ohwi と呼ばれる。

【分布の概要】

【県内の分布】

東: 12 新城 (小林 51651, 1994-5-25; 芹沢 86991*, 2011-5-21)、13 豊川 (小林 37537, 37538*, 1992-6-3)、15 豊橋北部 (芹沢 61510, 61511*, 1992-6-1)。西: 19 旭 (塚本威彦 739, 1993-8-24)。37a 瀬戸 (芹沢 77380, 2001-6-4)、45 犬山 (芹沢 69580, 61582*, 1994-6-1)、48 春日井 (村松正雄 12758*, 12759, 1993-6-20)。*はシロバナクサナギオゴケ。愛知県では、シロバナクサナギオゴケの方が多く見られる。47 小牧 (野口, 村松正雄 17310, 1997-10-25) にもあったが絶滅した。51 名古屋南東部 (天白村, 井波一雄 s.n., 1941-7-15, CBM134868) で採集された標本もある。

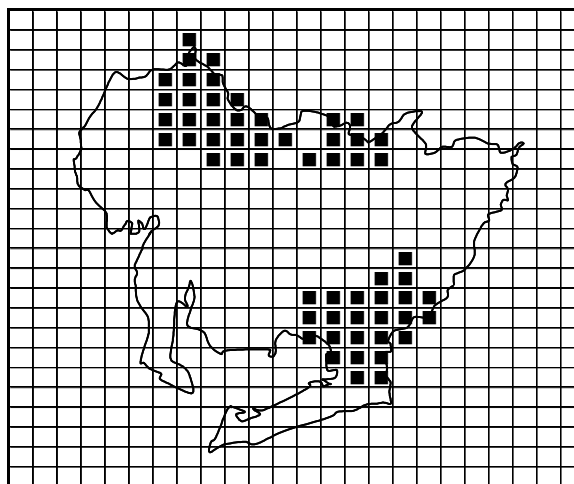
【国内の分布】

本州 (関東、東海、近畿地方)、四国。

【世界の分布】

日本固有種。

要配慮地区図



【生育地の環境／生態的特性】

丘陵地や低山地の落葉広葉樹林の林内や林縁に生育する。造林地内に生育していることもある。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林	○	○		
草・岩				
湿地				
水域				

【現在の生育状況／減少の要因】

県全体では準絶滅危惧と評価されたが、西三河は旧旭町以外では確認されておらず、尾張でも生育地が少なく、これらの地域では保全の重要度が高い。個体数も、犬山に小群落があるほかは散発的に見られるだけである。東三河南部では比較的多いが、一部の自生地は開発により消滅している。

【保全上の留意点】

生育地のほとんどは、いわゆる里山の二次林である。適度に部分的な伐採を行い、さまざまなステージが混在する里山の二次林を全体として保全することが必要である。

【特記事項】

本種は、品野村 (現・瀬戸市) で加藤秀次郎氏によって発見され、熱田神宮の草薙の剣に因んで「クサナギオゴケ」と命名された。

【関連文献】

保草本 I p.209, 平草本 III p.42, 平新版 4 p.318, 環境省 p.483, SOS 旧版 p.73+図版 5, SOS 新版 p.74,76.

ミズタバコ *Trigonotis brevipes* (Maxim.) Maxim. ex Hemsl.

【評価理由】

個体数階級 2、集団数階級 4、生育環境階級 3、人為圧階級 1、固有性階級 1、総点 11。沢沿いに生育する植物で、愛知県では生育地が少ない。

【形態】

多年生草本。茎は軟質で高さ 10～40cm になり、まばらに圧毛がある。葉は互生し、下部のものは有柄で上部のものは無柄、葉身は楕円形、長さ 1.5～4cm、幅 1～2cm、先端は円頭～鈍頭である。花期は 5～6 月、花序は茎の上部に 1～5 個つき、先はぜんまい状に巻き、花が咲くにしたがって伸びる。花は密に多数つき、小花柄はごく短く、花冠は淡青紫色で直径 2.5～3mm である。分果は長さ 1mm 程度、黒褐色で平滑、光沢がある。

【分布の概要】

【県内の分布】

尾：45 犬山（芹沢 85582, 2010-5-8）。愛知県ではここだけで、他の区画ではまだ確認されていない。全国的にはそれほど希少な植物ではなく、隣接する岐阜県美濃地方でもあちこちに生育している。

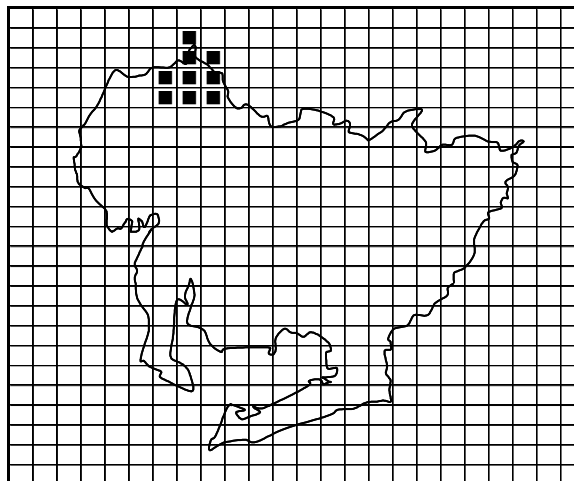
【国内の分布】

本州、四国、九州に分布する。

【世界の分布】

日本固有種。

要配慮地区図



【生育地の環境／生態的特性】

低山地の沢沿いの水湿地に生育する。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林	○			
草・岩				
湿地				
水域				

【現在の生育状況／減少の要因】

犬山の 2 カ所に生育しているが、そこでは個体数は比較的多い。大規模な開発等がなければ、現状のまま存続すると思われる。

【保全上の留意点】

多少の攪乱には耐えられる植物であるが、生育地とその上流の森林を保全し、沢沿いの自然状態を維持することが望ましい。

【特記事項】

タバコ（田平子）は耕起前の水田にロゼット葉を拡げる草という意味で、この場合はキュウリグサのことである。

【関連文献】

保草本 I p.196, 平草本 III p.65, 平新版 5 p.57.

ハシドイ *Syringa reticulata* (Blume) H.Hara

【評価理由】

個体数階級 2、集団数階級 3、生育環境階級 3、人為圧階級 2、固有性階級 1、総点 11。西南日本ではとびとびに分布する樹木で、愛知県でも生育地が局限されている。

【形態】

落葉性の小高木。高さ 6～7m になり、樹皮は横に皮目があってサクラに似る。葉は対生し、長さ 1～2cm の柄があり、葉身は広卵形～卵形、長さ 6～10cm、幅 5～6cm、先端は急に鋭尖頭、基部は円形または浅い心形となり、全縁、表面は無毛、裏面は短毛があり、中肋基部近くに多い。花期は 6～7 月、花は両性で、新枝先端の円錐花序に多数密につき、白色、花冠は 4 裂し、直径約 5mm である。蒴果は狭長楕円形、長さ 15～20mm、やや湾曲し、熟すと 2 裂する。

【分布の概要】

【県内の分布】

東：2 豊根（小林 31348, 1987-5-4）、3 東栄（芹沢 85006, 2009-9-22）。

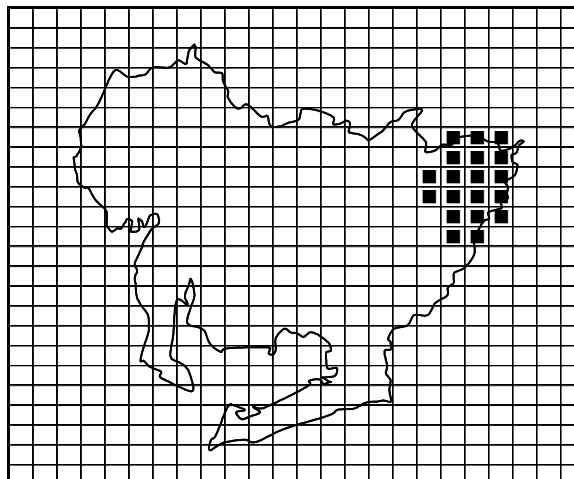
【国内の分布】

北海道、本州、四国、九州。

【世界の分布】

千島列島南部、日本、朝鮮半島。

要配慮地区図



【生育地の環境／生態的特性】

温帯域の林縁などに生育する。愛知県では、山すその崖地や急傾斜地の林縁部に生育する。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林	○			
草・岩	○			
湿地				
水域				

【現在の生育状況／減少の要因】

生育地は限られているが、そこでは比較的まとまって生育している。現在のところよく開花するが、道沿いのものは道路の拡幅などで失われるおそれがある。

【保全上の留意点】

本種の場合、生育地の林を伐採すれば影響は大きいですが、伐採せずに放置してもそのうちに他の樹木に被陰されて衰退すると思われる。適度に部分的な伐採を行い、さまざまな発達段階が混在する里山の二次林を全体として保全することが必要である。

【特記事項】

東栄町には、マンシュウハシドイ var. *mandshurica* (Maxim.) H.Hara にあたる葉がほとんど無毛の個体も生育している。

【関連文献】

保木本 I p.85, 平木本 II p.178, 平新版 5 p.66, SOS 旧版 p.70.

マルバノサウトウガラシ *Deinostema adenocaulum* (Maxim.) T.Yamaz.

【評価理由】

個体数階級 2、集団数階級 2、生育環境階級 3、人為圧階級 2、固有性階級 2、総点 11。全国的に減少傾向の著しい水田雑草である。

【形態】

小型の 1 年生草本。茎は直立し、軟弱で高さ 10～18cm になる。葉は対生し、無柄、葉身は卵円形、長さ 4～10mm、幅 3～5mm、全縁で、5～7 本の脈がある。花期は 8～10 月、上部の葉腋に正常花、中部の葉腋に閉鎖花をつける。がくは長さ 3～4mm、ほとんど基部まで 5 裂し、裂片は線状披針形である。正常花の花冠は紅紫色、長さ 4mm、唇形、下唇は大きく、中裂片はさらに 2 裂する。

【分布の概要】

【県内の分布】

東：10 鳳来北西部 (小林 65037, 1998-8-30)、11 作手 (芹沢 74888, 1998-8-23)。西：20 足助 (小林 62711, 1997-10-20)、21 下山 (芹沢 83596, 2008-10-17)、24 豊田東部 (小林 62704, 1997-10-20)。

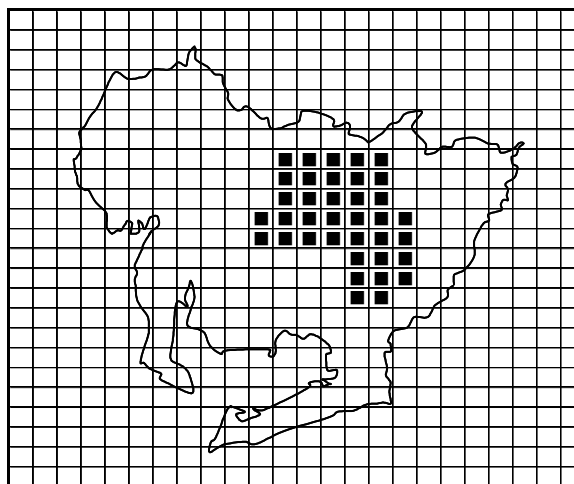
【国内の分布】

本州、四国、九州。

【世界の分布】

日本および朝鮮半島南部。

要配慮地区図



【生育地の環境／生態的特性】

水田などの湿地に生育する。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩				
湿地	○	○		
水域				

【現在の生育状況／減少の要因】

愛知県では、山間部の水田に生育している。ただし、ある 1 枚の水田で確認できても、その隣の水田にも生育しているとは限らない。耕地整理や除草剤の使用によっても減少しているが、最大の減少要因は本種が生育する谷戸田自体の減少である。

【保全上の留意点】

谷戸田の保全が必要である。

【特記事項】

サウトウガラシ *D. violaceum* (Maxim.) T.Yamaz. に比べ、葉が丸く、花もやや小さい。小型で目立たない植物なので、調査の際には注意が必要である。注意して探索すれば、更に生育地が確認できる可能性がある。

【関連文献】

保草本 I p.148, 平草本 III p.103, 平新版 5 p.74, 環境省 p.496, SOS 旧版 p.79, SOS 新版 p.67,69.

スズメノハコベ *Microcarpaea minima* (J.Koenig ex Retz.) Merrill

【評価理由】

個体数階級 2、集団数階級 2、生育環境階級 3、人為圧階級 2、固有性階級 2、総点 11。全国的に減少傾向の著しい水田雑草である。

【形態】

小型の1年生草本。茎は分枝してはい、長さ5~20cmになる。葉は対生し、無柄、葉身は線状披針形または狭長楕円形、長さ2~5mm、幅1~2mm、先端は鈍頭、辺縁は全縁である。花期は7~10月、花は葉腋に1個ずつつき、がくは筒状鐘形、先は浅く5裂する。花冠は淡紅色、筒状で長さ約2mm、先端は小さく5裂して開出する。果実は蒴果で長楕円形、長さ約1.2mm、がくに包まれる。

【分布の概要】

【県内の分布】

東：9 鳳来南部(小林 65277, 1998-9-26)、10 鳳来北西部(小林 59983, 1996-8-11)、12 新城(小林 62537, 1997-11-7)、16 豊橋南部(小林 54091, 1994-9-24)、18 田原西部(小林 73218, 2001-8-15)。西：19 旭(小林 58007, 1995-9-15)、25 豊田北西部(芹沢 86556, 2010-10-23)、28 額田(小林 65053, 1998-9-5)、33 安城(堀田喜久 7254, 1999-9-26)。尾：37b 尾張旭(村松正雄 27194, 2013-11-23)、49c 北名古屋(芹沢 94051, 2018-5-18)、54 一宮西部(渡辺幸子 3222, 1997-9-16)。

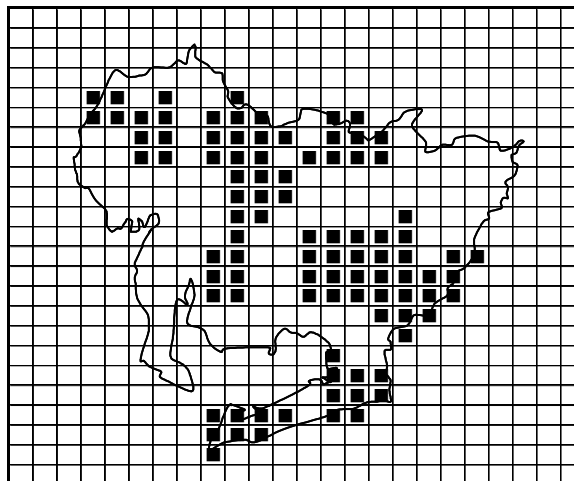
【国内の分布】

本州(関東地方以西)、四国、九州、琉球。

【世界の分布】

日本、朝鮮半島、中国大陸、東南アジア、インド、オーストラリア。

要配慮地区図



【生育地の環境／生態的特性】

水田に生育することが多いが、ため池や小水路の岸などに生育することもある。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩				
湿地	○	○	○	
水域				

【現在の生育状況／減少の要因】

多くはないが、山間部の水田にも平野部の水田にも見られる。ただし、1枚の水田にあっても、その隣の水田にあるとは限らない。耕地整理や除草剤の使用により減少している。山間部では谷戸田の放棄、平野部では水田の宅地化により失われる可能性も大きい。

【保全上の留意点】

水田雑草であるため、効果的な保全対策は立てにくい。旧来の水田の状態を残す未整理の湿田は、文化的な価値もあり、少なくとも一部分はできるだけそのままの形で保全する必要がある。

【特記事項】

小型で目立たない植物なので、調査の際には注意が必要である。注意して探索すれば、更に生育地が確認できる可能性がある。

【関連文献】

保草本 I p.149, 平草本 III p.103, 平新版 5 p.146, 環境省 p.500, SOS 旧版 p.79+図版 23.

シロネ *Lycopus lucidus* Turcz. ex Benth.

【評価理由】

個体数階級 2、集団数階級 3、生育環境階級 3、人為圧階級 2、固有性階級 1、総点 11。大型の低湿地性植物で、愛知県では生育地が限られている。

【形態】

多年生草本。白色の長い地下茎がある。地上茎は太く、断面は四角形で直立し、高さ 80~120cm、時には 2m 以上になる。葉は多数つき、対生して短い柄があり、葉身は広披針形~狭楕円形、長さ 8~15cm、幅 1.5~4cm、先は鋭くとがり、辺縁には鋭い鋸歯があり、質は硬くて表面に光沢がある。花期は 8~10 月、花は上部の葉腋に集まってつき、花冠は白色で長さ約 5mm、がくは長さ 4~5mm で 5 中裂し、裂片は鋭く刺状にとがる。

【分布の概要】

【県内の分布】

西：30 岡崎南部 (芹沢 67684, 1993-9-15)、32a 刈谷 (芹沢 70285, 1994-8-8)、33 安城 (中村さとし 672, 1993-8-11)、34b 碧南 (芹沢 66762, 1993-8-5)、35 西尾北部 (中根幸司 1786, 2007-10-4)、36 西尾南部 (芹沢 68686, 1993-10-13)。尾：39b 豊明 (浅野守彦 2135, 2008-8-31)、40b 東浦 (中村裕治 835)。県内での分布は、矢作川 (古川を含む) と境川の河川敷に限られている。木曽三川下流部にもあってよさそうだが、現在のところ確認されていない。

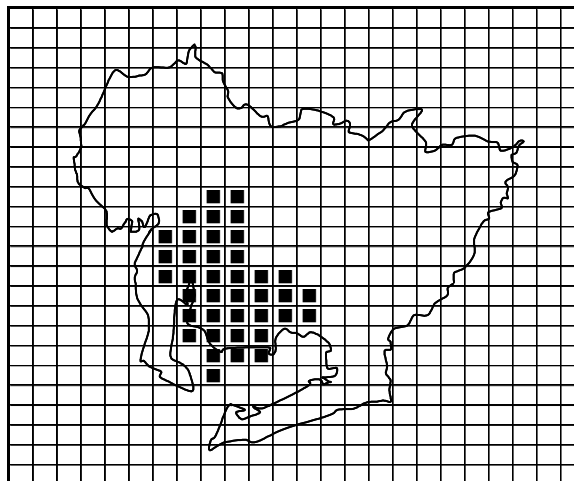
【国内の分布】

北海道、本州、四国、九州。

【世界の分布】

東アジアと北アメリカに分布する。

要配慮地区図



【生育地の環境／生態的特性】

河川敷などの低湿地の草地や林縁に生育する。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩				
湿地			○	
水域				

【現在の生育状況／減少の要因】

点在するが、ヨシやセイタカアワダチソウの繁茂によって全体的に衰退傾向にある。

【保全上の留意点】

河川敷の植物は、増水などの適度の攪乱を前提として存続してきたものである。ダムなどの建設によって水利用が増加し、その結果河川流量が減少して川床が安定し、同時に生活排水が流入して水質が悪化すれば、長期的な存続は困難である。河川敷の自然を維持するためには、常時それなりの流量を確保することが必要である。

【特記事項】

和名は、白色の地下茎による。

【関連文献】

保草本 I p.171, 平草本Ⅲp.83, 平新版 5 p.134, SOS 新版 p.135,137.

シマジタムラソウ *Salvia isensis* Nakai ex H.Hara

【評価理由】

個体数階級 1、集団数階級 1、生育環境階級 3、人為圧階級 2、固有性階級 4、総点 11。湿地または蛇紋岩地に生育する植物で、本地域の固有種である。

【形態】

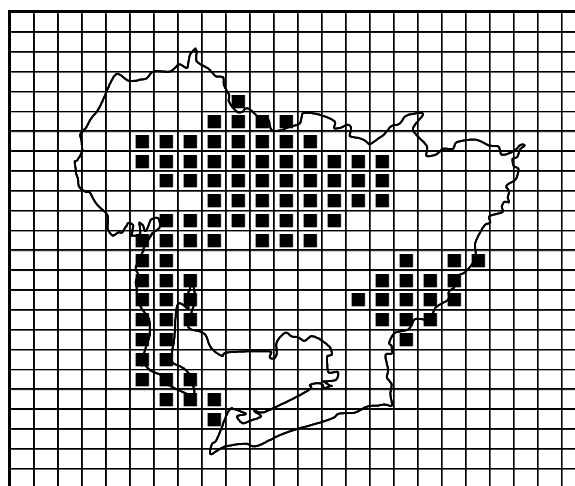
多年生草本。茎は4角形で直立し、高さ20~80cm、下部には開出する長毛がある。葉は対生し、1~2回羽状複葉、茎の下部に集まることが多い。小葉は卵形で、葉の先端のものが大きく、側羽片はやや小形、辺縁には鈍鋸歯があり、質は一般に薄い、蛇紋岩地のものはやや厚く、脈は表面でくぼむ。花期は7~8月、茎や枝の先に長い穂状の花序を作る。花はややまばらに輪生し、がくは長さ5~6mm、花冠は淡青紫色、長さ1cm内外、筒部内面の中央に輪状に毛があり、雄ずいは曲がらず、花外に突き出る。

【分布の概要】

【県内の分布】

東：9 鳳来南部（芹沢 59263, 1991-7-24）、12 新城（芹沢 60104, 1991-8-29）。西：20 足助（日比野修 3803, 1996-10-5）、23 藤岡（芹沢 49413, 1988-8-2）、24 豊田東部（芹沢 59318, 1991-7-26）、25 豊田北西部（芹沢 82208, 2007-9-10）、27 みよし（臼井里華 712, 1992-8-26）。尾：37a 瀬戸（芹沢 82039, 2007-8-16）、37b 尾張旭（村松正雄 13938, 1993-9-9）、38a 長久手（芹沢 62737, 1992-8-26）、38b 日進（芹沢 62760, 1992-8-26）、39a 東郷（芹沢 53071, 1989-9-7）、39b 豊明（芹沢 59855, 1991-8-23）、41a 東海（芹沢 73354, 1996-10-7）、42a 阿久比（渡邊麻子 959, 1995-10-11）、42b 半田（岡本久美子 860, 2000-10-11）、42c 武豊（芹沢 88906, 2013-9-24）、43 常滑（芹沢 76171, 1999-8-21）、44a 美浜（芹沢 56657, 1990-8-27）、50 名古屋北部（鳥居ちゑ子 1014, 1995-10-21）。51 名古屋南東部（緑区鳴海、岡田善敏 s.n., 1944-10-10）で採集された標本もある。豊橋市から渥美半島にかけてと岡崎市周辺、犬山市から春日井市にかけてでは発見されていない。

要配慮地区図



【国内の分布】

本州（岐阜県、愛知県、三重県）。

【世界の分布】

日本固有種。

【生育地の環境／生態的特性】

東三河と三重県では、蛇紋岩地の疎林内や半裸地状の場所などに生育する。西三河、東三河と岐阜県では、湧水湿地周辺の林内に生育することが多いが、湿地内の日当たりのよい場所、水田わきの湿った草地などに見られることもある。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩	○			
湿地		○		
水域				

【現在の生育状況／減少の要因】

東三河の一部と豊田市から名古屋市にかけての丘陵地には多いが、他では少ない。比較的耐陰性のある植物で、湿地性植物の中では森林化が進行してもかなり遅くまで林内に残存しているが、それでもあまり暗いところでは生育できない。都市近郊であるため開発圧力も強く、日進市岩崎では造成工事で生育地が破壊され消滅した。

【保全上の留意点】

東三河では、草刈りや火入れによって蛇紋岩地の森林化を抑制し、草地状態を維持することが必要である。西三河と尾張では、丘陵地の湧水湿地を、周辺の林を適宜伐採しながら維持することが必要である。

【特記事項】

集団間の遺伝的分化やナツノタムラソウ *S. lutescens* Koidz. との関係について、今後更に検討する必要がある。花の形態は、ナツノタムラソウ類とほとんど異ならない。彩色画はレッドデータブックなごや 2004 植物編 図版 7 に掲載されている。

【関連文献】

保草本 I p.168, 平草本Ⅲp.81, 平新版 5 p.139, 環境省 p.493, SOS 旧版 p.77+図版 17, SOS 新版 p.110,112.

ヒメナミキ *Scutellaria dependens* Maxim.

【評価理由】

個体数階級 2、集団数階級 3、生育環境階級 3、人為圧階級 2、固有性階級 1、総点 11。低湿地に生育する植物で、愛知県では近年見かける機会が減少している。

【形態】

繊細な多年生草本。地下に細く長い走出枝が出る。茎は細く直立し、周辺の植物が少ない場所では基部から分枝し高さ 20～30cm、多い場所では上部で枝を分け高さ 60cm に達する。葉は対生し、長さ 2～6mm の柄があり、葉身は三角状卵形～長三角形、長さ 1～2cm、幅 5～15mm、先端は鈍頭、基部は切形～浅い心形、辺縁には 1～3 対の鋸歯がある。花期は 8～9 月、花は葉腋に 1 個ずつつき、花冠は白色、長さ 6～7mm、筒部はわずかに曲がる。がくは果時に長さ 2.5～3mm である。

【分布の概要】

【県内の分布】

東：2 豊根（小林 38879, 1992-8-22）、4 津具（芹沢 86210, 2010-9-19）、15 豊橋北部（芹沢 56235, 1990-8-9）、17 田原東部（小林 72858, 2001-7-15）。西：5 稲武（塚本威彦 2351, 1997-7-16）、19 旭（塚本 776, 1993-8-28）、28 額田（小林 65058, 1998-9-5）、30 岡崎南部（芹沢 78064, 2002-9-10）、32a 刈谷（芹沢 47308, 1987-10-8）。尾：40a 大府（佐野方昂 11041, 2011-7-2）。小林 (2006) によれば設楽（区画不明）にもあるという。

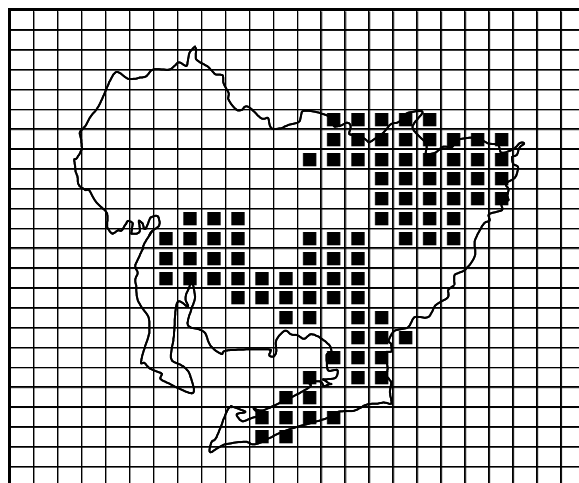
【国内の分布】

北海道、本州、九州。

【世界の分布】

日本、朝鮮半島、中国大陸、モンゴル、シベリア東部。

要配慮地区図



【生育地の環境／生態的特性】

泥質の湿地に生育する。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩				
湿地	○	○		
水域				

【現在の生育状況／減少の要因】

以前はそれほど少ない植物ではなかったが、近年見かける機会が減少している。上記の集団数階級は見込み値である。遷移の進行に伴う湿地の消失が減少の主要因と思われる。

【保全上の留意点】

愛知県の場合、湧水湿地は注目度が高いが、本種の生育するような低湿地の保全はあまり意識されないことが多い。低湿地にもそれなりに稀少な植物があることを忘れてはならない。

【引用文献】

小林元男. 2006. 北設楽の植物 p.282. 愛知県林業試験研究推進協議会, 新城.

【関連文献】

保草本 I p.187, 平草本Ⅲp.76, 平新版 5 p.116.

ヒキヨモギ *Siphonostegia chinensis* Benth. Ex Hook. Et Arn.

【評価理由】

個体数階級 2、集団数階級 2、生育環境階級 3、人為圧階級 3、固有性階級 1、総点 11。草地性の植物で、愛知県では生育地が限られている。

【形態】

半寄生性の 1 年生草本。茎は直立し、上部で分枝し、高さ 30～70cm になる。葉はほぼ対生し、葉身は卵形、長さ 1.5～5cm、幅 1～3cm、羽状に深裂し、下方の裂片はさらに少数の裂片に裂け、基部は狭いくさび状の翼がある柄となる。花期は 8～9 月、花は上部の枝先の葉腋に 1 個ずつつき、花冠は鮮黄色で長さ 2.5～3cm、唇形、上唇の先は細くなって 2 裂し、下唇は 3 裂する。がくは細い筒形、先は 5 裂し、果時にも宿存して蒴果を包む。

【分布の概要】

【県内の分布】

東：3 東栄（小林 53701, 1994-9-11）、14 蒲郡（小林 79779, 2003-8-2）、15 豊橋北部（加藤等次 6426, 1997-10-17）、18 田原西部（芹沢 80804, 2006-8-25）。西：5 稲武（塚本威彦 2466, 1997-9-1）。尾：43 常滑（芹沢 76145, 1998-8-21）。55 稲沢（大里村, 加藤嘉明 s.n., 1933-8-8）で採集された標本もある。

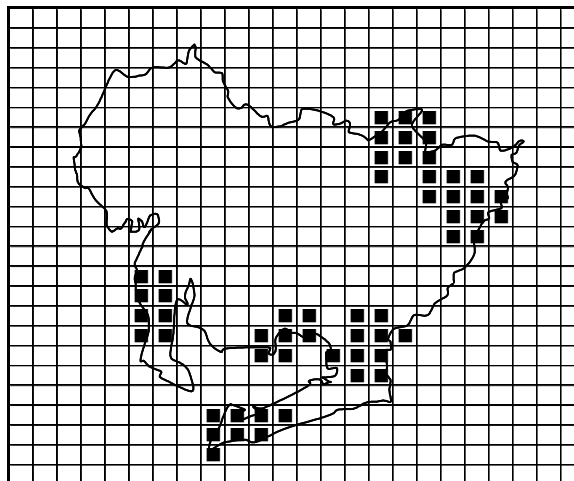
【国内の分布】

北海道、本州、四国、九州、琉球。

【世界の分布】

千島列島南部、日本、朝鮮半島、台湾、中国大陸。

要配慮地区図



【生育地の環境／生態的特性】

日あたりのよい草地に生育する。海岸草地やため池の土手などだけでなく、攪乱跡の半裸地状の場所に見られることもある。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩	○	○		○
湿地				
水域				

【現在の生育状況／減少の要因】

常滑では数カ所で確認されており、個体数も比較的多かったが、他の区画では少ない。草地の減少に伴い、減少傾向にあるものと思われる。常滑でも、現存が確認できない場所もある。長期的に安定して生育している場所は、田原西部（伊良湖岬）だけかもしれない。

【保全上の留意点】

半自然草地に生育しているものについては、生育地の地形を保全すると共に、草刈りや火入れにより草地状態を維持することが必要である。

【特記事項】

オオヒキヨモギ *S. laeta* S. Moore (695 頁) は、愛知県では本種よりずっと多く見られる。

【関連文献】

保草本 I p.136, 平草本 III p.114, 平新版 5 p.162, SOS 旧版 p.80, SOS 新版 p.83,85.

ムラサキミミカキグサ *Utricularia uliginosa* Vahl

【評価理由】

個体数階級 2、集団数階級 1、生育環境階級 4、人為圧階級 2、固有性階級 2、総点 11。湧水湿地の、その中でも特に湿潤な場所に生育する小型の食虫植物で、愛知県では近年減少傾向が著しい。

【形態】

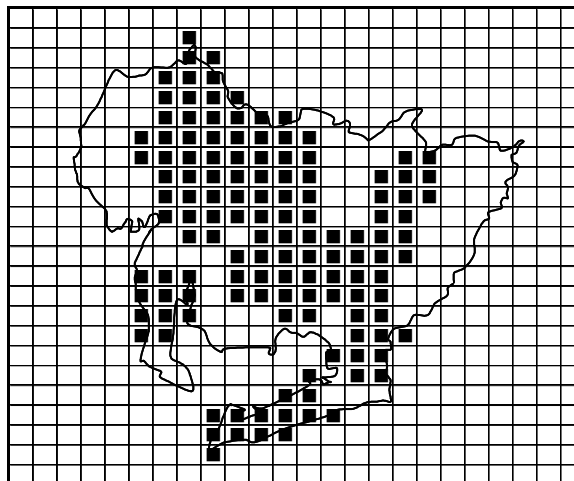
小型の食虫性の多年生草本。地下茎は糸状で、まばらに捕虫囊をつける。地上葉はへら形～倒披針形、長さは柄を除いて 2～3mm のものから 3cm を越すものまでである。花期は 8～9 月、花茎は直立し、高さ 5～15cm、上部に 1～4 花をつけ、花には長さ 2～8mm の花柄がある。がくは広卵形で長さは花時に 2～3mm、膜質、花後 4～5mm に伸長して耳かき状の宿存がくとなり、蒴果をつつむ。花冠は淡藍紫色、長さ 3～6mm、距は長さ 2～3mm、下向きで、先端はやや前方に曲がる。

【分布の概要】

【県内の分布】

東：6 設楽西部（芹沢 56868, 1990-9-3）、11 作手（芹沢 56514, 1990-8-24）、15 豊橋北部（芹沢 56298, 1990-8-9）、17 田原東部（芹沢 53623, 1989-9-27）、18 田原西部（芹沢 56328, 1990-8-9）。西：23 藤岡（塚本威彦 353, 1992-9-9）、24 豊田東部（芹沢 57097, 1990-9-13）、25 豊田北西部（村松正雄 765, 1989-10-5）、27 みよし（芹沢 63920, 1992-9-28）、28 額田（小林 53439, 1994-9-3）、29 岡崎北部（芹沢 84657, 2009-8-8）、30 岡崎南部（芹沢 57433, 1990-9-28）。尾：37a 瀬戸（芹沢 76138, 1999-8-20）、39b 豊明（伊藤昭康 555, 1990-9-25）、42a 阿久比（渡邊麻子 661, 1995-8-5）、43 常滑（芹沢 56609, 1990-8-27）、45 犬山（芹沢 53745, 1989-10-6）、48 春日井（芹沢 54009, 1989-10-21）、50 名古屋北部（芹沢 56209, 1990-8-8）、51 名古屋南東部（渡辺幸子 1415, 1993-10-28）。

要配慮地区図



【国内の分布】

北海道、本州、四国、九州。

【世界の分布】

日本から東南アジア、インド、オーストラリアにかけて分布する。

【生育地の環境／生態的特性】

湧水湿地の、裸地状の場所に生育する。ミミカキグサやホザキノミミカキグサよりも湿潤な場所に多く、しばしば浅い水中に生育している。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩				
湿地	○	○		
水域				

【現在の生育状況／減少の要因】

ミミカキグサやホザキノミミカキグサに比べればもともとかなり少なく、しかも近年の夏の高温乾燥傾向によってこれら 2 種以上に大きな影響を受けている。2001 年版ではリスト外と評価した上で「今後もこの傾向が続けば準絶滅危惧種に移行する可能性がある」と述べたが、危惧は現実になった。

【保全上の留意点】

湧水湿地を、湧水を涵養する水源部の地形もあわせて保全する必要がある。また、本種の場合は特に湿潤な場所に生育しているので、周辺部の森林を伐採し、水収支の回復や湿地の縮小防止を図る必要がある。

【関連文献】

保草本 I p.121, 平草本 III p.138, 平新版 5 p.165.

イワダレソウ *Phyla nodiflora* (L.) Greene

【評価理由】

個体数階級 2、集団数階級 3、生育環境階級 3、人為圧階級 2、固有性階級 1、総点 11。海岸の砂地に生育する植物で、愛知県では生育地が少ない。

【形態】

多年生草本。茎は長く砂上をはい、節から根を出す。葉は対生し、葉身は倒卵状楕円形、長さ 1～4cm、幅 5～18mm、上半分に粗い鋸歯があり、基部はくさび形に細まって短い柄があり、質は厚く、圧毛がある。花期は 7～10 月、葉腋から出た葉よりも長い柄の先に、円柱状で長さ 0.8～2cm の総状花序を 1 個ずつつける。苞は扇形で長さ約 2.5mm、先端は凸出する。花冠は紅紫色、やや唇形で、直径約 2mm である。分果は広倒卵形、長さ約 2mm、外皮はややコルク化する。

【分布の概要】

【県内の分布】

東: 16 豊橋南部 (小林 70749, 2000-10-21)、
17 田原東部 (村松正雄 11918, 1992-9-12)、
18 田原西部 (芹沢 70157, 1994-7-24)。渥美半島の太平洋側に点在しているが、他では確認されていない。

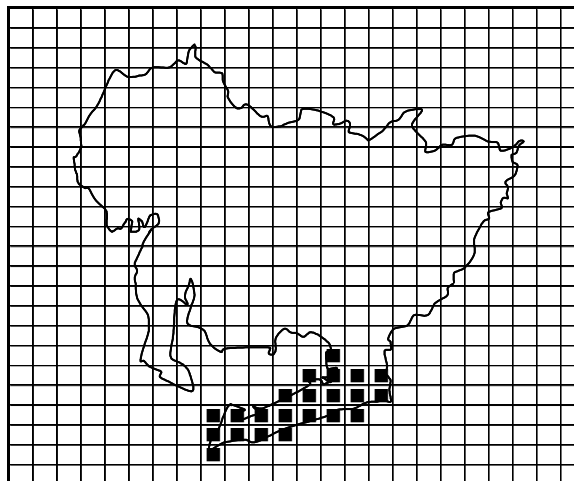
【国内の分布】

本州 (関東地方南部以西)、四国、九州に生育する。

【世界の分布】

世界の熱帯～亜熱帯に広く分布する。

要配慮地区図



【生育地の環境／生態的特性】

海岸の砂地に生育する。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩				○
湿地				
水域				

【現在の生育状況／減少の要因】

生育地は少ないが、ある場所ではしばしば茎を長く伸ばし、よく生育している。観光開発等による大規模な生育地の破壊がなければ、当面は存続するものと思われる。

【保全上の留意点】

砂浜や砂丘を、本来の状態のまま保全することが必要である。

【特記事項】

「イワダレソウ」の名はあるが、通常岩場から下垂するようなことはない。

【関連文献】

保草本 I p.193, 平草本Ⅲp.69, 平新版 5 p.175.

ソバナ *Adenophora remotiflora* (Sieb. et Zucc.) Miq.

【評価理由】

個体数階級 3、集団数階級 2、生育環境階級 3、人為圧階級 2、固有性階級 1、総点 11。温帯性の植物で、愛知県では個体数が少ない。

【形態】

多年生草本。茎は直立し、上方は傾いて分枝し、高さ 50～100cm になる。茎葉は互生し、長い柄があり、葉身は卵形または広披針形、長さ 5～10cm、先端は鋭尖頭、基部は心形、質はやや薄く、辺縁に粗い鋸歯がある。花期は 8 月、茎の先に大きな円錐花序を作り、花をまばらに下向きにつける。がく裂片は 5 個あり、披針形で長さ 5～8mm、全縁で開出ししない。花冠は漏斗状鐘形で、青紫色、長さ 2～3cm、先端は 5 裂し、裂片はやや反曲し、花柱は通常花外に出ない。

【分布の概要】

【県内の分布】

東：1 富山 (小林 52775, 1994-7-23)、2 豊根 (小林 46634, 1993-8-17)、3 東栄 (小林 39341, 1992-9-15)。西：5 稲武 (芹沢 94340, 2018-8-25)。

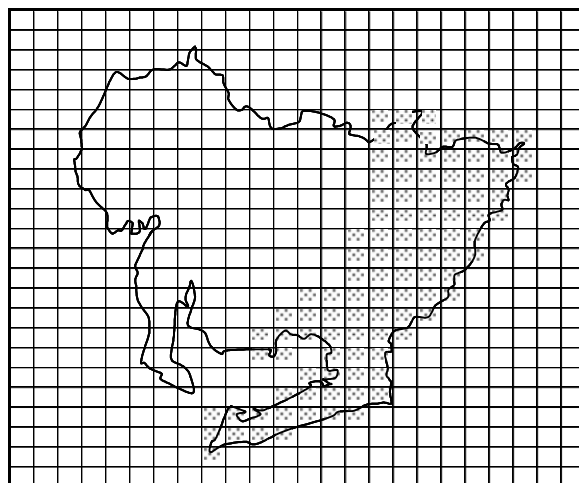
【国内の分布】

本州、四国、九州。長野県まで行けば、比較的多く見られる種類である。

【世界の分布】

日本、朝鮮半島、中国大陸。

要配慮地区図



【生育地の環境／生態的特性】

山地の水はけのよい林内や林縁に生育する。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林	○			
草・岩				
湿地				
水域				

【現在の生育状況／減少の要因】

数カ所で生育が確認されているが、どの場所でも個体数は少ない。生育地周辺ではシカの食害が顕在化しており、その影響が拡大すれば絶滅の可能性もある。補正項としてシカ食害を加え、絶滅危惧Ⅱ類と評価する方が適切かもしれない。

【保全上の留意点】

草食獣の個体数調整などを実施し、林床植物の衰退を防止する必要がある。一方で園芸目的の採取を防止するため、分布情報の公表に際し慎重な配慮が必要である。

【特記事項】

和名は、岨地に生育する山菜という意味だと言われている。

【関連文献】

保草本 I p.95, 平草本Ⅲp.152, 平新版 5 p.188.

ガガブタ *Nymphoides indica* (L.) O.Kuntze

【評価理由】

個体数階級 1、集団数階級 2、生育環境階級 3、人為圧階級 3、固有性階級 2、総点 11。全国的に減少傾向が著しい水草で、愛知県においても激減している。

【形態】

多年生の水草。茎は細くて長く、1～3 個の葉をつける。葉柄は長さ 1～2cm で、基部はやや耳状になり、花序の基部を抱く。葉身は水面に浮かび、卵状円形で直径 7～20cm、基部は深く湾入し、辺縁は全縁である。花期は 7～9 月、花は葉柄の基部に数個から多数束生し、葉身の湾入部から水上に出て開く。花冠は白色で、直径約 15mm、5 裂し、裂片の内面に長い毛がある。夏の終わってから秋にかけて、葉柄の基部にバナナの房状の殖芽を形成する。

【分布の概要】

【県内の分布】

西：25 豊田北西部（芹沢 77969, 2002-8-6）、32a 刈谷（芹沢 92642, 2017-7-10。尾：38b 日進（芹沢 62252, 1992-7-27）、39b 豊明（辻 敬一 135, 1998-8-16）、40b 東浦（渡邊麻子 665, 1995-8-5）、43 常滑（中井三従美 7, 1994-7-27）、50 名古屋北部（村松正雄 29810, 2018-9-9）、51 名古屋南東部（芹沢 88053, 2012-10-8）。37b 尾張旭（平池、飯尾俊介 17, 1964-8-19）、44a 美浜（道土池、相羽福松 172, 1979-8-16）で採集された標本もある。東三河では、15 豊橋北部（金田、恒川敏雄 s.n., 1963-6-16, TMNH）、17 田原東部（野田村、鳥居喜一 20578, 1949-10-2, HNSM）で採集された標本はあるが、現存を確認できない。また濃尾平野部でも、57a 津島（沢井輝男 s.n., 1932-8-20）で採集された標本はあるが、現存を確認できない。ただし濃尾平野の岐阜県側や三重県側には、現在でも生育している場所がある。

【国内の分布】

本州、四国、九州。

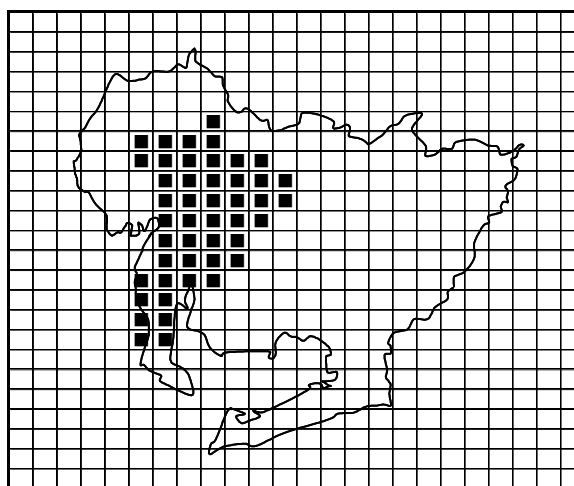
【世界の分布】

日本、朝鮮半島、中国大陸、東南アジア、アフリカ、オーストラリア。

【生育地の環境／生態的特性】

平野部や丘陵地の池沼に生育する浮葉植物である。愛知県における現在の生育地は、いずれも浅い丘陵地か、それに接した位置にあるため池である。

要配慮地区図



	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩				
湿地				
水域		○	○	

【現在の生育状況／減少の要因】

30 年ほど前までは、尾張、西三河のため池では最も普通に見られる水草の一つであったが、ため池の改修や水の汚れにより急激に減少し、現在では特定の場所でしか見ることができなくなってしまった。外来水草との競合により消滅することもある。名古屋市守山区大森雨池では池一面に生育していたが、投入されたボタンウキクサが増殖して水面を覆い、その後ボタンウキクサは消失したが、本種も見られなくなってしまった。

【保全上の留意点】

除草剤が使用されなくなっても、水質が過度に富栄養化すれば生育できない。生活排水の流入を回避し、生育地のため池の水質を維持することが必要である。本種のような植物が突然急激に増加するのは、水質悪化に対する「最後のあがき」であることが多く、決して歓迎できる事態ではない。

【特記事項】

彩色画は 2001 年版 図版 7 に掲載されている。

【関連文献】

保草本 I p.213, 平草本Ⅲp.36, 平新版 5 p.196, SOS 旧版 p.72+図版 21.
角野康郎. 1994. 日本水草図鑑 p.140. 文一総合出版, 東京.

ムラサキトキンソウ *Centipeda* sp.

【評価理由】

個体数階級 2、集団数階級 2、生育環境階級 3、人為圧階級 2、固有性階級 2、総点 11。2012 年に初めて県内での現存が確認された植物で、現在のところ生育地が少ない。

【形態】

トキンソウに似ているが、頭花はやや大きく、紫色を帯びる。赤井賢成氏が研究中なので、詳細な記述は控える。

【分布の概要】

【県内の分布】

西：32a 刈谷（芹沢 89100, 2013-12-5）。
尾：37b 尾張旭（芹沢 88178, 2012-10-27）、
45 犬山（芹沢 88160, 2012-10-25）、48 春日
井（芹沢 88149, 2012-10-25）、50 名古屋北
部（芹沢 88194, 2012-10-27）。

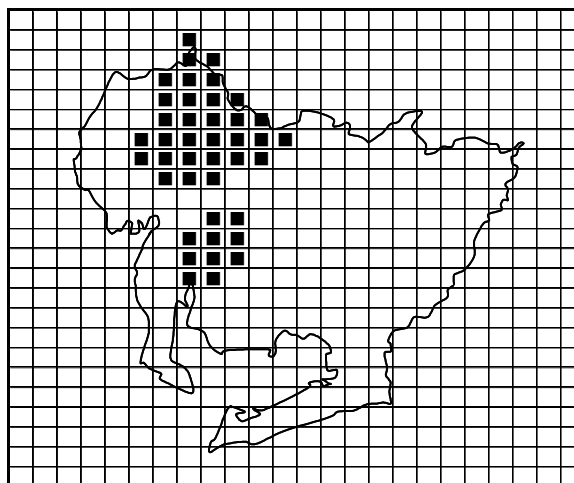
【国内の分布】

赤井氏が研究中。

【世界の分布】

日本固有種。

要配慮地区図



【生育地の環境／生態的特性】

秋期干上がったため池の岸に生育する。個体数は年変動が激しく、水が引かない年には全く出現しないこともある。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩				
湿地		○		
水域				

【現在の生育状況／減少の要因】

現在までに 7 カ所のため池で生育が確認された。池によっては多量に生育していたが、個体数は年変動が激しいと思われる。2011 年はほとんどの池で水が引かなかったため、全く確認できなかった。過去には多くのため池に生育していたが、埋め立てや水質汚濁によって生育地が減少し、現在の状態に至ったと思われる。

【保全上の留意点】

愛知県の丘陵地には多くの農業用ため池があり、秋期干上がったため池の岸には多くの希少植物が生育するが、最近ため池利用が低下して水管理が放棄され、満水状態のままのところも多くなっている。ため池の水質保全のためにも、適切な水管理を継続することが重要である。

【特記事項】

赤井賢成氏が研究中の未記載の植物である。尾張旭市で井波一雄氏が 1984 年 10 月 15 日に採集された標本が千葉県立中央博物館に収蔵されていたが、2012 年になって県内での現存が確認できた。今後の調査によっては更に産地が追加され、レッドリストから外れる可能性もある。

サケバヒヨドリ *Eupatorium laciniatum* Kitam.

【評価理由】

個体数階級 2、集団数階級 3、生育環境階級 3、人為圧階級 2、固有性階級 1、総点 11。草地性の植物で、愛知県は分布域の東限にあたる。県内では生育地が少ない。

【形態】

多年生草本。茎は細く、高さ 50～100cm になる。葉は対生し、長さ 7～17mm の柄があり、葉身は通常 3 深裂し、裂片は長楕円形または披針形、頂裂片は長さ 7～8cm、大きな内曲する欠刻があるか 3 中裂し、側裂片は長さ 4～6cm、大きな欠刻があり、質は薄く、裏面に腺点はない。ただし、時に葉がほとんど切れ込まないものもある。花期は 9～11 月、頭花は茎の先端に散房状に集まってつき、ほとんど白色、総苞は筒状、長さ 5～6mm、小花は 5 個ですべて筒状花である。そう果は長さ約 3mm で、冠毛がある。

【分布の概要】

【県内の分布】

東：14 蒲郡（小林 80222, 2003-9-23）、16 豊橋南部（小林 70660, 2000-10-9）、17 田原東部（芹沢 88028, 88029*, 2012-10-6）、18 田原西部（芹沢 88023, 88024*, 2012-10-6）。西：36 西尾南部（芹沢 57992, 1990-11-11）。尾：44b 南知多（芹沢 83790, 2008-11-1）。*は葉がほとんど切れ込まないものである。

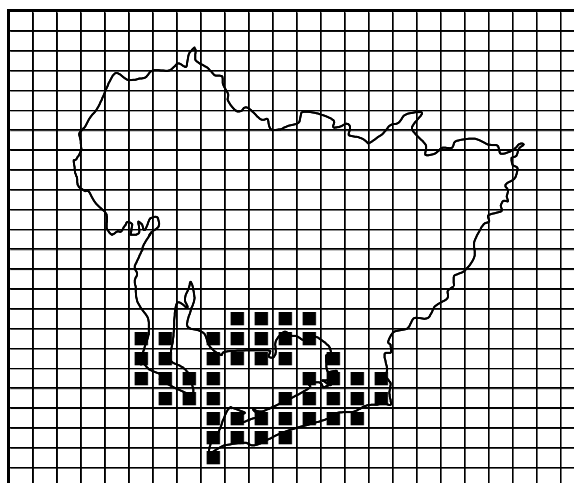
【国内の分布】

本州（愛知県以西）、四国、九州。

【世界の分布】

日本および朝鮮半島南部。

要配慮地区図



【生育地の環境／生態的特性】

丘陵地の草地や林縁に生育する。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩		○		
湿地				
水域				

【現在の生育状況／減少の要因】

愛知県では海岸近くの草地に生育しているが、ヒヨドリバナ属としては小型の植物であるため、ほとんどの場所で大型草本に覆われ、衰退している。西尾南部では、ごく最近の状況は確認されていないが、すでに絶滅した可能性がある。

【保全上の留意点】

生育地の地形を保全すると共に、草刈りや火入れによって草地状態を維持することが必要である。

【特記事項】

愛知県の植物は、核 DNA 含量から推定すると 3 倍体である。しかし、三重県には、2 倍体と思われるものがある。

【関連文献】

保草本 I p.88, 平草本Ⅲp.211, 平新版 5 p.369.

ミズギク *Inula ciliaris* (Miq.) Maxim.

【評価理由】

個体数階級 1、集団数階級 1、生育環境階級 4、人為圧階級 3、固有性階級 2、総点 11。本地域の湧水湿地を特徴づける温帯性植物の一つである。

【形態】

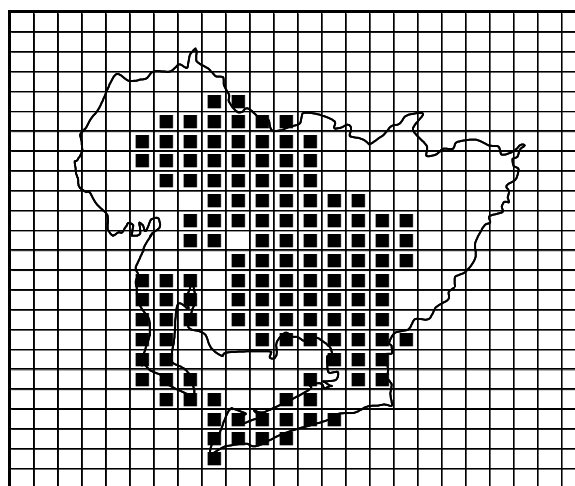
多年生草本。茎は直立し、上部で多少分枝し、高さ 25~50cm になる。根出葉は花時にも残存し、さじ形、長さ 4~10cm、幅 8~15mm、はじめ毛が多く、全縁である。茎葉は互生し、全縁、基部はやや茎を抱く。花期は 6~10 月、頭花は枝の先端に 1 個、上向きにつき、黄色、直径 3~4cm である。総苞は半球形、総苞片はほぼ同長、外片は狭長楕円形で、密に毛がある。そう果は長さ約 1.5mm、冠毛があり、表面にはまばらに毛がある。

【分布の概要】

【県内の分布】

東: 11 作手(芹沢 56516, 1990-8-24)、13 豊川(芹沢 56109, 1990-7-31)、15 豊橋北部(芹沢 56299, 1990-8-9)、17 田原東部(芹沢 56317, 1990-8-9)、18 田原西部(芹沢 59781, 1991-8-18)。西: 21 下山(芹沢 63692, 1992-9-24)、23 藤岡(日比野修 858, 1992-9-22)、24 豊田東部(山崎玲子 893, 1994-8-12)、25 豊田北西部(畑佐武司 871, 1999-9-23)、27 みよし(臼井里華 673, 1992-8-23)、28 額田(芹沢 84659, 2009-8-8)、29 岡崎北部(芹沢 85065, 2009-9-24)、30 岡崎南部(芹沢 52795, 1989-8-25)、31 幸田(芹沢 53259, 1989-9-10)。尾: 37a 瀬戸(芹沢 76014, 1999-8-1)、37b 尾張旭(村松正雄 21997, 2003-10-11)、38a 長久手(近藤洋一朗 7882, 1999-8-18)、38b 日進(芹沢 62720, 1992-8-28)、39b 豊明(芹沢 59858, 1991-8-23)、42c 武豊(林 彰一 510, 1990-8-11)、43 常滑(芹沢 56611, 1990-8-27)、44a 美浜(芹沢 56666, 1990-8-27)、48 春日井(日比野修 2496, 1994-8-19)、50 名古屋北部(村松正雄 29753, 2018-7-22, NBC)。12 新城(有海原, 加藤等次 s.n., 1957-9-13)、51 名古屋南東部(天白区平針, 犬飼 清 s.n., 1967-9-16)で採集された標本もある。県東北部の山地には分布していない。

要配慮地区図



【国内の分布】

本州(近畿地方以東)および九州(宮崎県)。

【世界の分布】

日本固有種。

【生育地の環境／生態的特性】

一般には山地の湿地に生育する。愛知県では丘陵地の湧水湿地に点在する。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩				
湿地	○	○		
水域				

【現在の生育状況／減少の要因】

現在のところはまだ生育地も個体数も多いが、丘陵部の開発により生育地の湿地が破壊され、次第に減少している。花が目立つため、目につきやすい場所では園芸目的で採取されることもある。

【保全上の留意点】

愛知県の丘陵地に点在する湧水湿地は、この地域を特徴づける植物が集中して生育しており、優先して保全すべき場所である。湧水湿地の保全のためには、湿地本体だけでなく、湿地を涵養する水源部もあわせて保全する必要がある。その一方で、本種は花が比較的目立つため、本来生育していなかった湿地に移植しようとする動きもある。このような移植は、植え込みの時に湿地を攪乱し、その場所にもともとあった植物に悪影響を与えるだけでなく、植物の本来の分布を混乱させてしまう。植物の分布には歴史性があり、ないものは「ない」のがその湿地の個性である。かつてあったがなくなってしまった湿地に移植することも、原則として行うべきではない。

【関連文献】

保草本 I p.69, 平草本 III p.203, 平新版 5 p.354, SOS 旧版 p.87, SOS 新版 p.99, 101.

ネコノシタ *Melanthera prostrata* (Hemsl.) W.L.Wagner et H.Rob.

【評価理由】

個体数階級 2、集団数階級 3、生育環境階級 3、人為圧階級 2、固有性階級 1、総点 11。海浜性の植物で、愛知県では生育地が少ない。

【形態】

多年生草本。茎は長く地をはい、節から根を出す。葉は対生し、2～8mm の柄があり、葉身はふつう長楕円形、ときに卵形または披針形、長さ 1.5～4cm、幅 4～14mm、質は厚く、短い剛毛があって著しくざらつく。花期は 7～10 月、頭花は斜上した茎の先に 1 個つき、黄色、直径 16～22mm、総苞は半球形で、総苞片は卵形である。そう果は長さ 3.5～4mm、花床の鱗片で包まれ、冠毛は目立たない。

【分布の概要】

【県内の分布】

東：18 田原西部（芹沢 59714）。尾：43 常滑（鳥居ちゆ子, 2433, 2004-8-1）、44a 美浜（岡田美之 1022, 1996-10-2）。44b 南知多（南奥田海岸, 相羽福松 916, 1980-10-9）で採集された標本もある。大原（1968, 1971）によれば、14 蒲郡（三河大島、西浦）、17 田原東部、36 西尾南部、42c 武豊にもあったという。

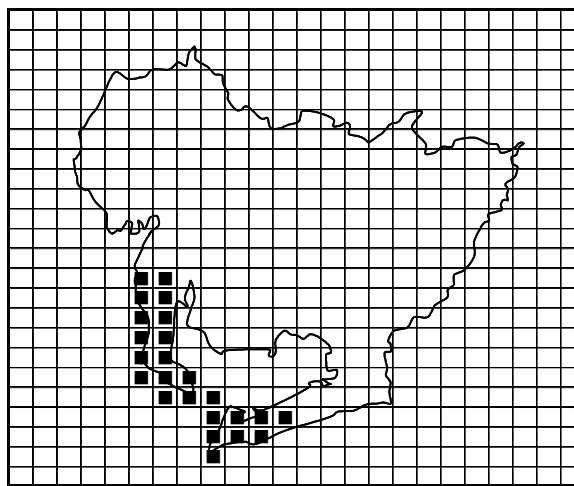
【国内の分布】

本州（関東地方および北陸地方以西）、四国、九州、琉球、小笠原。

【世界の分布】

日本、朝鮮半島、台湾、中国大陸、ベトナム。

要配慮地区図



【生育地の環境／生態的特性】

海岸の砂地に生育する。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩				○
湿地				
水域				

【現在の生育状況／減少の要因】

生育地は限られているが、ある場所では茎を長く伸ばし、よく広がっていることが多い。現在では生育が確認できない場所で採集された標本もあるので、以前はもっとあちこちにあったのではないと思われる。

【保全上の留意点】

自然度の高い砂浜は、観光開発や護岸工事、あるいは陸地における砂防工事の進展による砂供給の停止により、全国的にも愛知県でも急激に減少している。現在砂浜や砂丘の状態が残されている場所は、絶滅危惧種のあるなしにかかわらず、どこも注意して保全する必要がある。

【特記事項】

葉が著しくざらつくので、ネコノシタと呼ばれる。ハマグルマともいう。暖地性の海浜植物で、この属の中では最も北まで分布している。

【引用文献】

大原準之助. 1968. 蒲郡の植物 第1集 p.38, 89. 蒲郡市教育委員会, 蒲郡.
大原準之助. 1971. 愛知県国営林の植物誌 p.126. 名古屋営林局, 名古屋.

【関連文献】

保草本 I p.64, 平草本III p.175, 平新版 5 p.358, SOS 新版 p.151, 153.

ヤマザトタンポポ *Taraxacum denudatum* H.Koidz. var. *arakii* (Kitam.) Seriz.

【除外理由】

個体数階級 3、集団数階級 3、生育環境階級 2、人為圧階級 2、固有性階級 2、総点 12。本州西部と四国に分布する植物で、愛知県は分布域の東限にあたる。県内での分布域は狭い範囲に限られている。総点は 12 であるが、花が淡黄色のキビシロタンポポ var. *denudatum* の個体数が多いことを考慮し、準絶滅危惧と評価する。

【形態】

多年生草本、根は深く地中に伸びる。葉は束生し、線状楕円形～倒披針形、長さ 12～30cm、幅 2.5～5cm、先端は鋭頭、基部は細まって柄状になり、通常羽状に浅～深裂、裂片は斜上することも開出して多少逆向することもある。花期は 4 月、頭花は束生する花茎の先端に 1 個つき、花茎は花時には長さ 10～25cm で通常葉と同長かそれより短い、花後伸長して長さ 20～40cm となる。総苞外片は狭卵形～卵形、内片の 1/2～2/3、辺縁部は多少紅色を帯び、先端の突起はほとんどないものから 3mm に達するものまである。花卉はレモン色に近い黄色である。そう果は灰褐色～黒褐色、本体の長さは 5mm 程度、長い柄の先に冠毛がある。

【分布の概要】

【県内の分布】

尾:44b 南知多(芹沢 83860, 2009-4-11)。

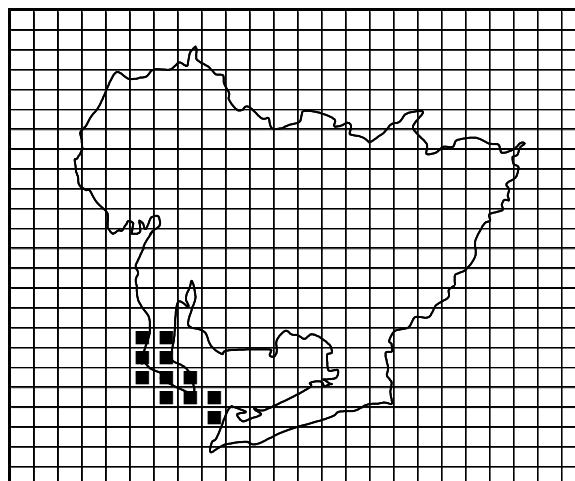
【国内の分布】

本州(愛知県～岡山県)。

【世界の分布】

日本固有変種。種としても日本固有である。

要配慮地区図



【生育地の環境／生態的特性】

ニホンタンポポ *T. platycarpum* Dahlst.と同様、人里周辺の路傍や林縁などの草地に生育する。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩		○	○	
湿地				
水域				

【現在の生育状況／減少の要因】

愛知県での分布は、知多半島先端部の内海を中心とした地域に限られており、生育地も少ない。ニホンタンポポの夏期休眠性遺伝子を取り込んだ雑種性帰化タンポポの増加により、深刻な影響を受ける可能性がある。

【保全上の留意点】

過度の攪乱がなければ、今後とも存続するものと思われる。本種が生育し続けることができるような落ち着いた集落環境の保全は、是非とも必要なことである。

【特記事項】

キビシロタンポポの詳細な分布図は、芹沢(1986)に示されている。

【引用文献】

芹沢俊介. 1986. 愛知県知多半島に生育する淡黄色花タンポポについて. 植物地理・分類研究 34: 55-59.

【関連文献】

保草本 I p.14, SOS 旧版 p.88.

ベニバナツクバネウツギ *Abelia spathulata* Sieb. et Zucc. var. *sanguinea* Makino

【評価理由】

個体数階級 2、集団数階級 3、生育環境階級 3、人為圧階級 1、固有性階級 2、総点 11。温帯性の植物で、愛知県は分布域の南限にあたる。県内では生育地が少ない。

【形態】

落葉性の低木。密に分枝し、高さ 2m くらいになり、樹皮は灰色である。葉は対生し、短い柄があり、葉身は広卵形～長橢円状卵形、長さ 2～5cm、幅 1～3.5cm、先は鋭尖形で尾状にのび鈍端、基部はくさび形または円形、辺縁には粗く不規則な鋸歯がある。花期は 4 月下旬～6 月、花は短枝の先端に 2 個つき、がく片は 5 個、へら状倒披針形で長さ 6～8mm、花冠はツクバネウツギより小さく、長さ 1.5～2.5cm、濃赤褐色で、内側に淡紅色と橙色の網目がある。

【分布の概要】

【県内の分布】

東：1 富山（小林 44825, 1993-6-27）、2 豊根（芹沢 82889, 2008-6-7）、4 津具（芹沢 87293, 2011-8-27）、6 設楽西部（小林 37803, 1992-6-14）。西：5 稲武（畑佐武司 8128, 2011-6-16）。

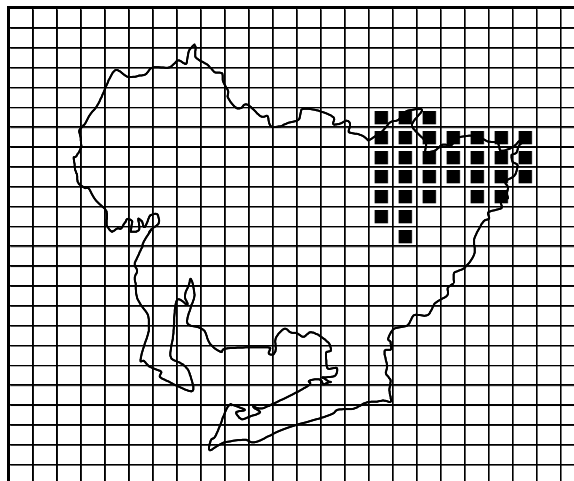
【国内の分布】

本州（関東地方、中部地方）。

【世界の分布】

日本固有変種。種としても日本固有である。

要配慮地区図



【生育地の環境／生態的特性】

山地の林縁や林内に生育する。基準変種のツクバネウツギ var. *spathulata* と異なり山地性の植物で、丘陵地には見られない。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林	○			
草・岩				
湿地				
水域				

【現在の生育状況／減少の要因】

県内での分布は、東北部の山地に限られている。ブナ林や二次林、一部では造林地の林内などに生育しており、どこにでもあるというものではないが、ある場所では生育状態は比較的良好である。

【保全上の留意点】

多少攪乱された場所でも生育できる低木で、林地そのものがなくなれば現状のまま存続するものと思われる。

【特記事項】

「日本の野生植物」木本編Ⅱおよび同改訂新版 5 では、ベニバナノツクバネウツギという和名が使われている。葉の先端が尾状に伸びるので、花がなくても識別は可能である。

【関連文献】

保木本Ⅰ p.26, 平木本Ⅱ p.237, 平新版 5 p.416.

マツムシソウ *Scabiosa japonica* Miq.

【評価理由】

個体数階級 2、集団数階級 1、生育環境階級 4、人為圧階級 3、固有性階級 1、総点 11。草地性の植物で、愛知県では特に低山地で極度に減少している。

【形態】

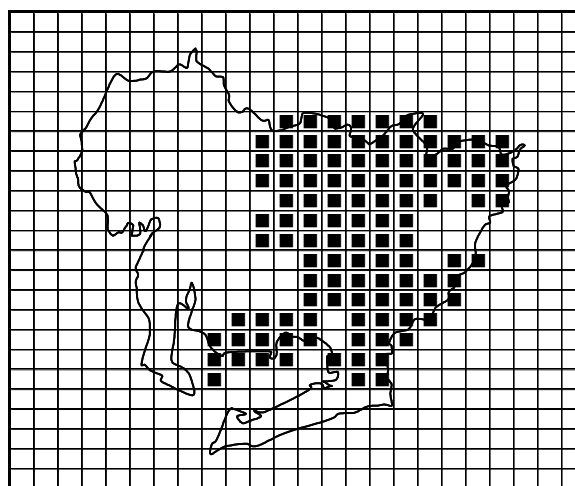
多年生草本。茎は分枝し、高さ 60～90cm になる。根出葉は花時に枯れる。茎葉は対生し、下部のものには柄があり、葉身は長さ 5～10cm、下部や中部の葉の葉身は羽裂し、裂片はさらに分かれて、終裂片は鈍頭となる。花期は 8～10 月、花は青紫色で、多数が集まって直径 3～4cm の頭花となり、基部に線形の総苞片がつく。頭花周辺部の小花は花冠が 5 裂し、外側の裂片は大きく伸び、中心部の小花の花冠は筒状で等形に 5 裂する。果時の頭花は球形で、直径約 1.5cm である。

【分布の概要】

【県内の分布】

東：2 豊根 (芹沢 67265, 1993-9-2)、4 津具 (芹沢 67388, 1993-9-3)、6 設楽西部 (芹沢 57045, 1990-9-13)、9 鳳来南部 (芹沢 60128, 1991-8-29)、10 鳳来北西部 (小林 58030, 1995-9-15)、11 作手 (小林 53522, 1994-9-4)、12 新城 (瀧崎吉伸 32330, 2016-10-29)、14 蒲郡 (小林 58777, 1995-11-12)、15 豊橋北部 (芹沢 89692, 2014-9-28)。西：5 稲武 (芹沢 89455, 2014-8-19)、19 旭 (芹沢 56545, 1990-8-25)、20 足助 (芹沢・水野 102, 1984-9-26)、21 下山 (芹沢 89631, 2014-9-18)、22 小原 (塚本威彦 1653, 1995-9-9)、23 藤岡 (塚本威彦 320, 1992-8-18)、24 豊田東部 (芹沢 59286, 1991-7-26)、28 額田 (芹沢 87757, 2012-8-10)、36 西尾南部 (芹沢 71164, 1994-9-24)。このほか 13 豊川 (一宮村本宮山, 鳥居喜一 22220, 1931-8-26, HNSM)、16 豊橋南部 (寺沢町, 小林 23333, 1981-10-18)、25 豊田北西部 (猿投山, 岡本英一 805, 1958-7-31) で採集された標本もある。尾張では確認されていない。

要配慮地区図



【国内の分布】

北海道、本州、四国、九州に分布する。

【世界の分布】

日本固有種。

【生育地の環境／生態的特性】

山地や丘陵地の日あたりのよい草地に生育する。愛知県の場合、山地では尾根などの草地、低標高地では超塩基性岩地に生育している。中程度の標高では、谷戸田周辺の里草地 (いわゆるボタ) に生育していることが多かった。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩	○	○		
湿地				
水域				

【現在の生育状況／減少の要因】

かつては山地から低標高の丘陵地まで連続的に点在していたが、草地の減少に伴い著しく減少している。特に中程度の標高の場所では、ほとんど絶滅状態である。

【保全上の留意点】

丘陵地や低山地の里草地は、草地性植物が多く生育しており、その中には絶滅危惧植物も多い。文化遺産としても重要で、特に保全に配慮する必要がある。また、草地性植物が集中して生育する超塩基性岩地も、次第に森林化が進行している。草刈りや火入れによって、草地状態を維持していく必要がある。

【特記事項】

愛知県では、低地のものほど頭花が小さくなる傾向がある。ミカワマツムシソウとして区別する人もいるが、変異は連続的である。ただし、最近では東三河南部の超塩基性岩地以外は低山地でほとんど絶滅状態なので、不連続のように見えてしまう。超塩基性岩地に生育するものは特に頭花が小さく、中には周辺部の舌状花が全くないものもある。

【関連文献】

保草本 I p.100, 平草本 III p.148, 平新版 5 p.424.

アシタバ *Angelica keiskei* (Miq.) Koidz.

【評価理由】

個体数階級 2、集団数階級 2、生育環境階級 3、人為圧階級 2、固有性階級 2、総点 11。フオッサマグナ地域の海岸に生育する植物で、愛知県では生育地も個体数も少ない。

【形態】

多年生草本。茎は太くて無毛、高さ 80～120cm に達し、上部でよく分枝し、切ると黄色の汁が出る。葉は互生し、下部のものには長い柄があり、葉身は 1～2 回 3 出複葉、小葉は広卵形で鋭尖頭、辺縁にはあらい鋸歯がある。茎の上部につく葉の葉柄は淡色で、袋状にふくらむ。花期は 8～10 月、花序は複散形で枝の先端につき、花序の枝は 7～20 本で長さ 2～5cm、花は小さく、淡黄色である。果実は長楕円形、分果の両翼はそれほど広くない。

【分布の概要】

【県内の分布】

東：14 蒲郡 (小林 58911, 1995-5-27)、16 豊橋南部 (芹沢 87205, 2011-8-3)、17 田原東部 (小林 54779, 1994-10-29)、18 田原西部 (芹沢 90809, 2015-10-12)。西：31 幸田 (芹沢 82704, 2007-10-13)、36 西尾南部 (芹沢 83498, 2008-10-8)。尾：43 常滑 (梅田零奈 964, 2000-11-13)、44a 美浜 (芹沢 88203, 2012-11-3)、44b 南知多 (芹沢 83791, 2008-11-1)。ただしこれらのうち一部は、逸出野生化したものかもしれない。50 名古屋北部 (村松正雄 28396, 2016-10-9) にもあるが、これは明らかに逸出である。

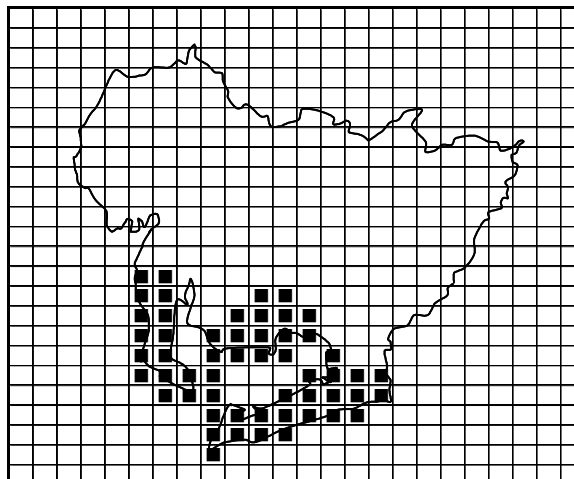
【国内の分布】

本州 (関東地方南部、東海地方、紀伊半島) および小笠原に分布する。

【世界の分布】

日本固有種。

要配慮地区図



【生育地の環境／生態的特性】

海岸の林縁や明るい林内などに生育する。愛知県での生育地はほとんどが人里近くである。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				○
草・岩				○
湿地				
水域				

【現在の生育状況／減少の要因】

南知多には点在するが、個体数はそれほど多くない。食用目的で若葉が採取されており、多少の影響が出ている。他は少数の個体が生育しているだけである。

【保全上の留意点】

若葉を食用にするためしばしば栽培される植物で、南知多でも時に植栽されている。しかし、近くにあった野生個体を採取して栽培したのか、逆に野生状の個体が本当は栽培起源の逸出であるかははっきりしない。逸出ならば保全の対象にはならないが、今となっては明確な判断ができないから、南知多で野生状個体が生育している場所は一応保全しておく方がよいと思われる。保全に際しては地形の大幅な変更を避けることが重要で、草刈りなどの軽度の攪乱は気にしなくてもよい。今後栽培目的で株が多量に採取される事態になれば、それに対する対策も必要になる。

【特記事項】

和名は、葉を採取しても翌日にはまた新しい葉が出てくるからだと言われている。

【関連文献】

保草本Ⅱ p.28, 平草本Ⅱ p.287, 平新版 5 p.389, SOS 旧版 p.66.

ホウロクイチゴ *Rubus sieboldii* Blume

【評価理由】

愛知県に生育するという報告があるが、標本を確認できない。記述から推定すれば、絶滅危惧 I B 類になると思われる。

【形態】

常緑つる性木本で長さ 2~3m になる。茎は太く黄褐色毛を密生し、細い刺も散生する。斜上または横にはい、先で地面に接すると根を出す。葉は互生し、大きく広卵形で長さ 8~20cm、深緑色で厚く硬質、縁は欠刻と粗鋸歯があり、裏面に汚黄白色毛を密生し、葉脈上に刺がある。花は大きく白色で 5~6 月に開花し、葉腋の短総状花序に 1~数個つく。萼は淡黄褐色の綿毛を密生する。花弁は 1.5~2cm で萼片より長い。実は集合果、球形で径約 2cm、6~7 月に紅色に熟す(小林 2012)。ただし、この記述が愛知県産の材料についてのものか、もっと広域の材料についてのものかはよくわからない。

【分布の概要】

【県内の分布】

東：18 田原西部で記録されている(小林 2010, 2012)。2007 年 5 月に撮影されたという写真も掲載されている。

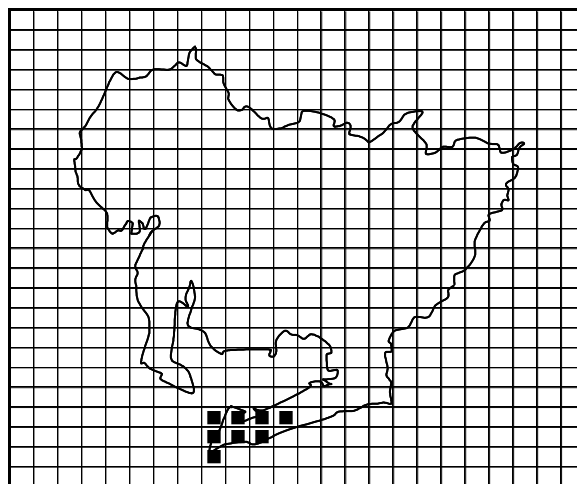
【国内の分布】

本州(中部地方以西)、四国、九州、琉球。紀伊半島南部まで行けばそれほど稀でない種類である。

【世界の分布】

日本固有種。

要配慮地区図



【生育地の環境／生態的特性】

暖地の海岸近くの林縁などに生育する。愛知県の自生地は、「常緑樹林の中のギャップ」と記述されている。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林		○		
草・岩				
湿地				
水域				

【現在の生育状況／減少の要因】

「群生」と記述されている。

【保全上の留意点】

現地の状況を見ていないので、よくわからない。一般的には攪乱地に生育する植物なので、遷移が進行すればやがて消失すると思われるが、その一方で他の場所に出現する可能性もある。

【特記事項】

オオフユイチゴ *R. pseudo-sieboldii* Makino は茎葉が本種とフユイチゴの中間のような形状をしている植物で、愛知県では 13 豊川、14 蒲郡、15 豊橋北部、17 田原東部、30 岡崎南部、36 西尾南部に生育している。この種は、2001 年版では準絶滅危惧と評価したが、確認自生地が増加し、2009 年版ではリスト外になった。

【引用文献】

小林元男. 2010. 第 7 章第 2 節 愛知県の絶滅危惧植物. 愛知県史編さん委員会(編), 愛知県史別編自然 pp.574-596. 愛知県.
小林元男. 2012. 愛知県樹木誌 p.620. 自刊.

【関連文献】

保木本 II p.79-80, 平木本 I p.207, 平新版 3 p.47.